

第7期スマートクルーズ・アカデミーレポート



平成27年6月24日～28日

＜神戸⇒釜山⇒神戸＞

4泊5日at ダイヤモンド・プリンセス＞

主催:大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室

共同企画:全国クルーズ活性化会議(研修クルーズ)

クルーズ・アカデミーの概要

第7期 スマート・クルーズ・アカデミー 2015年第2弾

＜神戸⇒釜山＝神戸＞ 4泊5日

「ダイヤモンド・プリンセス」

＜全国クルーズ活性化会議ジョイント企画＞



大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室・全国クルーズ活性化会議 ジョイントクルーズ体験企画



乗客定員	2,670人	全長	290m
乗組員数	1,100人	全幅	37.5m
総トン数	115,875トン	船籍	英国
巡航速度	22ノット(41km/h)	建造年(改装年)	2004年(2014年)



スマートクルーズアカデミーの趣旨

★学生の論理的思考向上の場

船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上の素晴らしい環境で、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内、寄港地にて国際感覚のより一段の向上を図る。

★クルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場

大学生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成する。体験を踏まえて、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光のあり方を議論し、自由に事業・政策提案する。

大阪発		スケジュール	入港	
1	6月24日(水)	神戸	午後乗船	
2	6月25日(木)	クルージング	—	
3	6月26日(金)	釜山	8:00	
4	6月27日(土)	クルージング	—	
5	6月28日(日)	神戸	午前下船	

スマート・クルーズ・アカデミーの詳細スケジュール

No.	Date	寄港地	Time	スケジュール	会場(予定)	設備		
1	6月24日 (水)	神戸	14:00	★神戸クルーズターミナル集合				
			14:30	★開催挨拶(カーニバルジャパン木島社長・神戸港振興協会専務理事 花木草様)				
2	6月25日 (木)	クルージング	14:40	★乗船手続き開始				
			16時ごろ	★避難訓練(ボートドリル)あり ※救命胴衣着用				
			17:00	出港(岸壁に手を振りましょう!)				
			17:20	★RECEPTION前に集合(船内見学ツアー)				
			18:15	☆自由参加:スポーツテックでバスケット(夕陽を見ながら日没まで)!(船内見学ツアー終了後)				
			19:45	★夕食				
			22:00	歌のショー				
			終日	クルージング				
			8:00	☆自由参加:朝のジョギング(プロムナードテック DECK7 中央エリア)				
			8:30	各自朝食(ホライゾンコート テック14 前方 または、レストラン)				
9:30	★スマートクルーズアカデミー「働いている人が長期休暇を取りやすくなるための仕組みとは？」 クルーズブローカー打ち合わせおよび自治体担当者へのヒアリング	9:30-12:00 Skywalkers (Sky Deck)	プロジェクター スクリーン マイク					
11:00	終了							
			セミナー終了後各自自由昼食					
			★全員参加:吉田兄弟による津軽三味線のスペシャルライブ	Princess Thater				
			適宜 自由行動(プール・ジャグジーなど)					
			15:30 ★アフタヌーンティー体験(レストラン)					
			16:30 ★貸切 Welcome Party	16:30-17:30 Wheel House Bar (Promenade Deck)	One Drink by CJ			
			17:30					
			19:45 ★夕食(フォー・マルナイト)					
			22:00 プロダクションショー(ダンスしたい?)					
			23:00 アトリウム前で記念撮影					
3	6月26日	釜山	7:30	各自朝食(ホライゾンコート テック14 前方 または、レストラン、または、ルームサービス)				
			8:00	★学生クルーズブローカー発表 「働いている人が長期休暇を取りやすくなるための仕組みとは？」 指導担当: 橋本浩幸(兵庫県立大学准教授)・倉本宜史(甲南大学講師)	8:00-10:00 Skywalkers (Sky Deck)	プロジェクター スクリーン マイク		
			10:00	終了				
			10:30	ロビーに集合して下船				
			17:00	出港				
4	6月27日 (土)	クルージング	19:45	★夕食				
			22:00	プロダクションショー(ピアノマン)				
			終日	クルージング				
			7:30	☆自由参加:朝のジョギング(プロムナードテック DECK7 中央エリア)				
			8:00	各自朝食(ホライゾンコート テック14 前方 または、レストラン)				
			9:30	★スマートクルーズアカデミー「港湾他インフラの機能強化と交流拡大による地域活性化」 木島社長講演+参加港湾フラッシュトーク + パネル討論	9:30-11:30 Skywalkers (Sky Deck)	プロジェクター スクリーン マイク		
			11:30	終了				
						セミナー終了後各自自由昼食		
						適宜 自由行動(プール・ジャグジーなど)		
						15:30 ★アフタヌーンティー体験(レストラン)		
			適宜 自由行動(ジョギング、音楽鑑賞、ACTIVITYなど)					
			16:30 ★貸切 クルーズ体験報告会	16:30-17:30 Wheel House Bar (Promenade Deck)	Drink by own			
			17:30					
			19:45 ★夕食					
			21:45 マジックショー					
			22:15 バルーンドロップパーティー					
5	6月28日 (日)	神戸	6:00	神戸入港 着岸後下船 解散				

■ INDEX

第1部 <乗船前と乗船時の感想>	1
(1) 申し込み	1
(2) 事前のクルーズ説明会などでクルーズの概要を知った!	5
(3) クルーズ客船が目の前に見えた!大きさに驚きの連続。期待感が膨ら む	9
(4) 乗船直後の感動	13
第2部 <クルーズ船>	17
(1) 船内施設 (ハード面) の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)	17
(2) 船内サービスの感想(食事・レストランサービス・アフタヌーンティー・ ピザ、アイスクリームバー、バーガー、ピザ)	21
(3) 船内サービスの感想(SHOW, エンターテイメント)(吉田兄弟による津軽 三味線のスペシャルライブ、プロダクションショー、マジックショー、 落語)	26
(4) 船内サービス・施設の感想(スポーツActivity・体験型イベント(ビンゴ、 オークション、バルーンドロップ、ダンスなど)	31
第3部 <各港での対応>	36
(1) 神戸港での乗船時対応の感想	36
(2) 韓国釜山での下船・乗船時・シャトルバス対応についての感想	39
(3) 神戸での下船時の対応についての感想	42
第4部 <寄港地の魅力>	45
(1) 寄港地としての韓国釜山の魅力	45
第5部 <スマート・クルーズ・アカデミー>	49
(1) スマート・クルーズ・アカデミー発表大会<働いている人が長期休暇を 取りやすくなるための仕組みとは? >(事前準備から、発表までの感想)	

.....	49
(2)スマート・クルーズ・アカデミー発表大会<働いている人が長期休暇を 取りやすくなるための仕組みとは？>に対する提言(各班の発表を聞いて の感想と提言)	54
(3)クルーズ活性化会議ディスカッション「港湾他インフラの機能強化と交 流拡大による地域活性化」の感想<木島社長講演・自治体のプレゼン・ パネルディスカッションへの感想>	59
(4)スマート・クルーズ・アカデミー・スポーツ編(スポーツACTIVITY(ジョ ギング、バスケットボール、卓球、プール、ジャグジー、泉の湯など) について)の感想	64
第6部 <地域活性化・クルーズ振興>	69
(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(港湾関係者の発 表や船内での関係者との議論を踏まえて)についての感想(国・自治体 政策のあり方など)	69
(2)クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしに 向けての若い世代からの視点)	75
第7部 <まとめ>	82
(1) クルーズ全般への感想、将来に向けての感想など	82

第1部 <乗船前と乗船時の感想>

(1) 申し込み

- ・ そもそも「船に乗って旅をする」という経験がないので、クルーズ客船の中がどのようなになっているのか、どのような施設が揃っているのかなどの情報がほとんどない状態である。その分好奇心も含めてクルーズ客船での旅がどういうものになっていくのかが本当に楽しみである。船の規模やどのくらいの人数を収容できるかなども気になる。学べることは全て吸収したい。
- ・ クルーズ＝富裕層のレジャーという印象で、大学生のうちにそのような経験ができることに、すごくワクワク。他の大学生にはめったに経験できないであろうという優越感もある。
- ・ リッチなものだと思っていたクルーズに本当に乗れるのだという期待感、個人的に初海外なのでそれに対するわくわくが大きい。しかし正直なところ自分のような旅行経験も少ない、ただの大学生がクルーズ船に乗り込んでもいいのか、浮いたりしないかが心配。一日中クルーズの中にいると飽きたりしないのだろうか？全体的には期待度は非常に高いので船内をくまなく探検してみたい。
- ・ 定年した後にも一生に一回乗ることができたらいいと夢見ていたクルーズ船にまさかこんな人生の序盤で乗ることになるとは想像だにしていなかったので、信じられない気持ちでいっぱい。クルーズに対しても本の中の存在でしかなく、本当に漠然と豪華絢爛で夢のような場所なんだろうとふわふわとした憧れと期待を募らせて六月末に早くならないかとそわそわ。
- ・ 自分がこれまでクルーズというものに無縁だったこともあり、欧米の上流階級の人が多く利用していて、よほどお金に余裕がある人だけの贅沢というイメージがとても強い。船に乗るとなるといつも船酔いが心配なのですが、クルーズではそんなことを心配する必要なく楽しめるということが何よりうれしい。クルーズと言うと、その船の中に何でもそろっている！という期待があり、屋外プールには絶対に入りたいですし、何でも好きなものを好きな時に食べようと思っています。



- ・ クルーズという言葉から想像されるのはまず高級感というイメージです。やはりクルーズにはある程度のお金と時間を持った人が優雅に楽しむものだという印象があります。そんなクルーズに乗ることが出来るということで、海を眺めながら、普段はできないようなゆっくりした時間（具体的に言うと、読書や、海を眺めながらおしゃべりするなど）を過ごせたらよいなあ、と思います。
- ・ 自分のなかでクルージングのイメージは映画のタイタニックのイメージしかないので、あのような華やかな雰囲気を自分が体験できるかと思うと乗船を待ちきれない気持ちでいっぱい。
- ・ クルーズというものには、資産を多く持っている高齢の方がよく利用されるイメージが強くあり若者には遠い存在であるというイメージを持っています。また、今回クルーズに参加させていただくにあたってそのようなイメージが本当に正しいのかどうか考えさせていただきたい。
- ・ 時間とお金に余裕のある人たちの遊び、という感じ。外国人のお客が多そうで、日本人にはあまり馴染みのないもののようにも思います。クルーズでは、ショッピングやプールに入ったり、またディナーなどを楽しんだりしたい。
- ・ 昨年ボイジャー・オブ・ザ・シーズでの研修に参加させていただいたので、今回のダイヤモンド・プリンセスとの違いはどこにあるのかが気になる。
- ・ 落ち着いた大人の船ということで、ショーの内容もバラエティがあれば楽しいな。また、おいしいお料理を食べられると聞き、毎日のディナーが非常に楽しみ。
- ・ 昨年ヴォイジャークルーズに参加したこともあり、申込時の興味はクルーズへの乗船それ自体ではなく、船内設備やアクティビティーなど、プリンセスクルーズの独自色にある。「クルーズ」とひとくくりに言っても期間の長さ、寄港地は異なってきます。加えて、プリンセスクルーズの高級感であったり、日本生まれの船としての特徴など、ダイヤモンド・プリンセスに乗ることでは味わえないクルーズに期待を抱いている。
- ・ 昨年クルーズ船に乗った際、日常とは隔離された豪華絢爛な空間で夢のような時間を過ごすことができたため、今回もそのような経験ができることを楽しみにしています。寄港地での観光はもちろん、船上での体験が非常に印象に残っているため、今回もすべての施設を体験したいと思っています。
- ・ 去年もクルーズ船に乗船していたので、去年ほどのワクワク感はありませんが、今年はダイヤモンド・プリンセスに乗るということで、去年のボイジャー・オブ・ザ・シーズとどのような違いがあるのかと考えて期待を膨らませています。イギリス船籍らしいのでフィッシュ&チップスなどが食べられればよいなと思っています。
- ・ 私は、昨年度ボイジャー・オブ・ザ・シーズに乗船していたため、船会社が違うダイヤモンド・プリンセスに乗船するにあたっては、船内の雰囲気の違いを楽しみにしていた。事前に上品な雰囲気の船だと聞いていたので、どう違うのかを体験して

みたいと思っている。

- 昨年度、別のクルーズ船を経験しているため、①日数の違い②寄港地の違い③時期の違い④価格帯の違いといった点による客層やサービス、満足度などの差異に関心を持っている。また、4月にソウルを訪問しているので、ソウルと釜山の違いも意識したい。
- 昨年の9月に乗った船もプリンセスだったので、雰囲気などはそんなに変わらないだろうと思う。食事に関しては、安心感がある。昨年あまりアクティビティを楽しめなかった分、今年はいっぱい遊んでやるぞという気持ち。
- 私は、船といえば、たこフェリーと旅行で宮崎に行く際にフェリーに乗ったことしかなく、クルーズが初めてだったのでとてもわくわくしていました。また、クルーズっていうものにイメージがわからず、去年参加した先輩も「楽しかったで、行くべき」って話されていたのでとりあえず楽しそう！
- 乗り物酔いがひどいため、船の上で何日間も過ごすのが体調の面で不安。またいくら大きな船だと言っても、4日間も船の上だったら飽きてしまうだろうなという気がしています。クルーズでは他大学さんとの交流の場として、プレゼンテーションに力を入れていこうと思います。違う学校の人と作業をするのは初めてなので、一緒に学べるのがとても楽しみです。
- 説明会で今回のクルーズの概要を知るまで、クルーズなんて自分とは縁のないように思っていました。お金持ちの人たちが楽しむイメージでした。特に学生の旅行はいかに安く、限られた時間を最大限に楽しむかを重視し夜行バスの利用などが多いように思うので…。
- 自分が乗るとなると船内での英会話やドレスコード、アカデミーなどワクワクよりも不安が大きいです。
- クルーズというものしっかりと理解する以前は、「クルーズは豪華」「乗っている人は上品」といったプラスイメージと「電波がなさそう」「ひとつひとつが高そう」というマイナスイメージがある。そういったクルーズに大学生である私が参加できることがとても幸せで、クルーズではまず豪華客船の設備をたくさん利用して、普段味わえないようなことを体験して大学時代を振り返った時に、「このクルーズに参加してよかった」と思えるような中身の濃い5日間にして大学に帰りたい。
- これまでクルーズどころか海外に行った経験すらないため、外国船ということでスタッフなどは基本英語であることや周りの乗客も外国人が多くいることはまったく想像もつきません。しかし、去年クルーズに行った先輩の話を知ったり、船の情報を見るたびにこれまで経験したことのない世界であるので楽しみです。ただ、英語が僕は苦手なのでそこは不安です。
- クルーズということ自体が初めての経験だったので、想像は全くつきませんでした。インターネット等を通じて、ダイヤモンド・プリンセスの体験記などを見て、

期待を膨らませています。クルーズでの食事や、ウェルカムパーティーなどが特に楽しみ。

- 大きい船で船内も綺麗だと想像していますが、どんな施設があるのかわからない。クルーの人が外国人だと聞いたので英語がちゃんと話せるか不安ですが、積極的に話していきたい。
- 先輩の話聞く限りとても楽しそうだし、他校との交流もあって良い経験にもなると思い参加しようと思います。ゼミでのアクティビティにも積極的に参加するよう心掛けていたので、参加しよう決めました。
- 私が考えていたクルーズのイメージは、今回の企画とは真逆でした。具体的には、高級で、滞在日数も長期でご年配の方が優雅に過ごしてるイメージでした。しかし、今回先生からお話をいただき、一日当たり約1万円と考えると安いのではないかと思います、十分支払う価値はあると思えました。今回のクルーズは、阪大、県大、甲南が合同ということもあり、他大学の方との交流をし、互いに高め合っていきたいと思い参加しました。
- 乗船前、私は豪華客船とはどのような物なのかと、興味津々である。外国人のバカンスの様子を見てみたい、船のプールで泳ぎたい、何よりも、様々な美味しい料理を食べたい、と思っている。
- クルーズに乗る前は、クルーズで休みを楽しもうという概念がありません。今回乗れることになってどんな船に乗れるのかとても楽しみ。イメージはとても高く私たちのような学生が乗れるものではないという思いがあります。セレブの方や老後の楽しみとして乗る方が多いのではないかなというイメージ。
- 去年の秋ごろ、クルーズの内容を聞いたときは『船で1週間も生活できるのだろうか、暇なのではないか』と思っていたので、あまり興味が湧かなかった。しかし、ご飯が(ほぼ)無料で食べられること、釜山に観光に行くと聞き興味を持った。
- 自分自身クルーズに乗ったことがなく、周りに乗ったことのある人がおらずあまりクルーズの事が分かりません。船にもあまり乗ったことがないので船酔いをしないかとても心配。しかし、少し話を聞いたところ、船の中にいるのに船の中にいないような気がするほどすごいとの事なので全く経験したことのない世界を早く体験したい。
- ディズニークルーズ特集の番組を見たことがあり、クルーズ船には前から興味がありました。昨年、先輩が参加されていて、そのときのお話も聞いていたので、今回クルーズ体験できることが、とても楽しみです。
- クルーズは値段が高く、裕福な人が乗るものというイメージ。私は今まで船に乗ったことはあっても、こんな豪華な船には乗ったことがありません。そのため、船内でのイベントがどのように行われるのか、どんな料理を食べることができるのかがとても楽しみです。

- ・ 申し込みの際、倉本先生からプリンセスクルーズの写真を見せていただきました。プールやデッキ、アトリウムが非常に豪華で、それを見ただけでとても参加したいという気持ちになりました。また、お話を伺っていると、食事は基本的に食べ放題で毎晩ショーがあり、ドレスを着て参加するパーティもあるとの事で、本当に楽しみで仕方がないです。クルーズに乗ったら、食事はもちろんショーやダンスパーティ等普段の日常生活では体験した事のない経験を全力で楽しみたい。
- ・ クルーズは費用が掛かるが、それ相応の豪華さや優雅さがあるイメージがあり、とても楽しみ。費用が掛かると考えていたので、高齢の方々が多く乗船しているイメージもあります。プールなどの多くの施設が設備されていて、いろいろ体験できるものと思ってます。クルーズに乗る時は、ショーやプールあるもの全てを楽しみたい。

(2) 事前のクルーズ説明会などでクルーズの概要を知った！

- ・ 説明会でVTRを見させてもらったが、予想していた以上に船の中が豪華で驚いた。毎日イベントが多々あり、食事面も充実しており、楽しく利用できる施設も数多くあって、船の中にいるとは思えないような世界観があるのだと思う。船の中ではクレジット機能を有したカードを利用して買い物をしたり、身分証明をするということで、外国にいるような感じになっていくのだろうとイメージしている。



- ・ イメージ通りでしたが、船内の施設を見て、乗船する際のより具体的なイメージをもつことができました。食事についてであったり、プールやジム、船内でのイベントなど、楽しめる要素がたくさんあることに期待が高まっている。
- ・ クルーズ船紹介のVTRを見ると、思っていたよりももっと豪華で様々なアクティビティが用意されているみたいで俄然楽しみになった。カジノがあったり、支払がすべてドル単位だったり、外国籍の船は本当の外国のようなのだとわかり驚いた。テレビの取材映像を見ていると、さらにクルーズのゴージャス感が伝わり、楽しみが倍増した。
- ・ クルーズ客船のビデオをみて自分の予想をはるかに超えた場所などということに改

めて気づいた。もはや船ではないのではないかと、陸でもこれほどまでに充実した場所はないのではないかと思わせるほどこの時に自分が感じた。また自分の身分相応を超えたクルーズ船ですごくするためにマナーや服装や自分がこのクルーズで何を達したいのかなど十分に事前準備をすることで、最大限に楽しみたいと決意。

- ・ まずクルーズが産業として確立してある、というか、クルーズ業界というものがあつことを初めて知りました。日本でも船が作られていることも説明会まで知りませんでした。また、船内の施設などどれも似通つてものばかりで、中年以降向けのものだと思つていましたが、アクティブなアミューズメントをそろえた若年層向けの船もあるとわかり、説明会を受ける前までの、「上流階級の贅沢」というイメージよりも少し身近に感じることができました。
- ・ クルーズといえば優雅なイメージ。また、小学1年生のときに、ぱしふいっくびいなすで屋久島に行ったときには、特にやることもなく、暇を持て余していた記憶があります。そのため船内では静かにするものだというイメージだったのですが、事前のクルーズ説明会でクルーズの概要を聞き、思つていた以上にアクティブな旅程になるのかもしれない、と感じています。
- ・ パンフレットが配布されシアターやプール、カジノなどがあると知り、想像以上の豪華さのあまり自分なんかは本当にこの船に乗つてもいいのかと少し困惑している。
- ・ クルーズ説明会の以前は、船内のアクティビティには高齢の方を対象としたものが多いと思つていました。しかし、ジムやプールなど若年層を対象としたようなものが多くあると知ることが出来、クルーズ船が若年層にも開かれたものであるということを理解しました。
- ・ 意外と費用が高くなく、プランなどを工夫すれば、短期間でも行くことが出来るうえ、低コストに抑えることもできるのだと知り意外。それゆえ、時間に余裕のある中高年齢層だけでなく、私達のような若い世代でもある程度気軽に利用することが出来るのかなと感じます。
- ・ 日本生まれの英国船と聞いて、船内のサービスのクオリティへの期待がより大きく膨らみました。
- ・ 見せていただいた映像で、ディナーの料理がフランス料理のような高級な雰囲気を出しているものばかりで、期待が膨らみました。加えて船内の大浴場にもぜひはいつてみたいです。
- ・ 昨年のヴォイジャーはカジュアル船ということもあり、多様なアクティビティをはじめ娯楽を積極的に提供する船自体がテーマパークのような印象でした。事前の説明会では値段・設備ともに高級感を出した点が言及されていしたので、ゆったりした休日の印象を受けました。そこで、休暇としてのクルーズを念頭に入れた船内の過ごし方を、昨年の経験も踏まえながらカジュアル船とプリンセスクルーズの体験から印象を比べてみたい。また、今後のクルーズ界の日本市場展開のため、一日

本人としてはどちらがあっているかも評価したい。

- 今回のDiamond Princessからはとても上品な印象を受けました。より洗練されたサービスが受けられることを楽しみ。アイスクリームやピザがいつでも好きなときに食べ放題ということで、毎日通いつめたい！
- 去年は部屋に窓がなく、だいぶ圧迫感を感じながら部屋での時間を過ごしていたのですが、今回は四人部屋ながらも、海に面した窓があるということで、去年よりは部屋での時間を快適に過ごせるかな。また、今回は前回の船よりもアミューズメント施設が少ないのかなとも感じたので落ち着いて船内での時間を過ごせるかな。
- 船内のアクティビティーの内容であったり、食事の後にイベントが行われるという点は、ボイジャーと共通なのだなと感じる。説明会に参加して、ダイヤモンド・プリンセスが日本で建造されたこと、イギリス国籍の船であることを始めて知った。それによって、日本人にとって心地のよい作りになっているのだろうか、またイギリスらしい作りになっているのだろうか、という期待が新たに湧いた。
- 昨年度も乗船経験があり、クルーズの概要をすでに知っているため、大きな印象の変化はない。昨年度の自分の感じた事、考えたことや思い描いていたクルーズ像を思い出しながら、今年度のクルーズには去年を超えるような素晴らしい経験が待っていることを期待している。
- まずはスケジュールを聞いて、今年はアクティビティも十分楽しめそうだなと感じた。また、アカデミーの内容に関しても、議論しがいのある面白そうな内容だと思った。プレゼン大会では優勝を狙っていくぞという気持ち。
- 「せやねん」のクルーズの特集の映像を見て、船の大きさと船内のアクティビティに驚きました。船の中にプールやビュッフェ、カジノなどの施設があり、とても優雅だなあと思いました。また、こんなに魅力的な船に安く乗れるのはとてもラッキーだと思いました。早く乗りたい気持ちでいっぱい。
- コートやプール、カジノに劇場。思っていたよりもたくさんの娯楽施設があって驚いています。説明会で見たビデオは実際のイメージがとても掴みやすく、キラキラした船内の様子を見て飽きてしまうのではという不安はなくなりました。船内の食べ物もとても美味しそうです。なるべくたくさん食べたい。
- 説明会に参加し去年の先輩方の写真を見せていただくと先生方含めてみなさん本当に楽しそうで少し不安はなくなりました。また国別のクルーズ人口の話などを聞くとお金持ちの人が楽しむというイメージに加え、時間に余裕のある人でないと利用は難しいというイメージを持ちました。日本は国際的に見ても経済的に余裕のある人は多いと思うのでやはりここがポイントなのだと思います。せっかくの機会なのでみんなと楽しい思い出を作りたいなと説明会の後はとても楽しみになりました！
- 豪華客船というものは硬派なイメージがあり、所得が高くて余裕がある人というこ

とから利用者は年配の方と考えていたため船内に娯楽施設がたくさんあるということは考えていませんでした。また、安価で参加可能なクルーズがあるという話を聞き、とても意外でした。クルーズというで一週間で30万円前後はするのではないかと考えていましたが、10万円前後でいろいろな地に行くことができ、また荷物を一緒に移動しなくて済むので本当に素晴らしいなと思いました。早く乗船して船内を探検したいという気持ちが強かったです。

- ・ 申し込みの段階では、去年の話を少し聞いたぐらいだったので漠然としたイメージしかわからなかったのですが、実際の映像を見たり船でどのようなことをするのかを見ていて以前よりはイメージもつきやすくなりました。映像を見て想像以上に豪華な船でこれまで以上に楽しみ。それでもやっぱり全然知らない世界なので実際に行ったらどんな感じなのか不安も。
- ・ クルーズ説明会に参加することができなかったのですが、友人からビデオを見たところ、予想以上に良さそうだったという感想を聞いて、さらにクルーズに対する期待が高まりました。
- ・ 船内の様子を動画で見て、想像を超えた広さと施設の数に驚き。
- ・ 街のショッピングモールのようなものもあって、本当に船？
- ・ 船特有の揺れもほとんどないとのことでしたが、本当に揺れないのか心配。
- ・ 期待以上に船の中が豪華で様々な施設やイベントがあって、今までの不安がなくなりました。逆に楽しみになって、早く乗りたくなりました。ご飯やスイーツがとても楽しみです。
- ・ マスメディアに取り上げられているイメージほど高級で敷居が高すぎるものではないのだと感じさせられました。また、船内でアルコール類以外は一切お金がかからないというのは金銭面的では計画が立てやすいと感じました。そして、思ってもみなかった、様々なアクティビティ（ジム、プール、カジノなど）の多さに驚き。
- ・ 飲料はベーシックな物以外、有料と言うことに少しガッカリ。バスタオルやパジャマが不要なことが、良い。また、基本的にフォーマルな格好限定だと思っていたため、日中カジュアルな服装で良いことに安心。SHOWや三味線など、イベントがあることに驚いている。
- ・ 私たちが乗る船よりもさらに大きな船があるんだ。プールやカジノ以外にもロッククライミングできる船があったり、免税店がたくさん入った船があったり船がいろんな船があるんだな。私たちの乗る船はどんな船だろう早く乗りたいなー。
- ・ まさかこんなに大がかりなものだとは知らなかったのでもったいな。日本に頻繁にクルーズが停泊していると知らなかったし、一つの船にこんなにも楽しいアクティビティがあるとは思わなかった。
- ・ 実際に、説明会に参加してみてクルーズのすごさを少し理解。ダイヤモンド・プリンセスが初め想像していた船の大きさを超える大きさで驚き。また、マジックヤシ

ョーもあり、プールもあるそうなのでとても楽しみ。ドレスコードがあるのも少し大人な気分。

- ・クルーズは意外と安いことに驚きました。そして、船内でのアクティビティーやお食事もほとんど無料だと知り、これまでクルーズは裕福な人の娯楽だと思っていましたが、そのイメージが大きく変わりました。また、船の大きさや船内の広さも実際に行ってみなければわかりませんが、想像以上の大きさだろうととてもわくわく。
- ・今回の説明会で、昨年のクルーズ時の写真をみたことによってイメージを持つことができました。その日のディナーに合わせて洋服を変えたり、毎晩ショーが行われることを知り、現実から離れてクルーズを楽しむことができそうだという印象を持ちました。船内の施設もたくさんあるので、いろいろな体験をしたい。
- ・私の中でクルーズというのは、値段が高い上にずっと同じ船の中で退屈という印象。でも勉強会を通してクルーズの話を知ると、乗客が飽きないような工夫が沢山施されていて(例えば、ショーやダンスパーティ等のイベントや食事も毎日メニューが変わったりなど)、また飛行機等で行く旅行と比べてもリーズナブルな値段で行けるんだという事がわかりました。揺れもそんなに酷くないみたいで安心。
- ・クルーズの概要を聴いて、食べ物ほとんど無料ということに驚き。クルーズの雰囲気はゆったりしているのだろう。しかし、それぞれ楽しんでいる学生の写真をみると、早くクルーズ船に乗りたい！

(3) クルーズ客船が目の前に見えた！大きさに驚きの連続。期待感が膨らむ

- ・クルーズ船が視界に入った。VTRで見た印象や自分の中でのイメージとはスケールが全然違う！このような豪華客船に大学生のうちから乗ることができるとは！普段できないような経験をこの船の中で精一杯満喫しよう。
- ・いよいよ乗船だ！というドキドキと非日常の体験が始まる。船の容姿だけでなく、チェックインをしようとする方の多さにも今回のクルーズの規模の大きさをひしひしとを感じる。
- ・ポータライナーに乗って乗船所まで行く途中に突如出てきたクルーズ船を見て、思わず感嘆の声。とにかく、思っていたものよりはるかに大きく、乗船する人の数も想像以上で驚き、窓の数も数えられないくらいあって全体的にきらきらした雰囲気。



- みんなと集合写真を撮っても、フレームに収まりきらないサイズ感が印象的。
- ・ 初めてクルーズ船が見えたのはポートルライナーの中。普段は大きな声を出さない自分だがクルーズ船のあまりの大きさに声をあげた！もはや船ではなく海上に浮かぶホテルかビルかと思わせるほどの巨大さ！自分の想像をはるかに上回りただただ心を打たれている。このような船がこの世にあるのかと感動し世界のすごさや広さを感じて、今まで知らなかった新たな世界を知ることができるという思いがこみ上げてきている！
 - ・ 私は今まで一番大きくても博多～壱岐対馬間の客船のフェリーにしか乗ったことがなかったので、すごく大きいということはわかっているけど、初めて見て本当に圧巻。シロナガスクジラと出会ったときってこんな感じなのでは！目にするだけでも貴重な機会だと思うのに、それに今まさに自分が乗り込むということを考えると、ゴージャスさが夢みたい。
 - ・ 率直に言うと「大きい」、この一言に尽きる。窓がたくさんあって、まさに動くホテルといった感じ。これからこの船内で宿泊するのかなと思うと、わくわくが止まらない。
 - ・ 思った以上に大きくて、本当にビルが横たわっているよう！こんなに大きな船が水のうえに浮いているなんて信じられない！船の写真を撮ろうにも大きすぎて全体をおさめることができない！
 - ・ ダイヤモンド・プリンセスを目の前にして、圧倒的なスケールに驚き！また、同時に船室のバルコニーが見え、この船が豪華なクルーズ旅行のための船であることを改めて実感。
 - ・ 真横で見るとやはり巨大！また部屋数の多さが外からもみてとれて、これが海の上を進むのかと想像すると不思議！
 - ・ 大きさは前回のVoyagerの方が大きかったのですが、テラスが側面一面にあることやジンベイザメのような船の前の部分が特徴的。早く乗りたい！
 - ・ 外側に張り出したバルコニーが目立ち、客室設備が充実している印象。
 - ・ 規模としては大型船として目を見張るものがあったが、昨年アジア最大のクルーズ船を目にしたこともあり、やや小さく感じる。
 - ・ チェックインは昨年と異なり、事前のwebチェックインをしなかったのがカード登録手続きがあったが、乗船までの時間は大きくは変わらなかった。乗船手続きでは日本語スタッフも充実しており、一般客も円滑に乗船できていた印象。
 - ・ やはり大きさには驚き。こんな巨大な建造物のような船に乗船するのだというワクワク感でいっぱいです。私の好きな映画の一つ、タイニックでは期待に胸を膨らませた人々の姿がありありと描かれています。私もまさにそんな気分です。
 - ・ 去年のボイジャー・オブ・ザ・シーズより少し小さいと聞いていたのですが、実際に停泊している姿を近くで見ると、やっぱりかなり大きいなと感じています。MERS

の影響で少し乗客が減っていたりするのかなと思いましたが、チェックインを待っている列を見るとそんなに影響はなさそうだなと感じています。

- 昨年乗ったものの方がサイズとして大きいのはわかっているものの、非日常的なスケールの大きさに圧倒されている。また、クルーズのシルエットがボイジャーと大きく違ったので、そういう違いを探して楽しめている。
- バルコニーが目立つ。昨年度よりは少し小ぶりなものの、豪華客船の様相を強めたような印象。客層は相変わらずマダムが多いという印象 だが、その中にも若い世代が時頼みられる。見た目から、20代後半から30代前半あたりであり、仕事に慣れてきたものの、まだ結婚しておらず、休暇を取って旅行に行きやすい年代なのだろうか。
- わくわくする！去年とはメンバーも異なるし立場も違うので緊張はするけれども、またこの大きな船の中でどのような楽しい出来事が起こるのか楽しみだし、ハードスケジュールの中でも絶対にすべてのプログラムを楽しんでやるぞ！という気持ち。去年乗ったサン・プリンセスよりも大きいという話だったが、見た感じにはその大きさの違いがわからない。
- ポートターミナル駅を降りる時に大きい船が見えて、これが自分たちがこれから乗る船なのかと思ってうれしくなって友達とはしゃいでいる。想像していたよりもかなり大きい。キャリーケースを持っている大勢の一般の人が同じ駅で降りていたので、クルーズの旅が始まるという実感がわいてきてドキドキ！
- こんな大きな船を見る事は初めて！こんなに大きな船なのに、何度か神戸に来ていた事に気が付かなかったとは・・・。この船ならば揺れも少なく、乗り物酔いも心配する事ないだろうなと思ひ、安心。
- どれほどの大きさの船かは事前に聞いていましたが実際に目の前で見ると一つ一つのバルコニー側の部屋が見ええるだけで、全体像がわからないその規模に驚き。まさに”豪華客船”といった感じ。いよいよ自分たちが乗船するのかと本当にわくわく。
- 梅雨の6月というなか、じめじめとした暑さの中三宮からポートライナーでポートターミナルへ向かう時に、見えてきたのはとても大きな船で想像を上回るような大きさ。この船に乗れるのかという高揚感とパスポートや乗船チケットは忘れていないかという不安感。これから5日間素晴らしいものにしようという思いが強くなってきている。
- 集合の前に初めて日本円から外貨に両替をしていよいよ行くんだと実感がわいてきている。そこから集合場所の駅に向かう電車から船が見えたとき、大きいことは知っていたけど想像以上に大きく、驚くのと同時にテンションもすごく上がってしまった。それからチェックインをするまで時間があつたけれど、ずっと興奮しっぱなしでもう乗船の手続きはおわろうとしている。

- ・ 自分が予想していたよりもはるかに大きくて驚き。チェックインを早くすませて早く船内に入りたいという気持ちでとてもワクワク。
- ・ 車で港に向かっているとき、視界に入りきらない船の大きさにびっくり。
- ・ 今からこの船に乗れると思うとわくわく。
- ・ ほかのお客さんの人数も多く、この人数が乗れるのか〜。
- ・ 想像以上に船は大きくて、驚き。チェックインまでもスムーズだし、入国審査も簡易的でとても楽。早く出発したくてうずうず。
- ・ 見た人にしかわからない大きな船だ。
- ・ 声が出るほど、興奮中。日本にこんな船が止まっていることに驚き。自分が今からこれに乗ると考えるだけで、優越感！
- ・ 目の前に船が見えたときは本当に驚き。想像していたよりもすごく大きくて、これからこの船に乗るのだと思うとワクワクした気持ちでいっぱい。カメラで船の写真を撮ろうとしたが枠内に収まりきらない！船のスケールにみんなでびっくりして笑っている。こんなに大きな船があるんだと驚きの連続。
- ・ 船の乗組員が束の間の休息で寝ていたり、iPadで電話している。ほのぼの。
- ・ 赤井先生からクルーズのグループLINEに送られてきたダイヤモンド・プリンセスの画像を見てからポートルライナーに乗り、港に向かっていました。遠くからダイヤモンド・プリンセスを見て大きさにびっくり。乗船までの時間船の近くまで行き、みんな写真を撮ろうとしたけれど、あまりの大きさに何と写真を撮っているのか分からない状態。船の全体像を撮ろうとしてもあまりの大きさで画面に収まりきらない。この船の大きさを家族に伝えてあげたいけど、写真では絶対に伝わらない大きさ。
- ・ 実際にはとても大きく感じるのだろうと思っていましたが、本当にとっても大きい。写真を撮ろうと思っても、船が全部おさまりになくて、この大きさは目の前にしないとわからないな。
- ・ クルーズ客船は予想以上に大きく立派で、映画の中でしかみたことがないようなスケール。すでに乗船している乗客の方がデッキに出ているところを見て、とても優雅だと感じ、自分も今からこの船に乗るんだとワクワクした気持ち。
- ・ 船は思っていた以上に大きい。バルコニーが並んでいるのが港から見えて、この部屋の中のどれか一室が自分の部屋なのかと思うと早く船の中に入りたい。クルーズ客船が見えた時、こんなに大きいのかと驚き。チェックインを待っている今、今からとても大きい客船に乗るのかとワクワクチェックインを待つ列に子ども連れの家や、若い人達がいる！驚いています。

(4) 乗船直後の感動

- 船内の通路を進んでいき、到着する
ときれいな照明に包まれた豪華なロ
ビー。それと同時に生演奏、歓迎ム
ードでいっぱい。周囲には外国籍の
従業員、スタッフ、そして幅広い年
代の乗客。旅がいよいよ始まるのだ
という気持ち。先ほどまでいた国内
の様子とはまるで違った雰囲気、
異世界に来たような感覚！



- 最初に視界に入ってきた、吹き抜け
のところはその華やかさに驚き。これまでテレビやインターネットでしか見たこと
のないような光景で、船内にこれほどのものが作れるのかと感動。
- 船内に入ってすぐ、高級ブランドの免税店があり場違い感。ただ、乗ってくるお客
さんの中にはラフな格好の韓国人の団体がいたり、家族連れもいたので、思ってい
た客層とは違う人たちも（自分たち大学生も含めて）いるんだな。吹き抜けになっ
たロビーでは弦楽器の生演奏が当たり前のように行われていて衝撃的。
- 乗船してすぐに自分の目を疑ってしまった。これは本当に船の中なのだろうかと思
わず混乱。豪華で落ち着きのある内装に感嘆。吹き抜けや調度品の落ち着きや内装
のきらびやかさに思わず圧倒。船の中にエレベーターがあることが個人的に衝撃で、
まるで陸の豪華なホテルの中にいるかのよう。船の中であるにもかかわらず揺れを
ほとんど感じず、ゆったりとした空気が流れており心地良い。
- 船内のアミューズメントなどが充実していることに加え、内装などそれ以外の部
分は必要最低限な装飾かと思っていたので、ロビーを一目みて驚き。行ったことは
ありませんが、まるで一流ホテルみたい。階段や細かいところまで装飾が行き届い
ていて、部屋も船という限られたスペースを感じさせない空間。どこもかしこも高
級感にあふれていて、すごく特別な気持ち。
- 乗船していきなりロビーみたいなどころについてのは驚き。乗船するところは無機
質な場所だと思っていたので、乗船してすぐに豪華な場所についてのは驚き。船内
の豪華さも想像以上。自分は船内はきっちり階に分かれていて、天井もたいして高
くなく、低いのだろうと思っていたのですが、船内はきらびやかで、吹き抜けがあ
って、まさに豪華客船。
- 思った以上の豪華さでびっくり。特に吹き抜けになっている五階のロビーは船の中
とは思えない広い空間が広がっていて、まるで高級なホテルの中にいるよう。
- 事前には、大変豪華な船内であるとは想像していたが、実際に船内に入ってみると

- オーケストラの演奏がまず見え、想像を超えるような華やかで豪華な雰囲気。”
- 船内は、自分が以前に想像していたよりもはるかに豪華で、また気品があり、上品で落ち着いたホテルのよう。ひとたび中に入ると、まるで海上にいるようには感じられず、ほとんど揺れないし、部屋も狭すぎず、とても快適。
 - 乗船手続きがとてもスムーズですぐに船内に入れました。船内ではもうすでに楽器の生演奏が流れており、レセプションの前の吹き抜けたフロアと階段が高級感を醸し出しています。
 - 日本語を話すスタッフさんが多いです。
 - 内装は高級感にあふれ、一歩足を踏み入れただけで別世界に来たかのような印象。外から見ていた船の中にいるという実感が湧かない。乗船の時点で俗世から切り離される間隔は強烈。
 - ボイジャーに比べ、吹き抜けなどの解放空間は局所的であったため、街というよりはホテルのような印象。
 - 最初に目に飛び込んできたのは豪華絢爛な吹き抜けのロビー。これからこの場所で5日間過ごすことができると考えるとワクワク。部屋はバルコニー付きということもあり非常にゆったりとした優雅に過ごすことができそうな部屋。バルコニーで海を眺めつつゆったり過ごしたい。
 - 船内のきれいさは去年のボイジャー・オブ・ザ・シーズと同じくらいですが、去年のような大通りがない分、少し小ぢんまりしているなという印象。その分、バーやレストランなどが充実していて、大通りがない分船内をまわりやすく、やはりターゲット層の年齢が去年よりも高いのだろう。
 - ボイジャーをイメージして乗ったので、メインストリートがなかったのが意外。ただメインとなる吹き抜けがあって、演奏やイベントがあって、見ているだけでも楽しい。
 - 当然のことながら、船内の掃除は完璧になされており、設備も充実。昨年度の船はアクティビティ要素が多かったのに対し、今年度の船は様々なプールが用意されており、比較的船内でゆっくり過ごすことを想定しているよう。
 - やはり去年も感じた通り、海の上を動くホテル！内装はサン・プリンセスとあまり変わらない印象。『ただいま〜』という感じ。部屋は去年の二人部屋に比べて狭い感じがするが、バルコニーはとっても広い！
 - 船の中の内装がとても豪華で、入ってしまえば船の中にいるっていうよりは豪華なホテルに来たというような感じ。顔認証登録が終わると目の前に一気にクルーズの世界に。
 - ここはホテルかと驚き。たくさんのブランド店に、高い天井のロビー。船の上であることを忘れそう。部屋も想像よりずっと大きい。3人でもゆったり使えそう。廊下のランプや、階段の手すりなど細かい装飾まで豪華に作られており、ただ装飾で

キラキラしてるのではなくて、細部にまで気を使った調和を保った空間だ。

- クルーズカードで顔認証してもらいいざ船内へ入ると、天井や床、階段までもがキラキラしていて驚き。船というより高級ホテルという印象。また揺れを全くと言っていいほど感じません。
- 船内は、想像以上に広くてエレベーターや階段の作りがとてもきれい。部屋についてからいろいろと探検をしたところ慣れるまでは本当に迷いそうであるし、体力を使うつもりではないかと思うぐらい、一つの回だけでも移動するのに何歩歩くのかと思うぐらい広くて乗船した瞬間から見るだけでとても楽しい。
- テーマパークなどのアトラクションみたいだ。そこから中に入って船じゃなくて豪華なホテルのような感じ。チェックイン待ちのときも興奮していたけどさらにテンションも上がってきて乗ったばかりだけどすでに楽しい。そのまま部屋に来てみたけど思っていたよりも広くて出航が楽しみ。
- 思っていたよりも天井が低く、免税店が小さいなというのが乗船直後の感想。中央のらせん階段は予想通りの豪華さ。また、乗船人数が予想よりもかなり多くて、こんなにも多くの人が乗船できるのかということにも驚き。
- 船内に入ってすぐに、ホテルのような景色で感動。
- ロビーには真っ白なグランドピアノが置いてありましたが、グランドピアノが小さくみえるほど広いロビーでびっくり。
- 部屋が思いのほか広くて快適。トイレやバスルームもきれいで気持ちよい。廊下は部屋が多すぎて、エレベーターも間違えそう。
- 乗船直後は吹き抜きのホールの美しさに、ただただ心を奪われる。また、50周年のバナーがあったり、細かな細工、絨毯など華やかな雰囲気圧倒されている。また、エレベーターも何台も設置されており、広々としていてしているだけではなくきれいに磨かれていて驚き。客室に向かう廊下も人とすれ違うことができるくらい広く驚き。
- 屋外プールにあるモニターには驚き。また、プールの数と、エレベーターの数に満足。
- 今船に本当に乗ったのかなと思うくらい出港時は全く揺れを感じません。どこかの高級ホテルに来たかのような内装でこれからどんなことが始まるのかとても楽しみ。
- 部屋がとても多いことにびっくり。荷物が既に部屋の前に置いていたことに驚き。(夕方までに届くといわれていたので)船内の照明がとても明るく、どれだけの電気代がかかっているのか、この電力をどう賄っているのだろう。
- 乗船してすぐのところで写真を撮ってもらい、ドキドキワクワク。チェックインするまでの通路は普通の通路を歩いているみたい。しかし、少し揺れているのを感じ、フラフラするので、やっぱり今私は船の中にいるんだな。チェックインしてすぐ、ロビーですが、想像以上の豪華さで”すごい、船の中ではないみたい”という言葉

しか出ません。

- 船内は、ホテルのロビーのようでとてもきれいな印象。証明も非常に明るく、雰囲気は抜群。しかし、船の外観から、ロビーの吹き抜けホールの部分はずっと大きいものを想像していたので、思っていたよりも小さくて少し残念。
- 入ってすぐに豪華なホテルのロビーのような光景が広がっており、客船の中がこんなに豪華だと思っていなかったのがびっくり。また、ヴァイオリニストが生演奏をしていることにも驚き。そして乗船してから感じたことは、クルーや乗客に外人の人が多くということ。日本から出発するのでほとんど日本人が乗船していると思っていたので予想外。
- 内装も自分が思っていた以上に高級感。ロビーでのヴァイオリンの演奏もより高級感を演出。また、船内に入ってからすぐのロビーでは4階分が吹き抜けになっていて船の大きさを実感。階段も少しカーブがかかっているのも素敵。さらに、床は絨毯が敷いてあって、本当に船の中だとは思えません。
- 想像以上に豪華で驚き。ロビーは少し高級なホテルのイメージを持っていましたが、クルーズ客船のロビーは上からでも見えるようになっていて開放感がある。

第2部 <クルーズ船>

(1) 船内施設（ハード面）の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)

- ・ 船内見学の時に一つ一つの施設を見て回ったが、最初はどこに向かっていくのか全く分かっていなかった。プールなどのスポーツ施設、レストラン、バー、シアター、温泉施設など、すべての乗客が飽き足りることなく楽しめる施設がたくさん整っていて、これが船の中だとは信じられないような気持ちになった。リゾート地に来ているかのような気分になっている。わたしが方向音痴だけ



- かもしれないが、施設のビジュアル地図がもう少しあればよかったかもしれない。
- ・ ディナー会場や船後方のバーへの行き方などが複雑で慣れるまでに時間がかかった。プールは、空いている時間帯に入ることができて、全力で楽しむことができました。ジムでも、海を見ながら友人たちと汗を流すことができて気持ち良かったです。
- ・ 船内はどこも高級感ある作りになっており、綺麗でよかった。ただ、船内の作りが若干わかりづらかった。例えば、ディナーなどを食べていたホールは一度一つ上の階まで行って降りなければならなかったし、屋外プールの場所（船内後方のプール）までの行き方もいまいちわかりづらく、迷路のような気がして使いづらかった。
- ・ インテリアのひとつひとつが意匠が凝らされていて安定感もある調度品が多く、また壁に素敵な絵が飾られていたり床の模様や手すりといった細かい所まで完璧に整えられていて、すきのなさともまるで夢の国にいるかのような錯覚を与えてくれる素晴らしい内装だった。とくに室内プールの内装はまるで海の中にいるかのような優しい色とガラス張りでの天井のおかげで日差しや美しい夜空を見れる幻想的な感覚を与えてくれ、私が一番気に入った場所でもあった。
- ・ 勉強不足なので立派なことは何も言えませんが、全体的な印象としては、かなり複雑な構造をしているように思います。初めの方は特に迷ってばかりでしたし、何が前方にあって何が後方にあるのかを把握できないままに、とにかく手さぐりで探しているような状況でした。また、ディナーの部屋に行く際に、一度上の階へ上がっ

てからまた下の階へ降りなければいけないという構造がなかなかなじまなかったのを覚えています。しかし、ロビーなど主要な施設は一点に集められていて、最低限の移動だけしようと思えば便利な面が多かったです。

- 屋内競技と屋外競技の違いがあるので一概にはいえませんが、バスケットコートが船の上の方にあって、卓球台をプールのフロアに置くなれば、スポーツ関連ということで、この両者をもっと近い位置に配置した方がよいかな、と思います。
- バスケットコートにネットが備品でついていましたが、使い方がわかりませんでした。バスケットコートに使い方を掲示しておいてもらえると、ありがたいです。
- どの区画に行ってもとても清潔に保たれていたうえ高級感もあったのでとても優雅で快適な時間をすごすことができました。部屋に関しても、四人じゃ狭いのではと乗船前は思っていたが、特にそのような不満も感じることなく部屋のなかでゆっくりすることができた。
- 船内は豪華な雰囲気を感じられる装飾があり、上品な雰囲気を感じることが出来ました。また、船内の多くの場所で行われていた演奏の数々には心踊らされる部分が数多くありました。
- レストランやバー、カフェなどはどこも上品で、落ち着いている雰囲気でした。デッキの部分も、プールやプールサイドの感じが清潔感もあり、豪華さもあり、綺麗に保たれているなど感じました。ただ、アミューズメント施設が想像していたよりも小さかったです。
- 上でも書きましたが、Voyagerのようなメインストリートがなかったので、船の中の道を覚えるのに少し時間がかかりました。無料の食事スペースが14階の屋外にしかなかったことも少し残念でした。また、部屋のシャワーがカーテンだけではカバーが不十分で、バスルームの床一面が水浸しになりがちでした。
- 高級感あふれる内装で、非日常感が演出されていた。このことはクルーズの大きな付加価値だと感じた。一方で、高級感はあるものの服装や履物については自由であり、かつスタッフの対応もカジュアル・フォーマルの区別はなかったため。メリハリがない印象も受けた。
- 船内のレイアウトは比較的複雑で、中央部に大きなストリートを配置しているVoyager of the Seasとは対照的でした。どちらにもそれぞれ利点はありますが、Diamond Princessの場合、道を覚えるまで迷路のように探検しながらそれぞれの施設を探すというワクワク感があり、また、人が分散するためあまり混雑感を感じることなく過ごすことができました。
- 船内は大通りがなく、吹き抜け部分が少ない分、少し狭いかなと言う印象を受けました。しかし、プールやシアターなどの施設は充実しており、満足できるものでした。ボイジャー・オブ・ザ・シーズと比べて、温泉があったり、逆にスケートリンクやロッククライミングがなかったりと、ターゲット層は比較的高めかなと感じま

した。

- ・ ダイニングへの行き道など、慣れるまで道に迷いがちになることが多かったが、随所に案内や看板が設置されていたためそこまで困ることはなかった。後、船内施設を巡った時に最初に感じたのはジャグジーやプールが多いなということで、室内、屋外、温水と一通り完備してあるのは、季節や天気によらず楽しんでよいのかなと感じた。プールも含めてスポーツ施設は、海を眺めながらアクティビティーが出来ることで、より楽しく行えるのかなと感じた。
- ・ 船内の雰囲気は統一感があり、全体を通して上品である。一つ上のランクという印象を感じさせる。昨年度の船が色々な要素を詰め込んだ「街」だったのに対し、今年度の船はある程度調和のとれたホテルのように感じられる。
- ・ 去年は船を降りる日にやっと船内の構造（どこにダイニングがあってどこに自分の部屋があるのか等）を理解し、それまでは船の中を迷って目的地にたどり着くまでにとっても苦労した覚えがある。今年はよく利用する施設が船の前方にあるのか後方にあるのか、どのエレベーターを使えば行きたいところに早くたどり着くのかを早めに把握しておいたのがよかったと思う。
- ・ 落ち着いた雰囲気でも豪華さもあり、とてもよかったと思います。英米船となると、もっと奇抜で派手なのかなと思っていたけれど、色使いや船に展示されているものも落ち着いた雰囲気があり、幅広い年齢層から好感が持てるのではないかと思います。
- ・ barやクラブやレストランなどたくさんの種類がありましたが、どれもそれぞれの色があり、カップルで来ている人、家族で来ている人、会社関係の人と来ている人、様々なお客様に対応できるつくりになっているなど驚きました。部屋はとても広かったです。二人部屋を三人で使いましたが、窮屈さは感じず快適に過ごせました。
- ・ プティック、カジノ、温泉、クラブ、託児施設など多くの乗船客に楽しんでもらうための施設が充実していて驚きました。クラブやジムなど普段あまり利用しない施設をこの機会に楽しめたのもよかったです。
- ・ 部屋へ戻る際、一日目は迷っていましたが絨毯の色で分けられているなど細やかな配慮を知りスムーズに動くことができました。
- ・ 船内には、プールやバスケットコートといった比較的体を動かすのが好きな人向けの施設だけでなく、だれでも体を動かすことのできるジムがありここでは多くの方が長い航海の中で体を動かしていました。残念なことに、私達が利用するときは雨や風が強かったため、外にあるプールは使うことはできませんでしたが、室内のプールもあったため苦労することなく利用することができ、航海を退屈しないものにしてくれました。
- ・ 船内の雰囲気は本当に船というよりも豪華なホテルのようでとてもきれいでした。まず、船に入ってすぐにとっても多くの施設があるので一回回ってみようと思いき

- まわっているいろいろ見ましたが船の中なのにとっても広く、何回も迷いました。
- 同じようなバーが多くて、自分が今どこにいるのか分からなくなることが多かったと思います。各施設は、それぞれが広々としていて、とても快適に利用させていただきました。
 - プールやシアター、バスケットができる場所まであって何日でも楽しめそうです。
 - バーやラウンジ、カジノは雰囲気があって非日常な気分を味わえました。
 - 部屋の上からおりてくる二段ベッドの角が直角だったので頭をぶつけたときに痛かった。角がまるかったらいいなと思いました。
 - バーや、バルコニー、ロビーを含め、船内には至るところに休憩できるスペースがあって快適でした。ソファや椅子も置いてあって、利用している乗客もたくさんいたので、配慮があると感じた。階段やエレベーターもたくさんあって、混雑も最低限で済んでいたと思う。
 - プールが3つもあることに驚きました。また入浴はしませんでしたが大きな浴場があることに驚きを隠せませんでした。何もかもが私の予想外の規模で、特に初日は驚かされるばかりでした。また、船内を歩いていても感じたことですが、いったん上に上がらないと通行できない場所もあり、一緒に行動していた友人とあたふたしたのも今ではよい思い出になっています。
 - 商品や備品、建物などの至る所にダイヤモンド・プリンセスのロゴが入っているのが良かった。エレベーターが全体的に豪華さがあって良かった。床の殆どが絨毯なのが良かった。しかし、客室のバルコニーが閑静すぎた。
 - 落ち着いた雰囲気優雅な日常を送っている気分になりました。ダイヤモンド・プリンセスは年齢層が高い雰囲気でした。Barが多いのが印象的でした。でもそれぞれ雰囲気が全く異なっていてそれぞれが楽しみながらその時間をすごしていてとても楽しかったです。下にひいている絨毯も部屋ごとに違ったので、違う模様を探すのも楽しかったです。
 - 船の構造が複雑だったので、何度も迷子になった。特に、上の階になっていくと作りが複雑で階段やエレベーターを一個間違えると全く違う部屋に行ってしまう。部屋は3人で使うには少し狭かったがほとんど部屋にいなかったのであまり気にしなかった。
 - 船内を見学しましたが、行く場所行く場所が想像を超えていて驚きと感動が止まりませんでした。船の先頭にジムがあり、進行方向に向かってランニングマシンを使い走ることの出来る施設はとても素敵だと感じました。また、プールも屋外だけではなく屋内にもあったので天候に左右されないのが良いと思いました。船内がとても綺麗なため、それに馴染むよう、お手洗いが控えめに表示されていたので少し分かりにくかったです。マークで表示するのは少し見えすぎてしまうので、英語でお洒落な案内板風に表示してあると迷わずにたどり着けると思います。

- ・ 船内はもっとひとつながりになっていて、町のように思っていたのですが、実際は施設ごとにしっかり区切られており、また、レストランへは一度上層階へ上がってから降りなければいけなかったのが、わかりにくいなと感じました。エレベータの数は多かったのですが、シニア層が多いクルーズ船としては良かった点だと思います。
- ・ 船内はとても広く場所を把握することは大変だったので、地図がとても大切だと思いました。船内には地図がたくさんありましたが、もう少し目印をつけるとさらに見やすくなるように感じました。船内の施設はどこも趣があり、船の中ではなく普通のレストランやシアターにいるように感じる事ができたのでよかったです。
- ・ 施設は本当に充実していたと思います。ジムにも行けてとても楽しかったです。乗客の年齢層が高めなので、あまり需要がないかもしれませんが、一番上のスポーツコートをもう少し大きくしてもいいのではないかなと思いました。上でスポーツコートを利用していると、真下のバーに音が響くのも気になりました。また、エレベータのボタンが接触不良の物や取れて外れてしまっているものも多かったのですが、直したほうが良いと思います。
- ・ 施設のレイアウトは、5日もいればわかるようにはなりましたが、目的地に行くためには、1つのエレベーターでないと着かないとか、夕食のレストランに行くのに7階まで下りてから、階段で6階に下らないといけないなど、少し複雑だと思いました。また、トイレの場所がわかりにくい印象を受けました。スタッフの方にトイレの場所を聞くと、すぐ近くにあった事が多かったため、トイレは適当な間隔で設けてあると思うのですが、見つけにくかったのが、もう少し分かりやすくしてほしいなと思いました。
- ・ 子ども用やアロマなど多くの用途に合わせた施設があり、幅広い世代でも楽しめる構造になっていて良いと思いました。レイアウトは、シンプルだったので落ち着けると感じました。

(2) 船内サービスの感想(食事・レストランサービス・アフタヌーンティー・ピザ、アイスクリームバー、バーガー、ピザ)

- ・ 毎晩のディナーでは豪華なメニューが数多く揃えられており、盛り付けもきれいで味覚も視覚も両方楽しませてくれた。メニューも見ながらどんな料理が出てくるのだろうと期待を膨らませながら、落ち着いた雰囲気ですさまざまなジャンルの料理を味わうことができた。



プールサイドにアイスクリームバーやピザ・バーガーを無料で提供してくれるブースもあったことも少し軽食をしたいという時に利用できたこともよりよかった。2日目と4日目が有料のロブスターを売っているとは知らず、バーガー・ホットドックを食べ損ねたのが唯一の心残りである。

- ・ アイスクリームバーのソフトクリームがすぐ溶けてしまったのが少し困りました。バーガーやピザは美味しくいただくことができました。夕食においても、毎晩コース料理を楽しむことができました。
- ・ 食事の内容はどれも本当においしく、普段食べられないような豪華なメニューで大満足だった。ウェイターさんは各テーブル2, 3に一人いて、細かくケアしてくれるので良かった。ただ、人によってはまったくメニューを聞きに来てくれず食事のスタートが大幅に遅れたこともあったのが少し気になった。アイスクリームバーやピザもおいしかった。ハンバーガーやホットドッグが食べられなかったのが残念だった。アフタヌーンティーは期待していたよりも少し雑な感じだったので改善してほしいと思った。
- ・ わたしは美味しい食べ物を食べるのが大好きなので何度も自分の胃がもっと大きければいいのにと後悔した。ブッフェやアフタヌーンティーにコース式のディナーに食べ放題のメニューがいっぱいあり、すべてのメニューが美味しく見た目の繊細で工夫が凝らされていて胃も目も非常に満足できた。もっとレストランに足しげく通い美味しい料理を食べたかったと少し悔いてしまった。
- ・ とにかく素晴らしかったです。ディナーの豪華さやアフタヌーンティーの上品な雰囲気は、まだ学生という身分の自分には少々敷居が高すぎた気はしますが、非日常感を感じ非常に気分が高揚しましたし、良い経験になったように思います。しかしなんととっても、そういった普段味わえないような高級なものだけでなく、慣れ親しんだファーストフードなども自由に堪能することができるという、2つを見事に両立させている点が満足感の最大の理由です。
- ・ バーガーを頼んだときにならずポテトをつけてくるのは、やめた方がいいです。特に食べたくもないポテトでお腹が膨れるのは不本意ですし、ポテトだけ注文することも可能なので、わざわざバーガーとポテトをセットにする必要はないかなと思います。
- ・ ディナーのときにあらかじめコースがきまっているのか、それとも好きなものを好きなだけ注文する方式なのかかわからないので、事前に知らせておいて欲しいのと、メニュー表がどちらなのかがわかりづらいので、メニュー表も改善をお願いします。
- ・ ソフトクリームはもっとミルク感があつた方がいいのと、ソフトクリームだけでなく、普通のアイス



- クリームも食べたいです。
- どの料理も美味しかったしたいの料理がいつでも食べることができたので本当に夢のようだった。特にディナーのコース料理はこれぞ豪華客船のディナーという感じがして毎晩楽しみにしていた。
 - 船内での夕食は豪華な雰囲気での食事を楽しむことができました。
 - また、その他の場所では好みの時間に軽食を取ることができ自由に食事が出来たこともとても魅力的でした。
 - 船内サービスの中でも、ディナーがとてもおいしかったです。船内とは思えない、ホテルのディナーのような前菜やメイン、デザート。非常に満足です。アフタヌーンティーもスコーンが美味しかったです。アイスクリーム、バーガー、ピザは普通でしたが、いつでも食べられるという利点はとてもいいと思いました。
 - 食事は期待通り非常に満足のいくおいしさでした。
 - 14階のピザもいつも焼きたてで生地を回しているところがみられるのも楽しかったし、アフタヌーンティーでは焼きたてのスコーンがとてもおいしかったです。また、毎日のディナーも、工夫のこらされた見た目も美しいお料理ばかりで、毎日おなかいっぱい食べても飽きることがありませんでした。特に、こだわっておられるチョコレートのデザートが非常に美味しかったです。
 - アフタヌーンティーは初めての経験であったので興味深かった。長蛇の列ができていたため整理券の配布など待ち時間をもう少し工夫してみてもいい。
 - ピザなどプールデッキの食事提供は充実しており、ことあるごとに利用した。
 - レストランは多種多様な料理が並び、量も味も満足であった。
 - 24時間ドリンクや軽食を飲食できるカフェがなかったのは夜中に水が飲みたくなった際など不便であった。
 - レストランでの食事は、趣向を凝らしたものが多く非常に満足でした。中でも、毎食添えられているブレッドは、船内で焼き上げられているというだけあって美味しかったです。ウェイターの方のサービスもきめ細やかで心地よく食事をすることができました。イギリスらしくアフタヌーンティーが体験できたこと、常時食べることのできるスイーツが豊富にあったこともよかったです。
 - 去年と違って、食事の量がちょうどよかったので、毎回の食事を最後まで楽しむことが出来ました。屋上階のアイスクリームやピザも食べてみましたが思っていたよりも美味しく、またイギリスらしいアフタヌーンティーも楽しめたので食事はとても満足しました。しかし、二十四時間開いているところがなかったのも、夜遅くに喉が渴いたときは結構つらかったです。
 - ピザやハンバーガーやアイスクリームは無料で頂けるだけでなく、出来立てをもらえるのがいいサービスだなと感じた。また、アフタヌーンティーは普段日本で暮らしている間はやろうとも思わないようなことであり、イギリスの船という特色が出

ておりとても楽しめた。サービスの多くが夜の11時ごろには終わってしまったのは少し残念で、一か所夜集まれる比較的静かな場所があればいいなと思った。

- 海外ではよくあることではあるが、日本人から見れば、ディナーでのミネラルウォーターの販売は非常に印象が悪い。“Which one?”という風に問われて、選んだら料金請求、という流れは、受け手側から見れば詐欺にあったような感覚を持つ。日本人を相手にするのであれば、非常に悪い印象を持つので控えるべきであると思う。
- 船内の食べ物はすべて制覇する意気込みだけは持っていたものの、やはり胃袋のサイズが足りない…。ピザはタイミングよく焼きたてを食べることができて嬉しかった！美味しい！ディナーでは去年のサン・プリンセスに比べてお肉の割合が少ないように思えた。去年はレア、ミディアムレア、ミディアム、ウェルダンの4段階の焼き加減を選べたのに、今年はミディアムとウェルダンしか選べなかった。ミディアムレア派の私にとってはショックだった。人によるのかもしれないが、MERSの影響もあるのだろうか？
- 毎晩コース料理だったのは今思えば、もうこのような機会はないのではないかと思います。何を頼んでもおいしく本当に贅沢でした。メインの肉料理やオードリー・ヘップバーンのコースや食後のデザートなど大満足でした。アフタヌーンティーも優雅でいい経験になりました。ピザも目の前で焼いてくれて出来立てでとてもおいしかったです。船の中で食べたものはどれもおいしく、また食べたいです。
- ご飯は全てとても美味しかったです。大満足です。いつでもどこでも食べ物があるから常にお腹がいっぱいでした。ディナーは本当に豪華で、こんな高そうなものを提供してクルーズの経費は大丈夫なのかと疑問に思う程でした。また海の上なのに、陸で作るのと変わらない料理の腕を持つコックさんに驚きました。
- ディナーやbuffetなど料理がとてもおいしかったのはもちろんですが、クルーの方の気配りなどに感動しました。写真を撮ってくださったり面白いジョークを言って笑わせてくださったりと本当に楽しませていただきました。
- 食事に関しては、1つ1つがとてもおいしくて本当に満足でした。ディナーだけでなく、アフタヌーンティーやいつでも食事ができる船内では空腹感を感じることなく過ごすことができました。おいしさだけでなく、ウェイターの方々の丁寧な説明や、毎晩食事する人がことなるので話も弾み退屈しない食事の時間でした。
- いろいろな船内サービスがあり使いきれないぐらいでした。ピザやハンバーガーなどはいつでも食べることができるし食事とても豪華でさらに頼み放題でずっと食べていました。ディナー前だから抑えようという話をしているのも何でもとてもおいしいので結局食べてしまうこともありました。
- 期待していた以上に、美味しく、メニューの数も多くて、食事だけでも十分に楽しめると思いました。毎日メニューが変わるというサービスも大変良かったです。
- いつでも、どこでもおいしい食事ができて幸せでした。サービスもすばやく、サイ

ズもいろいろあって親切でした。

- 特にディナーの前菜が毎日どれもおいしくて、全部食べたかったです。
- アフタヌーンティーとレストランでのスイーツの差があまり感じられなかったです。
- バーなども1時頃終わるので、ソフトドリンクやお酒が24時間楽しめる施設がひとつあれば、もっと良かったかもしれません。
- クルーの方はみな笑顔でとてもサービス精神旺盛だと感じた。席に着くとすぐ飲み物を聞いてくれたり、アフタヌーンティーの時も色々な軽食を進めてもらい、そしてどれもおいしかったので、いつも食べ過ぎていた。
- レモネードが美味しかったのがとても印象に残っています。屋外で窯から焼きたてのピザが出てくるのは視覚的に見ても楽しかったです。また、ケーキの種類が豊富で毎日変わっていたのは感動しました。またアフタヌーンティーでは軽食やビスケットなどスコーン以外も食べれ満足でした。
- ビュッフェの種類、料理の質が大変高く、感動した。コース料理が出てくるテンポがよく、スムーズに感じた。好きなだけ食べれる事も良かった。フルーツもみずみずしく甘かったが、種類が少なく感じた。また、アイスクリーム店の目の前にあるポップコーンが無料なのかそうでないのかハッキリ分からなかった。
- 一番はじめに食べたのがピザでした。大きさにも味にも驚きました。そのあとレモネードを飲んだのですがおいしくてレモネードは毎日飲みました。レストランでのディナーでは食べたことがないメニューばかりで、美味しさと緊張でいっぱいでした。アフタヌーンティーでは、船に乗って23日目になる夫婦に出会いお話を聞けたり良い時間を過ごすことができました。
- ピザ、ハンバーガーがおいしくてほぼ毎日食べていました。初日にレストランで食べた食用ザリガニがとてもおいしかった。
- アフタヌーンティーを初めて経験し、軽食・お菓子がたくさん提供されてびっくりした。普段あまりスコーンを好んで食べないが、全くパサパサしていなくておいしかった。
- 4日目の朝・昼に大きく体調を崩したときは、脂っこいものが食べなくなかったが、あっさりしているものがほとんどなかったときは少し大変だった。”
- 乗船し、出港するまでのフリータイムの時、みんなが集まっていたところに行くと、ピザやアイスを食べていたので、いくらするのかと聞いていたら、これもサービス



の一環として含まれていることを知り驚きました。ディナー、アフタヌーンティー、buffet、全てに満足しました。普段食べることの出来ないような豪華なお料理やレストランの雰囲気に少し緊張していましたが、ウェイターさんも楽しませてくれる方が多く楽しく食事をとることが出来ました。

- 船内サービスはどれも素晴らしかったです。特に、食事が無料で種類も豊富だったのがとてもよく、普段の旅行だと食事をどこでとるか、値段はどのくらいするかなど、気を使うことが多いのでとても快適でした。また、部屋もこまめに掃除されており、ルームサービスも時間通りに持ってきてくださり、ボーイさんとも仲良くなることができました。
- 船内の食事はほとんどが無料だったので、値段を気にせずたくさん食べることができました。その中でも特に印象に残っているのは、ディナーとアフタヌーンティーです。セミフォーマルを着て、本格的なディナーを食べる機会は今までほとんどありませんでした。そのためマナーに注意しながら食事をしました。自分の食べ方が合っていたのかはわかりませんが、良い経験になり、今後、正しいマナーを学びたいという気持ちになりました。次にアフタヌーンティーですが、こちらも今までこんなに本格的なアフタヌーンティーを飲んだことがなかったので、良い経験になりました。
- 食事はどれもすごく美味しかったです。アフタヌーンティーは最高でしたし、プールサイドのピザやバーガーもとても美味しかったです。ただ、甘いものは外国人受けがするような味付けだなと感じました。私はあまりこってりした甘さは好きではないため、アイスクリームやディナーのデザートも苦手なものが多々ありました。レモンシャーベットなどのあっさりしたデザートも用意されていると日本人受けは良いのではないかと思います。
- 料理はとても美味しかったです。オーダーしてから作ってくれるので、出来立てを食べることができて良かったと思います。

(3) 船内サービスの感想 (SHOW, エンターテイメント) (吉田兄弟による津軽三味線のスペシャルライブ、プロダクションショー、マジックショー、落語)

- 毎晩異なったジャンルのショーがあり、さまざまな迫力のある音楽、ダンスを生で見ることができ、その躍動感を体感した。テレビによく出演している有名な吉田兄弟演奏を今回生で鑑賞することができる機会があったことも本当に光栄だった。吉田兄弟の手の動きが早くて驚きもあったし、そのくらい練習と努力を重ねておられるのだと伝わり、見ごたえのある演奏であった。マジックショーや落語も真近で見ることが初めてだった。

- 吉田兄弟の津軽三味線は、そもそも三味線を生演奏で聴くのが初めてで、その迫力や二人の演者の織り成すハーモニーに感動しました。大変貴重な経験でした。マジックショーでは、わくわく感やドキドキ感をあまり感じる事ができなかった。マジシャンの技量や盛り上げ方がいまひとつだったのかなと感じました。
- 毎晩見たショーはどれも本当に素敵でエキサイティングだった。私は特に船内ダンスチームのダンスが迫力があり何度でも見たいと思えたショーだった。吉田兄弟の三味線演奏は、普段なら聞くことができない有名人のショーなので喜びも大きかった。DJとのコラボ曲ももちろん素晴らしかったが、一番は津軽じょんがら節だった。音が生きているような感覚が新鮮だった。
- 日本の古典文化に対して積極的に関わってこなかったが、吉田兄弟の演奏には心を激しく揺さぶられた。吉田兄弟の手の動きが目にも止まらぬほど早いにもかかわらず、繊細で力強い演奏を奏でていて自分が持っていた日本人としての魂に触れる音色だった。三味線とは素晴らしくそしてどこ懐かしく人の心に寄り添う楽器なのだという事を初めて感じ取れた。また毎晩のショーやダンスもきらびやかなで心踊る内容で毎日充実した時間を過ごせた。
- 普段ではある程度のお金を払う決心が必要な文化的イベントに、気軽な気持ちで足を運ぶことができるというのは、自分にとって最高の機会でした。SHOWや三味線は素晴らしかったですし、すごく興奮したのはもちろんのことですが、今まであまりなじみがなかった落語などにも触れることができ、自分の文化的価値観の幅を広げるきっかけにもなったと思います。
- 吉田兄弟の三味線には感動しました。普段なら絶対に聞くことのできない生演奏が聴けてとても満足です。
- 1日目の歌はとても良いものでしたが、自分は日本人なのでJPOPを中心に聞きたかったです。前半30分は洋楽、後半30分は邦楽といったように歌のジャンルで時間を区切ることはできないのでしょうか？
- 正直、マジックショーはあまり満足できませんでした。勢いで押し切っている感じがして、感心しませんでした。落語はよかったですと思います。
- シアターでは毎日のように催し物があり、休む暇もないくらい一日の予定が充実していた。特に吉田兄弟の津軽三味線ライブは乗船まえから楽しみにしていたこともありとても印象に残っている。
- 船内のシアターやその他の場所でのショーでは、普段の生活では見る事の出来な



い本格的なエンターテイメントを楽しむことが出来ました。また、毎日、ダンスや歌やマジックショーなどの趣向の違うコンテンツで飽きさせない努力がなされているのを感じることが出来ました。

- Showは二日とも非常に引き込まれるものでした。特に楽しかったのは、一日目の女性シンガーの方のショーです。ジャズやポップスなど様々なジャンルのものをあの手強い声で歌っているのを聴けて非常に楽しかったです。また、吉田兄弟の津軽三味線にはとても感動しました。弦楽器と打楽器を合わせたような力強い演奏は今でも耳に残っています。
- ショーは、乗船前に期待していた通り、ダンス、マジック、落語、三味線、歌とバラエティに富んだラインナップでした。落語も三味線も生で鑑賞するのが初めてでしたので、刺激的な経験ができました。吉田兄弟の三味線ショーは、DJとのコラボが今までの三味線のイメージを覆し、三味線だけの曲ではお二人の技術力の素晴らしさを肌で感じる事ができました。船上でこのような貴重な機会を得られたことがとてもありがたいです。
- 乗船していなかったら触れることがなかったであろう芸術を堪能できたので貴重な機会であった。このような機会の提供は、クルーズを通じた新たなファン層の獲得にもつながると思うので進めていってほしい。一方で、会場が陸上ほど充実してはいないわりには参加料が割高こともあるので、一つのエンターテイメントだけでクルーズ旅行をPRするのは限界があると思った。
- ダンスショーや落語、マジックショーなど、幅広いジャンルの舞台を体験することができよかったです。普段舞台を見に行く際は自分の興味のある分野にしか手を出すことはありませんが、このように幅広いジャンルの舞台を一気に体験することができるのは、クルーズ船ならではの楽しみ方だと思います。
- ショーなどのエンターテイメントは長すぎないちょうどいい長さだったので、飽きることなく最後まで楽しむことが出来ました。また、津軽三味線の演奏を聞いたのは初めてだったので非常に感動しました。伝統的な曲調ばかりではなく、よりアクティブなものも多くあったので、非常に盛り上がる事が出来ました。
- 日本と釜山の間を行き来する船なので、司会進行も日本語、韓国語、英語の三か国語で行うのかな、と思っていたので、基本的に英語と日本語だけだったのは日本発着だからかなと思った。津軽三味線であるとか落語であるとかは他の船では味わえなかった体験だと思う。こういう場所でなかったら見ようと思わないものも多くあったが、見てみると意外と楽しめたので、自分の趣味関心の幅を広げるいい機会になるのではないかと感じた。
- 気がついたら終わっていた、ということが何度かあったため、船内でショーやイベントの告知のパンフレットを目立つところに掲載するなどの工夫が必要であると感じた。吉田兄弟は以前からしっていたが、現代の要素を取り入れた津軽三味線とい

う感じで、古臭いという印象がなく、聞き心地がよかった。

- 去年みたショーよりも格段に楽しかった！というのも、出演者のレベルが今年の方がよかったということではなく、観客のノリの良さがショーを盛り上げているなど思った。韓国や中国からのお客さんは日本人に比べてノリがよかったので、会場全体を盛り上げてくれた印象がある。（そもそも去年は時間がなく1度しかショーを観ることができなかったので比較対象には不十分かもしれないが）吉田兄弟は初めてみたが、DJとのコラボでとてもかっこよかった。退屈だろうなどとあまり期待していなかった分、楽しめた。

- ショーは観客全員で手拍子をしたのが一体感があって楽しかったです。吉田兄弟の三味線も想像していたものよりもとても迫力がありました。ダンスも見てて楽しく、全体的に大満足でした。



- 津軽三味線は以前テレビで特集されていたのを見たことがあったので、まさか生で聞ける機会があるとは思ってもよらなかったのが感動しました。音楽には詳しくはありませんが、体全体を使って三味線を演奏する姿を見て、とても情熱を感じました。DJの音が大きすぎる気も少ししましたが・・・。
- 船内で行われるショーなどは期待していた以上に楽しむことができました。ステージで歌ったり踊ったりしているのを見るだけではなく、みんなで一緒にショーに参加しているようでとても楽しかったです。
- 主に、ディナーのあとにエンターテイメントを見るためにシアターに行きましたが、退屈することなく楽しく見ることができました。何時からどこでなにをするのかということ船内新聞を見ればわかりましたし、スマホでwi-fiにつなげば、船内のことについて知ることができたので本当に助かりました。津軽三味線という普段は全く聴かない楽器の演奏を聴くことができたのも、こういった機会があったからこそだと思います。
- 毎晩のshowはすべて見ましたが毎回とても楽しむことができました。普段生活していたらshowなどは見る機会などあるはずもなく、そのようなことを実際に見ることができてとてもよかったです。その中でも津軽三味線のライブは初めて生で津軽三味線を聞いて正直ライブの前まではあまり興味がなかったのですが、ライブが始まってからはとても楽しむことができました。
- 全てのショーが大迫力でした。特に吉田兄弟のスペシャルライブをまさかこの機会に聞けるとは思っていなかったもので、大変貴重な機会だったと思います。各エンタ

ーテイメントも盛り上がっていたようで、とても楽しい時間を過ごすことができました。

- ・シアタールームでのショーは大迫力でした。時間もちょうどいいくらいでした。津軽三味線のライブは特に、プロの演奏が聴けて感動しました。途中で船内アナウンスがなったのが残念でした。
- ・ダンスや歌、津軽三味線のショーに参加したが、どれも本格的で感動した。普通では見ることのなかったショーなのでとても新鮮だった。会場が一体となり盛り上がっていたと感じた。エンターテイナーもとても素敵な人たちだったと思う。
- ・どのショーも内容はもちろんのこと照明や音響まで素晴らしい設備だったと思います。ディナーあとのショーも毎日、毎回演目が変わるなどあきがないと思いきり嬉しかったです。また、落語が船の上で聞けるのは粋だなと思いました。
- ・Do you wanna Dance?の質が大変高く、感動した。もっと役者と乗客の絡みがあれば、より満足感が得られると思った。
- ・本当にこれを船内で見ているのかと思うくらい思いきり楽しむことができました。特に二日目のダンスを前で見るのができ、迫力満点でした。目が合うと手を振ってくれたり、みんなでキャーキャーいいながら楽しみました。初めて落語を聞いたのですが、その世界観に引き込まれました。また機会があれば落語を見に行きたいです。
- ・津軽三味線は船酔いと疲れでほぼ記憶にない。2日目のダンスショーの歌手の人が激しく踊っているのに歌を息切れをせずに歌っていたのがとても素晴らしかった。クルーズで高レベルのショーが見れるとは思っていなかったなのでとても感動した。ダンスパーティーは少し恥ずかしかったのであまり長い時間踊らなかったが、上から見るだけでも楽しかった。
- ・初日の歌から、ダンスショー、マジックショー、また吉田兄弟による津軽三味線のスペシャルライブ。全て感動しました。何度も書きますが、本当に船の中にいるような感じがしませんでした。私たちはダンスショーの時、一番前で見ていたのですが、エンターテイナーの方たちが近づいてきてくださり、こっちを見て盛り上げようとして下さったのでとてもノリノリになり楽しかったです。また、三味線の演奏を生で聴くのは初めてでした。三味線の堅そうなイメージとは真逆にとても軽くノリの良い曲を演奏してくださり、聞いている側もとても面白く感じました。三味線でこのようなポップな表現ができるのはすごいと思います。指の動きがとても速く、また、低音から高音に上がるとき、指をスライドするところが個人的に好きでした。



- ・ 船内の娯楽サービスは、やはりシニア層向けのものが大半だったと思います。個人的にはダンスショーやミュージカルをもっと見たかったので、歌や落語や三味線は少し物足りなかったです。メインの劇場だけでなく、あちらこちらで音楽が奏でられていたのはとてもよかったです。特に、吹き抜けホールから聞こえてくる、バイオリンやピアノのメロディーはとても優雅な日常を演出してくださいました。
- ・ 毎晩行われていたショーは、ダンスや歌、マジックを楽しむことができました。船内で、ショーが毎日行われることに驚いたことに加え、ショーのクオリティーにも驚きました。舞台のキャストの方々の実力は想像以上で、船内でもこのようにクオリティー高いものを見ることができるといって驚きました。吉田兄弟の津軽三味線は、伝統的な三味線と現代風な音楽との融合を楽しむことができました。
- ・ 私にとってショーは日常生活ではあまり体験できない事のひとつだったので、毎日どんなショーが行われるのかとても楽しみにしていました。歌のショーが私は一番好きでした。特に知っている曲を歌ってもらえたので非常に楽しめました。マジックショーは観客の参加型だったのでよかったです。また、毎日7階のカフェでピアノを演奏しながら歌を歌っている方がいらっしゃったんですけど、すごく上手くて毎日通ってしまいました。
- ・ イベントは日によって様々あり、毎日楽しく過ごすことができました。普段では見ないであろう三味線ライブやマジックショーが見ることができて良い経験になりました。このようなイベントがあるおかげで、スポーツなどのアクティブなものとは違う楽しみ方があって非常に良かったです。

(4) 船内サービス・施設の感想（スポーツActivity・体験型イベント(ビンゴ、オークション、バルーンドロップ、ダンスなど)

- ・ フォーマルナイト、ダンスパーティー、バルーンパーティーなど、毎晩体験型のイベントが様々あって参加できるものには全て参加した。こんなに体全体で楽しむイベントに参加したのは初めてかもしれない。参加者が楽しむことできるように照明や音響にも工夫が凝らされており、とにかく興奮状態になっている自分がいた気がする。また少し後悔したことがあったのだが、カジノを見るだけになってしまった。やはり賭け事に対する恐怖感が先回りしていた。来年までにカジノのルールを知って挑戦したいという気持ちもなくはない。



- ・ 特に印象深かったプールサイドでのダンスについて記述します。これまでまともなダンスを踊ったことはなかったのですが、その場の雰囲気に乗せられて気持ちよく踊ることができました。とても楽しかったです。
- ・ 船内施設はやはりステージが一番だったと思う。照明が本格的でわたし好みだった。屋外プールはいけなかったが、室内プールは私には少し深すぎた。足がつくプールがいいと思った。アートギャラリーの絵もかなり充実していて、見ていて楽しかった。免税店はもう少したくさんあって見ごたえがあるとなおいいなと思った。ジムスペースは快適だったのでとても気に入った。ズンバなどのダンスイベントは、もうちょっとダンサーが見える位置にいてほしかった。
- ・ バルーンドロップではバルーンが落ちてくる下の階でむかえることができ、バルーンをいくつかゲットすることができ童心にかえってとてもわくわくした。普段はダンスなどしたこともなく踊るのが下手だがみんなと一緒にダンスみたいなものを踊れて楽しかった。
- ・ 参加者各自の自由な時間も確保しつつ、全体を巻き込むイベントも欠かさないというバランスがとても快適でした。食べては寝るという不規則な生活ばかりが続くのではなく、ジムやバスケットコートなど体を動かす機会をうまく使えるようになっていくことも、クルージングの魅力の一つではないかと思います。
- ・ ダンスは楽しかったが、踊っているインストラクターの方が見えなかったので、どうにか見えるように工夫してほしい。
- ・ バルーンドロップは、バルーンが落ちてきたあとに、みんながバルーンを割っていたが、個人的には割らずに楽しむ方がよいと思った。
- ・ 幾度か行われたダンスパーティーがとても印象に残っている。自分は特にダンスが好きというわけではないが、なかなか友人と一緒にダンスを踊って楽しむという機会というものはないのでとても新鮮な体験であった。自分から積極的にダンスに入っていくことがあまりできなかつたので次にこのような機会があるならばもっと積極的になって楽しみたい。
- ・ 普段、ダンスをする機会が少ない私ですが船内の音楽やダンサーの方について踊ることにより十分に楽しむことが出来ました。また、バルーンドロップではダイナミックに風船が落ちていくのを見て、クルーズ旅行の豪華さを再確認しました。
- ・ 特に印象に残っているのはズンバとバルーンドロップです。ズンバはダイエットに効くということで、以前から何度か動画を見たことがあったので、このプログラムを知った時はどのような雰囲気になるのか気になっていましたが、みんな汗をかきながら大笑いして動いていて、ダンスは人を一つにするのだということを、思いがけず改めて実感しました。バルーンドロップは最後の夜の始まりにふさわしい、船内全体が湧くのにピッタリなイベントでした。
- ・ プール設備の充実にはおどろいた。全天候型のアクティビティーも考慮しているの

には感心した。船内イベントは過度に多すぎてうるさいということもなく、人が集まりやすい時間帯に行われるので適度であったと感じた。

- 屋外の施設だけではなく屋内にも卓球台やプールがあり雨の日も楽しむことができました。バルーンドロップやシャンパンタワーの体験は初めてだったので体験できてよかったです。
- バルーンドロップやズンバダンスなど乗客のみんなで楽しむことができるアクティビティがたくさん用意されていたので、毎日退屈することなく過ごすことが出来ました。
- 天気が悪いことが予想されたので、あまりプールで泳いだりは出来ないかなと思っていたが、ジャグジーであったり室内プールであったりで十分に楽しむことができた。バルーンドロップなどのイベントは少し出遅れたため、上から見ていたが日本でも有名な曲が多くかかっていたり乗れやすくて楽しめた。バルーンドロップは多くの風船がすぐに割れてしまったのでどういう趣旨なのかが少しわかりにくかった。
- 意外にも、昨年度より盛り上がり方がよかった。何が違ったのかはよくわからなかったが、全てのアクティビティで非常に盛り上がり、参加者は楽しんでいるようだった。
- いきたいと思いつつもジムにはいかなかった。ヨガもしてみたかった。今年のバルーンドロップは、ディスコ世代の方々に圧倒された。みんな楽しそうに踊っていて非日常を感じた。
- バルーンドロップは、本当に楽しかった思い出です。バルーンが落ちてきたとき、みんなで風船を割るのがおもしろかったし、みんなでそのあとダンスをしたのが楽しかったです。
- 夜は早く寝てしまったのでダンスなどはあまり参加できませんでしたが、最後のバルーンのは少しだけ体験できました。上から降って来る風船は想像してたのと違ってもろく、頭上で破裂音が鳴りやみませんでした。ダンスは苦手ですが、みんなできゃーきゃー叫びながら踊るのは新鮮で楽しかったです。
- バルーンドロップが一番楽しかったイベントです。バルーンが落ちてきたときにみんなが騒いでいる光景がなんだか面白かったです。いくつかの風船の中にお金が入っていたりと楽しませる工夫が所々に施されているなと感じました。
- ダンスは知らない曲でしたが年配の方と踊っている友達もいたり、知らない人とも楽しめる素敵なイベントだと思いました。
- 私が参加したというものは少なかったです。何かイベントをしているという雰囲気



気が私たちを楽しませてくれてくれました。ダンスなどは、年寄りの方・中年の方、すべての方が踊っていて、自らが踊らなくても楽しめる雰囲気でした。

- ダンスなどのイベントも多く開催されていて、ダンスは今までやったことなかったけれど楽しんですることができました。そのほかにも様々なイベントが開催されていたので参加できるものはできるだけ参加しましたがそれでももっと参加できたとも思います。
- バルーンドロップと、その後のダンスがとても印象的です。日常ではあまりできないような経験をすることができました。踊っている人たちがとても楽しそうでした。
- プールデッキでのダンスパーティーは大人も子供もみんなが一体となって楽しんでいて、私もとても楽しめました。バルーンドロップのようなパーティーも初めての経験でした。
- みんなドレスアップしていたのでより楽しかったです。船内アクティビティは体力と時間があれば全部参加したかったです。
- みんなで踊る機会があつてとても楽しかった。ビンゴやオークションには、参加していないので、少し残念でした。生演奏を聴きながら踊ることは初めてでした。他の乗客とも仲良くなれて良い雰囲気だったと思う。
- プレゼンテーション等の発表が重なっていたため、ビンゴ大会などのいくつかのイベントに参加できなくて残念でした。しかし、バルーンドロップではマジックショーを途中で抜けていたこともあり、バルーンの真下で楽しめました。また、屋外のダンスでは画面を効率的に使っていただけたのでみんなで真似しながら楽しく踊れたと思います。
- ダンスイベントがいくつもあつて良かった。バルーンドロップの中にプレゼントのチケットが入っていたことに好感が持てる。ダンスは参加者も多く、アットホームな雰囲気で参加しやすかった。
- みんなでバルーンパーティーでダンスを楽しんだとき、すごくダンスが上手な女性がいてみんなで真似をしていたのですが、後から一緒に写真を取っているときにその女性は日本のテレビ番組のど自慢にでているひとでみんなでびっくりしました。こんな出会いもあるのだなとみんなで盛り上がりました。
- 午前中のイベントで興味のあるものがいくつかあつたが午前中は授業が多かったので参加できなくて残念だった。大きなイベント(ショーやアフタヌーンティーなど)に参加する機会は多かつたが、小さいイベントに参加する時間が欲しかった。ジム



で行われた足跡診断で足跡で歩き方の悪さを診断すると聞いていったが、続きは翌日と言われた。翌日の時間は授業があったので参加できなかった。

- 私は、スポーツActivityとビンゴ、オークションには参加出来なかったけれど、バルーンドロップとダンスには参加しました。甲南大学のみんなでダンスをノリノリに全力で踊っていた時はとても楽しかったです。船に乗っている方大勢で同じダンスを踊ると、一体感のようなものが生まれました。最終日のバルーンドロップの時、バルーンドロップの事を私は何も知らなかったため、風船をとり空気を抜き、記念に持って帰ろうと考えていました。しかし、実際に風船が落ちてくると、周りの方が一斉に風船を割り出したので大変驚きました。この風船は割るものだと気づき、持って帰ることは忘れて私たちもひたすら風船を割っていました。バルーンドロップが終わってから、別の子たちと合流し、話をきくと、あのバルーンの中には、何個かだけ素敵なプレゼントが入っていたことを知りました。同じ大学の奈木野さんがそれに気づき、勝ち取っていました。私は、このような乗客を楽しませてくれるイベントは素敵だと思おいました。
- ダンスはとても楽しかったです。普段はクラブなどへ行ったことがないのでとても新鮮でしたし、ダンスパーティーはこれぞ海外という印象があり、とても気分が上がりました。船内のシニア層の方がとても元気に踊っていて、学生も負けじとテンションを上げて、みんなで踊ったのがいい思い出となりました。
- 一度ジムに行きましたが、本格的な器具がたくさんあり、自分のメニューに合わせて運動を行うことができました。また、走りながら海を見渡すことができるのもよかったです。乗船後から何度も参加したダンスのイベントは、普段ダンスをする機会がないためすごく楽しかったです。どこの会場でも同じ曲でダンスが行われていたため、一度覚えると何どこでも踊ることができたので、いい案だと思おいました。
- 私は全然平気でしたが、船の揺れが酷かったのと重なって、ジムで運動中気分が悪くなった友達がいました。また、ジムは夜中に利用出来ないのが、とても残念でした。ダンスはアトリウムで開催されたものも、プールサイドで開催されたものも、どちらももう少し広い場所でしたかっと思おいました。船のサイズの関係で仕方がないものだと思うのですが、人が集まりすぎて少ししんどかったです。しかし、友達と密着しながら踊るダンスもとても良い思い出になりました。
- スポーツ等のアクティビティなものはあつて良かったです。しかし、プレゼン発表時に上でバスケットボールがしている音がしたので、その音が響かないように防音して欲しいと思おいました。ダンス等の体験型は知らない人とも仲良くなれたし、大勢の人が楽しむことができるので非常に良かったです。

第3部 <各港での対応>

(1) 神戸港での乗船時対応の感想

- 乗船前は乗客でターミナルがあふれていて、乗船手続きをする際に順番を待つ列が整備されきれていなかった気がする。しかし整理券番号もあったことから先に通してもらえてクルーズカード発行の手続きは迅速に行って下さった。カード手続きから乗船まではスムーズに進んだ印象を受けた。船に乗り込む前に、夕日をバックに記念撮影をしてもらえたこともサービスとして非常によかったと思う。



- ポートターミナルでの手続きが、思いのほかアナログだと思いました。
- 神戸港はひとがごった返して乗船手続きは大変そうに見えたが、実際には思ったよりスムーズに乗船できたので驚いた。団体客などはちょっと大変そうだった。出国手続きというのが初めてだったので、もっと大変なものかと気構えていたが、すんなり行けた。
- 船に乗るまでの対応がとても早く、気づいたら乗船するだけになっていたという表現が正しいと思う。個人的には乗船といっても国外に出るので飛行機と同じように煩雑な手続きがあるのかと考えていたので、いい意味で期待を裏切られた。
- 外国に行くということもあり、もっと煩雑で長ったらしい手続きだと思っていたのですが、簡潔で手際の良い対応ですんなりと乗船することができたので、非常に満足です。そしてなにより、神戸港の方々が学生でも誠意をもって接してくださったり、すごく歓迎した雰囲気でもて迎えてくださったために気持ち良く過ごせたのではないかと思います。職員の方にも将来への期待をかけてもらい、それに応えられるようによりしっかり勉強しなければという気持ちにもなりました。
- 神戸港では、荷物の受け渡しや乗船確認などをスムーズにやっていて、とても良かったと思う。案内があったことも好評価。ただ、なんの前触れもなく、パスポートを預かるのは怖いので、やめてほしい。
- 特に長時間待つこともなくスムーズに乗船することができたので良かったと思う。パスポート回収の意図がよくわからなかったので説明がほしかった。

- ・ 出航前の時間帯も船内のアクティビティを楽しむことができ有意義な時間を過ごすことが出来ました。
- ・ 荷物を預かっていただいたクルーの皆様も、誘導していただいた皆様も、笑顔が素敵で、やさしく対応していただきました。分からないことがあってもすぐ応えていただけたのでスムーズに乗船することができました。
- ・ パスポートを見せるまでの間こそ並びましたが、待ち時間は長くなく、手続きが済めばすぐに船の中に入ることができ、非常にスムーズで楽な乗船であったと思います。団体客が受付に固まってスムーズな手続き案内を妨げている感があったので、団体客のルートを別で分けておいた方がいいのではないかと思います。
- ・ 整理券配布も含め混雑は予想よりもすくなく、迅速であった
- ・ 言語対応もしっかりしており、日本人としては不便を感じなかった。
- ・ 荷物の預かりがスムーズであり、入船の際の手続きで少し列ができていたものの対応は迅速であり、よかったです。
- ・ 乗船前eチケットを忘れてしまったのですが、用紙に記入するだけで済み、煩雑な手続きがなかったのも、非常にありがたかったです。また、荷物を預けるだけで、荷物を部屋の前まで運んでくれたので、自分で重い荷物を運ぶ必要がなく、非常に助かりました。
- ・ 整理券を配布するなどの対応は前回利用したときはしていなかったのではないかなと思う。そのおかげでスムーズに乗船手続きが出来た部分もあると思う。乗船客はかなり多いので、スムーズにできる工夫がより進めばいいなと思った。
- ・ 両替所の閉店時間が速すぎるのは問題だと思うが、クルーズ客船の対応には慣れている神戸だけあって、特に戸惑うこともなく乗船でき、幸先良い船旅のスタートを切ることができた。
- ・ あれだけ大きな船なので、行列は長かった。対応は悪くなかったが、もっと早くスムーズに乗船できる仕組みがあればいいのになと思った。出港セレモニーはとても感動したし嬉しかった。これから始まる旅に対するワクワクが増した。
- ・ 集合してから乗船までの時間が思っていたより長かったです。出発のセレモニーはとてもうれしかったです。
- ・ 大きな荷物の回収、健康質問表の配布、乗船のチェックインなど全てがとても迅速でした。だからといって対応が雑であったということはなく、むしろ待っている間に港の関係者の方が「何の団体ですか？」「韓国は初めてですか？」などと声をかけて下さったりと、一人ひとりに気をかけている対応が素晴らしかったです。
- ・ 受付の方がたくさんいてスムーズに対応してくださったので待たされたと感じることは全くなかったです。出港の時のセレモニーはちょうどバルコニーから見ることもできたこともありとても楽しめました！
- ・ 乗船時は、待ち時間も短く割とすぐ船に乗ることができました。あの大人数をすぐ

に対応できるのはすごかったです。また、スーツケースを部屋まで運んでくれるのは狭い船内の通路を移動するうえでおいに助かりました。

- 乗客がとても多くいたのですぐにとはいかなかったですが、それほど並ぶこともなく手続きも丁寧に教えてもらえたので問題なくできました。神戸港での出国の際もとてもスムーズでとても楽に乗船することができました。”
- お見送りの演出が予想以上に盛大で、驚きました。
- 人も多く少し待ちましたが、受付の対応もスムーズでした。
- てきぱきしていて、対応も笑顔で接してくれてよかったです。荷物もスムーズに受け取ってもらえて満足です。
- 今まで船旅に出たことがなかったので、どんな流れで出港するのか不安でしたが、スタッフの方もしっかりしておられたのでわかりやすかったです。ただ、足元に経路案内を書くなどもう少しわかりやすい対応があればよりスムーズだと思いました。
- スムーズで良かった。もっと長蛇の列ができると思っていましたが、比較的すいていてスムーズに乗船できて驚きました。目立った混乱もなくお年寄りの方でも待ちやすいなと思いました。
- 荷物を最初に預けてよいか聞いていなかったのどうすればよいか対応に困った。チェックインの際、クレジットカードの登録をしてくれる人としてくれない人の違いがあったのが気になった。後で登録する場合はまた船内で並んでから登録をしないといけなかったので手間がかかった気がした。
- キャリケースを預ける際にタグのつけ方をよく分からなかったのですが、優しく教えて下さりました。出国審査の手続きも丁寧に下さり良かったと思います。また、吹奏楽団の演奏も良く、素敵な船旅のスタートをきることが出来ました。
- 飛行機と比べ、船の乗船には時間がかかるものの、セキュリティーのチェックは緩さを感じました。持ち込み禁止のものも普通に持ち込めてしまいました。この点は、直接クルーズ会社に問い合わせをして、持ち込めませんという返事ももらっていたので、もっと徹底するべきだったと思います。
- 乗船手続きは手際がよく、スムーズに行うことができたのでよかったですと思います。しかし、列に並んでいるときに質問しようとしてもなかなかスタッフの人がいなかったの、もう少し乗客のことを見てほしいと感じました。そうすることにより、パスポートの確認のところで時間短縮ができると思いました。
- チェックインの際は列に多少の待ち時間があつたが、整理券が配布されていたので、そこまで並んだというような印象は感じませんでした。受付でも係りの方がスムーズにチェックインの手続きやクレジットカードの登録をしてくれたので、船内で自分でカードの登録をする手間が省けて助かりました。ただ、私は船内で使用するカードと携帯を一緒にもっていたために、磁気がおかしくなってしまう部屋が開けられなくなってしまったので、一言注意してもらえたらよかったですかなと思います。

- 多くの人が一斉に乗船するので、それをまとめるスタッフは大変だが、慣れているのかスピーディーに仕事をこなしていくので関心しました。クレジットカード等の対応や、乗船の仕方などしっかり説明してくださったので初めて乗船する人でも安心するだろうと感じた。

(2) 韓国釜山での下船・乗船時・シャトルバス対応についての感想

- 乗船と下船についてはクルーズカードで手続きを済ませられ、順番をすぐ待たなくてもいいのでこれもスムーズだった印象を受けた。シャトルバスも何台も出ていたようなので韓国への観光客にとってはバスの時間を気にすることなく観光できたような気がする。出港の1時間前にはもう船に着いていたので釜山を回る時間が限られていたが手続きをしな



- ければならない時間を含めると妥当な時間設定だったのではないかと思います。今回MERSが大変懸念されていたので、アルコール消毒があらゆる場所に設置されていたことも安心できました。
- 下船・乗船時の対応に関しては、気になる点はありませんでした。シャトルバスは、帰りの待ち時間が少し長かった。
- 下船時もカードを見せるだけだったし、入国もなんだか拍子抜けするくらい楽だった。私たちが下船する時間が遅かったのもあるが、あまり活気のある感じがしなかった。シャトルバスはすぐに乗れてよかったが、バス車内が冷房が効いておらず、とても暑かったのが不満だった。
- 乗船時と同じように一瞬で下船できてとても驚いた。下船は他国に入るということを意味するので厳格な入国審査が待ち受けていると構えていたので、あまりのスピーディーさに拍子抜けしてしまうほどだった。シャトルバスは高級感にあふれていたがクーラーの効きが悪く少し蒸し暑かった。帰りのシャトルバスで相席したクルーズ船で働いているフィリピン人のおじさんと話をすることができてクルーズ船で働くという働いて側の視点を知ることができて新たな見方を得られた。
- 釜山に下船・乗船していないためにあまり実感がありません。
- 韓国釜山での下船時には記入すべき書類もなく、特に面倒な手続きもなく、比較的スピーディーに下船できたので、満足している。乗船時も、特に面倒な手続きもな

- く、比較的スピーディーに乗船できたので、満足している。
- ・ シャトルバス対応については、わざわざシャトルバスを出してもらえるだけでもありがたいが、本数も多くて満足。ただ、冷房がきいていなかったのは不満。
 - ・ 釜山中心地から港までのシャトルバスが帰りは十分置きという短いスパンで運行していたので、特に港に降りる時に焦ることもなく観光することができたので快適だった。個人的には釜山を堪能しきれていないように感じたので、もう少し寄港時間が長くてよかったのではないかと思う。
 - ・ 10分おきにバスが出ており、特に不自由なく釜山の中心地の観光が出来ました。また、釜山ではパスポートを使っての入国審査が無くスムーズに観光を楽しむことが出来ました。
 - ・ 皆さんよりも先に下船したのですが、下船する人々が集まる場所まで、丁寧に案内していただいたり、分からなくて困っているときにもしつかり対応していただいて、心配していましたが、ちゃんと手続きを済ませ下船することが出来ました。
 - ・ 釜山での下船も、時間がピークからずれていたからか非常に簡単でスムーズでした。シャトルバスも時間通りに運行していたし丁寧な日本語を話せるスタッフもいて安心でした。バス内の空調が効いておらず非常に息苦しかったことが印象に残っています。
 - ・ 前日から観光案内所やパンフレットを船内に設置してほしい。ツアーを売り込みたいのはわかるが、地図も詳細ではなくあまりに情報が少ない印象。大人数だったこともあり、シャトルバスの乗車には時間がかかったが、目立った混雑はなかったので本数自体は適切だった。
 - ・ 昨年の下船時には出入国に非常に時間がかかった印象があったため、スムーズで感動しました。
 - ・ 下船時にパスポートチェックがなく、クルーズカードのみで入国することが出来たので非常に下船がスムーズに行われ、全くストレスを感じませんでした。下船後も多くのシャトルバスが離発着していたので、貴重な時間を無駄にすることなく観光を楽しめました。
 - ・ シャトルバスであるとかは自治体としてかなり負担であると思うが、かなり頻繁に出してくれていたのがよかった。乗船・下船のチェックは船でのみ行われて、港でほとんど行わなかったのが少し不安だった。
 - ・ 上陸してすぐに目についたのがお土産ショップで、おもてなしとしては少しどうなのかと感じたものの、シャトルバス乗車時に韓国の伝統衣装を着た女性との記念撮影ができたり、韓国人による日本語でのあいさつがあったりと、韓国に来たと実感させてくれるような要素があったのでよかった。
 - ・ 下船したのが遅めだった分、シャトルバスはあまり並ばなくても済んだのでよかった。きっとラッシュの時間帯に下船していたら、また順番抜かしをする外国人にイ

ライラしたことだろうと思う。帰りは最終のバスに乗れない人もいた。ラッシュ時もそうでない時も変わらない10分毎の運行ではなく、ラッシュの時間帯には短い間隔でたくさん運行させるなどしたほうがいいのではないかと思った。

- 現地の方は日本語が上手でよかったです。帰りのシャトルバスが長蛇の列で時間内に戻れるか不安だったけれど、何とか間に合ってほっとしました。
- お出迎えして下さったスタッフの方の日本語が上手で驚きました。写真にも笑顔で対応して下さりました。シャトルバスは赤をメインにした装飾で龍の刺繍を座席にしたりと、韓国のイメージを表したバスになっている様に感じました。
- シャトルバスのガイドさんは日本語がとても上手で丁寧に対応してくださいました。しかし帰りのバスは混んでいて全員乗れるのか不安になるほどでした。もう少し本数があってもよいのではと思います。船の前にお土産屋さんがもっとあれば利用者も多いだろうと思います。
- 対応は素晴らしかったですが、とにかくバスの中が暑くてマスクを外したくなるぐらいでした。6月末でしたが、できれば冷房がほしかったです。
- 釜山での下船・乗船は特に手続きがあるわけではなかったのもとてもスムーズで時間を取られることもなくてよかったです。シャトルバスもすぐに乗ることができました。帰りのバスはやはり最後の方のバスが混んでいて乗れない人も出ていたがあれだけの人数が乗っていると考えれば全然問題ではなかったと思います。
- シャトルバスの本数が少ないのではないかと思いました。待っている人の数が多いと、並ぶのがたいへんだったイメージがあります。
- 釜山での下船、乗船ともにスムーズでした。シャトルバス内の温度が暑くて苦しかったです。船に戻るときのバス停をもっと目立つようにしてほしいです。
- 待ち時間も少なく良かったが、バスの中が異常に暑かった。チマチョゴリのお姉さんを見てわくわくが倍増でした。
- 下船したところに露天商がいくつかあって良かった。しかし、化粧品などが少ない気がした。ご年配の方や千沙なお子様連れのお客様は歩くのも億劫だと、下船すぐで引き返しそうだと考えたときに、もう少しでもいいので露天商や軽食のお店があっても良かったのではないかと感じた。
- 釜山へは今回下りなかったのも機会があれば行きたいです。シャトルバスがたくさんあったのは船の上からも見えました。シャトルバスを違う国で乗って対応を見るのも楽しそうだなと思いました。
- 船から降りる時の手続き丁寧にして下さりました。降りたところで乗船員の格好をしている方と写真を撮ってもらうことができ良かったです。また、釜山観光に行っていないのでシャトルバスの対応は分かりません。出港する際の韓国の方たちによるダンスや音楽のお見送りをバルコニーから見ていましたが、ダンスはとてもカッコよく、音楽もとても素敵でした。

- ・ 下船時は、パスポートの提示や税関審査がないのがとても楽でいいなと感じました。また、乗組員の方と写真を撮っていただけるサービスなどがいいなと思いました。
- ・ 今回はMERSの影響でプサンの観光はできませんでしたが、下船時はカードと顔の認証を行うだけだったのでとてもスムーズでした。また、下船してすぐに写真を撮ってくれたり、出港のときにはダンスなどで見送りをしてくれたことが印象に残っています。
- ・ 釜山では港に上陸しただけですが、小さなお土産を販売しているブースもあったので、記念に買い物も出来てよかったです。しかし私はその時日本円しか持っておらず、お店側も日本円のお釣りがなかったため、何も購入しませんでした。両替所はあったのですが、朝の時間は閉まっていました。私ははじめから釜山で何か買う予定は無かったので日本円をウォンに両替していなかったのですが、もし現地で両替所が開いているか日本円が利用できれば何か購入したかもしれないなと思いました。
- ・ 下船の港で、お土産を販売するなどその土地に上陸しない人でも、近くで買い物ができるのは良いと思いました。下船乗船時にちゃんと認証確認や荷物検査を行うので、安心できるものだと思います。

(3) 神戸での下船時の対応についての感想

- ・ 税関の場所で少し人が並んでしまっていたかなという印象を受けたが、警備がきちんとしており、荷物確認・身分証明も滞りなく手続きできたような気がする。下船時はスムーズに進んだもののターミナル駅の改札口が少なくその時に人が密集していたということが気になったのでその部分で対策を講じてほしい。
- ・ 日常生活に戻ってしまう寂しさはあったが、スムーズに下船できた。対応にも満足しています。
- ・ 神戸での下船も、乗船時と同じように簡単にすんだのでストレスなく日本に帰ってこられた。ただ、税関がなんだかゆるいような気もしたが、大丈夫なのだろうか？全体的に不満はまったくないが、そこだけが気になった。衛生面も結局そんなに対策が見られなかった気がする。
- ・ 下船も非常にスムーズで入国審査も早かった。正直なところ、まだ船を降りたくないと思っていたので、あまりにも一瞬で現実の世界に引き戻されて悲しいくらいだった。懐かしい神戸にかえってきたことをひしひしと感じながら下船した。



- ・ 事前に案内がされてあったために関税などの諸手続きもスムーズに行われ、乗船時と同じように拍子抜けするくらいすぐ終わってびっくりしました。わかりにくい部分もなく、本当にありがたかったです。
- ・ とくにめだった問題はない。
- ・ マーズが流行していた韓国からの帰国の割には思ったよりも長くない入国審査だったので疲れていた身としてはとてもありがたかった。
- ・ 下船もスムーズにすることが出来ました。飛行機などは降りる時間が短時間に集中していますが、そのようなことがクルーズ船ではなかったことが一番の良い点であると感じました。
- ・ 非常にスムーズで感動しました。適切な位置に人員を配置しており、またそれぞれの箇所での対応も迅速だったためイライラすることがありませんでした。
- ・ 事前に荷物を運びだしてくれたので、船内の狭い通路で、荷物を持った人同士が鉢合わせて通れなかったり、エレベーターが混んでしまったりと言うことがなく、スムーズに降りることが出来ました。
- ・ 前回乗った時、自分の荷物が他の乗客に持って行かれた経験があるため、少し警戒していたが、タグをつけたり、本人確認を行っていたりしており、そういうトラブルが減るような対策が行われていて少し感動した。
- ・ 昨年度、荷物のトラブルがあったことについて、今年度は事前にタグ付けして取り間違えの無いようスタッフが確認していたので、全く問題なく下船できた。昨年度からの向上がみられ、よかった。
- ・ スムーズではあったがあっさりとした下船で少しさみしかった。できればもう少しだけ長く船内を満喫したかった。
- ・ 思っていたより、スムーズに下船できてよかったです。でも現実の生活に戻るのが寂しかったです。
- ・ MERSについてのお知らせをいただけて良かったです。発症する確率は少ないものの、心配は多少あったので。帰りも行きと同じように、迅速な対応のおかげで早く帰宅する事が出来ました。
- ・ 私たちは朝ごはんを食べてからゆっくり下船したので混んでいなかったのだと思いますが、スムーズに下船することができよかったです。クルーの方も最後まで笑顔で対応してくださり嬉しかったです。
- ・ 日本に帰ってきたとすぐわかるようなすばらしい対応でした。
- ・ はじめの乗船の時と同じく、特にめんどくさいような手続きがあるわけでもなく、帰りは行く時よりは疲れていましたがとてもスムーズだったのでとてもよかったです。
- ・ 下船に関しては、あまり記憶はないが、スムーズに下船することができて良かったと思います。

- 待ち時間もほとんどなく、すんなり下船できました。
- 税関手続きも、荷物の受け取りもとても早かった。疲れていたのもとても助かった。スタッフの数も充実していたと思う。
- 時間の指定はあるものの、荷物の配送サービスがあるのはいいと思った。また、税関のPC臨時カウンターが沢山あり時間がかからないように調節しているのだと実感しました。飛行機だと長時間長蛇の列で待たされるので個人的にはすごく快適だと感じた。
- 乗船時と同様とてもスムーズに降りることができたのですごく楽でした。下船の日もせかさることなくゆっくりと朝食を取ってから降りることができたのでおもてなし最後まで行き届いていると感じました。
- 10時過ぎという遅い時間に下船したので人も少なく、スムーズに下船できた。船からターミナルまでがとても近く入国審査も楽だったので疲れた体にはとても助かった。最後にクルーの方にお気を付けてといわれたのがとてもうれしかった。
- 神戸港に着いた時、地元に戻ってきたと思いました。下船の手続きをスムーズで気持ち良かったです。ポートターミナル駅のエスカレーターが一つしかなく、行きが下りであったので、帰りは大きい荷物を階段を使い上がらなければいけないと思っていましたが、帰りはエスカレーターが上りになっていました。その心遣いが嬉しかったです。
- 最終下船の際は、税関審査などありましたが、係員の方がスムーズに誘導してくださりよかったです。私は手荷物を自分で持っておりましたが、船は飛行機と違い、手荷物をすべてターミナルに並べて置いてあったので、荷物を預けても時間がかからないなと思いました。
- 下船時も乗船の時同様に、対応がスムーズでした。神戸港で働いている人は笑顔で丁寧な対応をしていたり、英語も流暢だったので好印象でした。外国人も利用する場で日本人の質の高い対応をみることが出来てよかったです。
- 下船時間が分散されていたためか、特に時間もかからずスムーズに下船出来ました。空港だと待ち時間が無駄になってしまう場合もあると思いますが、クルーズ船だとギリギリまで食事をして時間になれば、すぐ下船出来るので負担がかなり少なかったと思います。
- 下船に記念としての写真撮影など暖かく対応してくれたので、気持ちよく下船できたと感じています。

第4部 <寄港地の魅力>

(1) 寄港地としての韓国釜山の魅力

- ・ チマ・チョゴリを身につけた男性・女性と一緒に写真を撮るというサービスがまず嬉しかった。電光掲示板でも「welcome to diamond princess」という表示がなされていて、歓迎ムードが伝わってきた。釜山は海産物が有名なので市場にも出向くことができ、ロッテマートといった韓国ならではの大きなショッピング施設もあって、商店街も賑わっていて、女性の視点から見るとソウルの次にいろんな買い物を楽しむことのできる街なのだろうと思った。



- ・ 初めての韓国でした。MERSが懸念されていましたが、実際、歩いてみると、それほど大ごとにはなっていなかったのよかったです(マスクしている人がそんなに多くなかった)。釜山タワーからの景色や昼食のボリュームについては満足できました。
- ・ 釜山の港は、日本の神戸の港と違う雰囲気を感じた。雑然としたアジアっぽさ？がより強い感じがした。街の雰囲気としては可もなく不可もなくという感じで、特別何かしら楽しめるようなポイントがなかったように感じる。チャガルチ市場も物珍しさはそこまでなかった。釜山タワーから見る街並みは、日本とは違う風景だったので面白かった。
- ・ 韓国釜山の魅力は語り尽くせないほどである。生まれて初めて船で外国に出国するという経験はとても感動にあふれたものだった。果てしなく続く水平線しかなかったところからいきなり韓国の島が現れ、陸に近づくにつれ釜山の街並みが鮮明に見える始めて感動した。また世界史の登場人物として名高い李舜臣の像を見れたり、釜山タワーから釜山を一望できたりして感動した。下船直後は日本と似ていると感じたが、タワーから見ると海に黒々と並ぶ船や緑色の屋上など、地上からではわからなかった韓国について知れた。
- ・ まずは、海に近いということで、市場があること。次に大都市なので、ロッテモールなどがあり、ショッピングには困らないこと。また、ショッピングモールなど近代的な雰囲気がありながらも、下町感があるところも魅力だと感じます。

- ・ 観光地ということもあり日本語表記も多く、ハングルがわからなくても大丈夫なのでとてもごろな海外旅行地だと感じた。大きなショッピングセンターも多く、お土産の購入や韓国料理の堪能もしやすかった印象がある。
- ・ 私が感じた釜山の魅力はアジア有数の港町であることです。ダイヤモンド・プリンセスが入港できるほどの大きなクルーズ船用の埠頭を有していることは勿論、数多くのコンテナ船などを見ることができ、人・物の移動の拠点になっていることを感じることが出来ました。
- ・ 食べ物がおいしいところ、また昔ながらの街並みが今でも残っているところ。
- ・ 何より料理がおいしかったです。そして、短い時間でも歩いて釜山タワーとチャガルチ市場の観光ができるコンパクトさも良かったです。想像よりもショッピングする場所が多くあり、3時間～1日なら歩いて楽しむことができる街で、寄港地としては適していると思いました。
- ・ 主要な観光名所は市街地に固まっており、移動が少なくて済むのは魅力である。料理などショッピングはともかくとして、日本と比べても観光名所が月並みで、海外の雰囲気味わうというだけであれば十分であろうが、目的地でクルーズを選択すると弱く感じた。慶州など郊外の名所を訪れるのもいいが、時間が短すぎるので選択しには入らないので、寄港地自体の魅力を高めることが必要。
- ・ 港から比較的近い場所に観光地が広がっておりよかったです。また、韓国の特徴である水産物の市場も見ることができ良かったです。
- ・ 港からそう遠くない位置に市街地があるうえに、シャトルバスが数多く離発着しているので、アクセスがかなり良いのが釜山の魅力であると思います。釜山タワーなどの観光地も歩いていける距離にあたり、少し遠くても地下鉄網がしっかりしているので非常に便利でした。また、市内に換金所が多くあったこともありがたかったです。
- ・ 正直観光地としての魅力があふれているような町ではないとは思いますが、韓国料理や両替店、大型ショッピングモールなど短期間で韓国を味わうにはいい街なのかなと感じた。
- ・ アジア有数の港湾である釜山であるが、観光に力を入れているような印象はなかった。例えば、同じ韓国でも、ソウルでは、日本語を含む外国語を話せるボランティアガイドが町のいたるところに配置されており、市としての観光への取り組みに非常に満足したことを覚えているが、そこまでは難しいにしても、寄港地としての魅力に関してはまだまだ改善の余地がある印象である。



- ロケーションも最高だし、ショッピングをするのにも困らないところ。
- ソウルは行ったことがあったけれど、釜山は初めてだったので釜山に行けてよかったです。港町ということで、高いところからの景色が良く買い物もできて満足でした。
- 港に近い町だと聞いていたので、工場や市場ばかりなところだと想像していました。しかし実際は大きなビルが立ち並び、たくさんの若者がショッピングを楽しんでいました。雰囲気は日本とあまり変わらず、お店の方も日本語がとても流暢で、日本人でもとても安心する場所でした。ご飯も辛かったですが美味しかったです。
- 港があり海が近いということでショッピングモールの屋上から見た景色がとても綺麗でした。時間の都合上釜山タワーに登れなかったことは残念ですがきつともっと美しい景色なのだろうと想像できました。
- 当初は、MERSの流行で不安がありましたが何事もなく終えることができよかったです。韓国釜山ですが、日本から距離が近いということがあり、看板には日本語が多くわかりやすいだけでなく、店員の方々も日本語を話せる方がいたので買い物がしやすかったです。
- 今回のクルーズアカデミーでは朝は発表があったためあまり時間がない中でしたが、それでもある程度回れたというところが一番の魅力であると感じました。やっぱり、船を降りてからすぐに観光地がなければそこに行くまでの移動時間の方がかかってしまう可能性もあるので港から近いところに観光地であったり何か有名な場所があったりすることは重要だと感じました。
- 予想していたよりも都会でした。港町で、ソウルとはまた違った良さがあったと思います。
- 観光時間が4時間程度だったので、ごはんを食べる時間しかなかった。釜山にはあまり興味がなかったので、行くきっかけになった点ではよかったです。
- 観光のモデルコースなど、提供してもらえたらうれしい。
- 釜山での観光時間が短すぎて、あまり印象にない。寄ったレストランのご飯はおいしかった。買い物できる場所や施設は多いと思うが、時間があつたらもっと良いと思う。
- MERSの影響もあり、今回私は釜山観光に行きませんでした。他大学の釜山観光に行っていた方の写真を見て、私も観光に行けば良かったと少し後悔しました。釜山観光に行っていないませんが、船を降りてすぐのところのお土産屋さんには行きました。もう少しお店があつても良いと思いました。



- 釜山には岸壁にしか下船しませんでした。岸壁でお土産が安い値段で買える点はいいなと思いました。また、そこではウォンがなくても円で買い物ができていて、とても便利だなと感じました。私は何も買いませんでした。
- MERSの影響で市内観光をすることはできなかつたですが、5日間という手ごろな期間で往復することができる釜山は寄港地として良いものだと思います。また韓国を旅行するときは、ソウルを訪れる人が多いと思ったので、釜山にすることで乗客を集客することができるように感じました。

第5部 <スマートクルーズアカデミー>

(1) スマート・クルーズ・アカデミー発表大会<働いている人が長期休暇を取りやすくなるための仕組みとは？>(事前準備から、発表までの感想)

- ・ 日本でどうすれば長期休暇をとれるかというテーマで班内でディスカッションをしつつ発表に向けてネットなどを使用し調査をしていった。グループリーダーが個人に対してここを調べてくるということを指示していただき準備、発表までスムーズにいくように進めてくださったと思う。1ヶ月前から課題を与えられてい



- たことから準備まではいろいろ調べることができたこと、クルーズ船内でも準備時間が設けられていたことも議論を深堀するのに良かった。一緒に乗船した自治体の方の意見も貴重で、実際に働く人の視線から私たちの提言に対してアドバイスをしてくださったことも本当にありがたかった。ほぼ初対面の他大学の方と意見交換をするということはなかなかない機会なので、有意義な時間を過ごすことができたし、普段のゼミ活動とはまた違う雰囲気でも議論を進められることができたと思う。
- ・ グループワーク、特に他大生とひとつのものをつくりあげるといのは、難しかったです。なかなか時間がとれなかったこと、意思疎通ができず、仕事の偏りもできてしまいました。今後グループワークをする際に、役割分担を明確にしたり、どういう方向性で話を進めていくのか、といった技術的な部分に関して学ぶことが多かった。大学間交流として、考え方の違いや発表の仕方にも違いを感じることができた勉強になった。
 - ・ 事前準備の段階では、各大学お互いに忙しかったのであまりマメな議論ができなかったのが残念だった。発表は短い時間でどのグループも完結にまとめていて、レベルの高い提案もあり良かった。他大学の学生と真剣な議論ができる場としてはとても価値のある取り組みだと思った。もう少し事前準備で交流やディスカッションができることによりよくなるのではないかと思った。
 - ・ 大学がバラバラであったために全員と直接あつて話し合いができなかったことや本当は他大学の人たちともっと交流したかったが元来の人見知りをしよく知らない人に対して警戒心を持ってしまう性格から積極的になれなかったことを少し後悔して

いる。けれど一つの班として他の大学の方たちを協力しながら発表まで行き着くことができ満足している。

- 説明会の際に途中で退席した分グループのメンバーに迷惑をかけてしまったりしましたが、他のメンバーが計画的に準備を進めてくれたり、リーダーが引っぱってくれたおかげで、乗船する前にはだいたい発表のPPTが出来上がっていました。だいたいの提言内容もその時点で固まっていたし、スケジュールという意味ではすごく流れがうまくいっていたのではないかと思います。お互いに知恵をしぼる場面では言いたいことを言い合い、あまり顔を合わせたことのないメンバー同士でしたが、協力していこうという雰囲気が作れていてよかったです。
- 事前に全体で集まれる時間がなかったのは、不十分だと感じます。せっかく普段と違う人と政策を考える機会なのだから、もう少し事前に全大学集まれるような機会を設けて欲しかったな、と思います。やはり、LINE会議やSKYPE会議には限界があるので。
- 違う大学の人と交流できることは意義があると思います。WESTやISFJに出るにあたって、他大学の人の政策立案に対する意見を聞くことは大事だと思いますし、純粋に交友関係が広がるのはよいことだと思います。”
- 他の大学の方々と一緒になって話し合うことによって様々な考え方を聞くことができるとてもいい経験になった。個人的なことについていえば、話し合いで政策提言を考える時にあまり自分の意見をつくることができなかつたので、もっといろいろな視点でものを見て考えていくようにならなければならないと思った。
- 各大学が交流するという形でグループが生まれ、最初はお互いに自分の意見を発表することに躊躇してしまっていました。しかし、話し合いを重ねるに当たってグループ内での意見をしっかりと行うことが出来るようになりスムーズに政策提言まで決めることが出来ました。しかし、話し合いの時間が取れないという理由もあり、一部の人だけで方向性を決定しているグループもあり「大学交流としての意義」を考えるのであればその部分に課題を残しているように思います。
- 事前準備に関しましては、やはり大学間交流ということで、直接話し合いをすることも出来ませんし、skypeやlineを使って話し合いをすることも、夜の10時からといった限られた時間でしか行えず、難しかったです。ですが、他大の先輩方を中心に、限られた時間の中で皆さんと話し合いができたのはとても楽しかったですし、いい経験になりました。
- 大学が異なるメンバーでプレゼンの事前準備をするのは、LINE等のメッセージを通してしか議論ができないことや、スライドを作るときに意見を求めにくい点で、制約が多くありました。しかし、キープポイントだと思う部分がそれぞれ違っていたり、煮詰まった時に斬新なアイデアがポンっと出てきたり、考え方の違う4人が自由に発言しあえたからこそ生まれた提言ができたと思います。

- ・ 事前の準備期間でなかなか会って話ができない中でどう議論を進めていくかという点で、情報共有・意見交換などの仕方は教訓になった。バックグラウンドの違うグループ内で作業を進めることは、自他の意見の整理・わかりやすく伝えることが重要になると感じる。このことは普通のゼミ活動においても求められるため、よいと感じた。
- ・ 同じゼミの人だけではなく、他大学の学生ともチームを組むことにより、より多角的な視野で取り組むことができました。事前にテーマが公開されていること、事前にリサーチをし考察することで、ある程度知識がついたうえでの話し合いだったため、より有意義な発表大会になったと思います。また、他大学の学生と仲良くなることができたことも大きな収穫です。今学んでいることや将来の話など様々な話をすることで視野が広がりました。
- ・ 今回は、一カ月ほど前から班のメンバーの人とやり取りをすることができ、班内で意見をすり合わせていくことができたと思います。大学が異なる人ばかりで直接会って話し合うということは出来なかったのですが、しっかり事前準備をすることが出来たと思います。大学が異なる人たちと共同作業することで新たな刺激を受けることが出来ました。
- ・ 大学が違うと顔を合わせて話し合いをする機会をなかなか持てないことが大変だった。現状分析や提言内容は発表時間が限られているため、なるべく基本的な部分だけ抑えて、より分かりやすい発表にしようとしたがなかなか難しかった。大学間交流の意義としては、大学が違うと教育内容・バックグラウンドの違いからか思ってもない案が出てくるのでその点が面白かったし、参考になる部分も多くあった。
- ・ もう少しクルーズ自体に関係の大きい内容にした方が、インフラとしての、レジャーとしてのクルーズを知ることができ、よかったように思う。しかし、こういった機会自体は学生間の交流という意味で非常に有意義であり、これからも続けていくべきであると思う。
- ・ 事前準備に関しては各班同じような現状把握を行っていると思ったので、発想を大事にした提言にしようと思った。乗船前に話し合う機会が1度しかなかったため、事前準備に関しては不十分であったと思う。しかし、乗船後2日目の港湾関係者の方を交えてのディスカッションは参考になったし、あの機会がなければ意見はまとめられなかっただろうと思う。発表はもったきちんと練習してから臨みたかった。大学間交流としては、グループ内ではある程度の交流ができたが、グループが違うとライバルであるとの認識もあってかあまり円滑な交流はできなかったように思う。
- ・ 他の大学の人たちとグループになってプレゼンをするのは初めてだったけど、自分の意見が班の意見になったのはうれしかったです。阪大生のパワーポイントの作り方が上手くととても参考になりました。発表は少し緊張したけれど、とてもいい経験になったと思います。

- ・ チームで行うものでしたが、私たちの班はほぼ私一人で準備をしてしまいました。他大学ということもあり連絡を取りにくく、チームの人たちもあまり意見を言うようなタイプではなかったので、難しかったです。周りを動かさず、自分だけで暴走してしまう自分の悪さが出てしまい、発表終了後反省しました。
- ・ 今までプレゼンの準備などをする機会は何度もありましたがそれは個人での作業であって、意見や進め方など各々に異なった考えを持った者同士で一つのものをつくることはとても難しかったです。直接会って話し合う時間も取れず、LINEでのやり取りが主でした。短い時間の中で複数の意見をまとめるために、自分の意見を分かりやすく伝える難しさや、いつまでにどこまで進めようというタイムスケジュールの設定の大切さを学びました。
- ・ セミナーによく参加していたので、他大学のひとと交流し、一緒に発表するということは経験していましたが、今回のクルーズアカデミーでは、セミナーと違い日数が多かったことや、連絡を頻繁に行うことが可能だったので、発表の内容としても濃いものが出来上がったと思います。発表までには、やはり学生だけでは結論に至ることが難しく、船内準備の際に自治体の方々の意見をいただいたおかげで考えやすくなりました。他大学のひととの交流によって、普段考えられない意見を聞くことができたので大学単位より有意義でした。
- ・ 準備の期間は十分ありましたが、やはり、クルーズが近づいてこないとあまり準備も進まなかったです。さらに他大学の学生と協力してであったので、より時間も合わせにくかったのですがそれでも普段接点のない学生と交流をすることでとても良い刺激をもらうことができたと感じています。準備段階で後悔したことは一度でいいので実際に集まってしっかり顔を合わせて話す機会を作るべきだったかなということ。短い期間なのでまず仲良くなることも必要だとも感じました。自分の班はクルーズ前からスカイプなどでしゃべっていましたが、クルーズにいて実際にしゃべってから仲良くなれたと思うのでその機会を先に作ることも良い準備には必要なことだと感じました。”
- ・ 他大学の生徒との交流の機会が少なかった自分にとっては、大変貴重な機会でした。専攻分野が違うということで、様々な視点からの考え方があり新鮮でした。グループごとに特色があっておもしろかったです。
- ・ 他大学との交流ということで、物理的な距離があったので議論をする時間がなかなかとれない点に苦労しました。大学ごとにチームを組むのもいいかもしれません。でも、他大学とかかわることで船内でも仲良くなれたし、いい点もたくさんありました。
- ・ 私の班のメンバーはとても積極的に話を盛り上げてくれて、私でもとても発言しやすい雰囲気でした。それぞれが意見を言い合って、足りないところは補ってくれたり、アドバイスなど交換し合って、とても充実したものだった。乗船までに顔合わ

せの場があったことが良かったと感じた。

- 阪大、県大、甲南の学生が合同でグループを組むということで、時間の都合によりうまく打ち合わせ時間がもてなかった。やり取りはしていたものの、直接会ってグループワークできるのには越したことがないと、自治体の方のお話を聞き、発表に向けた最終調整の時に実感した。
- 事前準備は、説明会後のそれぞれの予定が合わず、LINEのみで話し合いをした。説明会の時に話していた「正規雇用と非正規雇用」に着眼点を当てて考えた。正直、もっと皆で掘り下げることが可能だったのではないかと後悔している。発表では、質疑応答の際に、山本氏と他大学との議論が白熱しており、刺激的であった。また、大学によって、プレゼンにそれぞれのカラーがあり、見習うべき所や、これは甲南生も負けていない！と思える所が発見できた。
- 大学が違う中で意見交換をするのは難しく、LINEで思っていること、実際にあって話すと思っていたことと違うことがありグループワークの難しさを実感しました。社会にでればいろんな人がいるのでその練習が今回できたのではないかなと思いました。
- 説明会前は各自調べものをして着々と進めていたが、説明会の後も全く方向性が決まらずそのままずるずる1週間前まで連絡を取らなかったのが最後の追い込みが大変だった。スライドが4枚の制限があり、簡潔にまとめるのが大変だったが、簡潔にまとめた班ほどプレゼンが分かりやすく、高評価だった。
- 今回のグループは3大学が合同であったので、話し合う機会が極めて少なかったです。今回は特定の人に少し任せてしまったところがあり、自分自身もう少し何か出来ることがあったのではないかと考えています。他大学とグループワークをする事で自分の中にはない考えを知ることが出来ました。また、自分はまだ全然知識も余裕もないと感じさせられました。
- プレゼンテーションの事前準備は、実際に顔を合わせてミーティングする機会が、乗船前に1.2回しかなかったため、調べは大丈夫でしたが、パワーポイントにまとめる作業が大変でした。LINEがなければ、本当に進まなかつたろうと思います。今回、他大学の学生と考えることで、議論の進め方の違い、発想の違いがいつも以上にあり、いい刺激になりました。少し先になりますが、就活でのグループワークもこんな感じになるのかなと、少しイメージもしながら取り組めたので、個人的には就活の練習にもなったと思います。
- 事前準備は、1回のミーティングとSNSを使っただけの情報交換だけでしたが、テーマについての情報収集や知識を深めるには十分な時間だったように思います。乗船してからは、直接チームメイトと意見を交換したりプレゼンを作り上げていきました。その中で大学ごとにプレゼンの構成や意見の出し方が異なっていることを感じる事ができたので、これからのプレゼン作りに生かしていきたいです。また、社会人

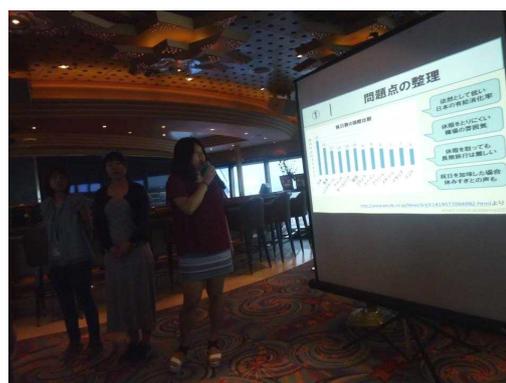
の方から直接アドバイスをいただけたことによって、長期休暇が取りづらい状況を身近に感じることが出来ました。結果は残念ながら入賞することはできませんでしたが、長期休暇の現状を知れたこと、また初めて会った他大学の学生と共に1つのプレゼンを作り上げたことは貴重な経験になりました。

- このアカデミーでは他大学の方とグループを組むという点に非常に意義があると思います。どうしても同じ大学間だと、同じ学部で同じ先生の授業を受講しているという点において、その人のバックグラウンドが同じであるため、似たような意見が多くなってしまいます。しかし、他大学の方と意見を出し合う事で、新しい発見や新しい観点を見つけられたように思います。さらに、時間が限られている中で、どのように役割分担をすれば効率良く進める事が出来るのか考えながら準備出来たと思います。
- 準備をある程度していたおかげで、船内のイベントなど多く楽しめたので、クルーズ客船に乗る前に1回集まって準備作業を行うことは非常に良いと感じました。他大学と交流することで、考え方の違いやその大学の特色が出ていて良い刺激になりました。

(2) スマート・クルーズ・アカデミー発表大会〈働いている人が長期休暇を取りやすくなるための仕組みとは?〉に対する提言(各班の発表を聞いての感想と提言)

〈優勝チームの提案は、「上司の3割をフランス人にする!」でした。(笑)〉

- 私たちは長期休暇をとることに対する阻害要因とそれに対する解決策をそれぞれ挙げていった。各班の発表を聞いていると、上司としてフランス人(先進国の中で有給休暇をとる制度が整っている)を導入すればよいのではないかと、上司と部下が協力し合うことを強化する仕組み、多能工の推進など私たちが考えられなかった解決策がたくさん



提示されていた。客観的に見ると私たちの解決策は現実的なのかなと思ひ、もっと学生らしいアイデアを取り入れても良かったのかもしれない。ただ解決策を提示する際にその根拠を考えること、制限時間もあつたことから、導入から解決策への論拠立てをコンパクトにすることが求められていたとも思うので課題解決能力が問われていた気がするし、今回のアカデミーで行った作業や発表までの流れは論文執筆

など今後の活動に大いに役立つと思った。

- 発表前に、松本君から個人的に、上司の3割をフランス人にするという案について話を聞いていたので、こういった提言をする際には、まずはしっかりとした情報収集、そしてそこからパーツをくみ上げていく発想力、柔軟性が必要だと感じました。
- 各班の提案のなかでは、実際に改善につながるのではないかと思えるようなものもあったし、自分たちの班では出なかったような意見があったため新鮮だった。個人的には、第三者機関を作って有給や休みの調整をすることでみんながバランスよく休暇が取れるようにする案を出したかったが班内でうまく推せなかったのが残念だった。
- 8つも班がありそれぞれが違う意見を出していて、長期休暇を取りやすくという課題の元で個々の班の個性や広がりのある意見を聞いてよかった。どの班の発表内容も熟考のあとが感じられ、就職後に必ず向き合うことになる長期休暇の問題を考える機会があつてとても良かったと思う。
- 自分の班で提言内容を考えていたときもそうですが、制度というよりは長期休暇をとりにくい傾向というか、風土のようなものが染みついている部分があると強く感じました。他の班の発表などを聞くと、自分たちのグループよりも現状分析がしっかりしているなと感じたり、自分たちとはまったく違う視点からものを見たり、まったく考え付かないような斬新なアイデアを聞くことができ、どの班も非常におもしろかったように思います。
- 自分たちの班ではワークシェアリングのために何が必要か考え、ワークシェアリングのためには、多能工を育成し、一人が休暇を取ったとしても、問題が起きないようにする、という仕組みを考えました。ただ、仕組みを創造する段階では、ある程度の強制力も必要だと感じました。発表にこそされませんでしたでしたが、ひも付き減税を行うという仕組みには感心させられました。全班、独創性よりも実現可能性に重きを置いていたような気がします。
- 自分たちの班はアカデミーで青森県の方と静岡県の方のご意見を聞いて、乗船前に考えた政策とはかなり違った政策提言を作り直した。やはりネット上で調べただけではわからない現場での事情があるのだと思ったし、そのような生の声が聞けたことがこのアカデミーの有意義さを確かなものにしていてのだと思った。
- 各班の発表では、現在の休暇制度の問題点を解決する方法として様々な提言が行われており大変有意義な発表をすることが出来ました。
- また、今回は「長期休暇の取得」に関する政策提言でしたが、次回は「若年層がクルーズに参加するための方法」などをテーマにするとより学生であることを生かした政策提案が出来ると感じました。
- 残念ながら、他の班の皆さんの発表は聞くことができなかったのですが、このテーマについて発表を通して考えたことは、日本人が長期休暇を取れるようになるには、

長期的な視点が必要だということです。文化や慣習の違いから、長期で休暇を取るということは、取れないというよりも取りたいという人が少ないように思われるからです。

- 予想していた通り、他班は慎重な現状分析の上に手堅い提言をされている印象を受けました。みんなほとんど同じ資料を基にしているのに、基軸とするアイデア（多能工やBUDDYシステムなど）が異なるところも色の違った提言が生まれるのかと、おもしろく感じました。自分の班の提言については、多少根拠がうすくても画期的で根本的な解決につながるような思い切ったものを作り出したかったので、その意味では成功だったと思います。後輩のいいアイデアを生かしきれない知識不足さを反省する機会にもなりました。
- 問題点の把握をデータを使ってしっかり固めてきている印象であった。提言に関して、自分たちも、先行事例をただ列挙するだけでなく、新規性という面でも「学生らしさ」にもっと注目するとよかったと思う。
- 自治体の方から現場の話聞いていて強く感じたことは、同僚からの目と市民からの目が長期休暇が取りにくい大きな要因だということです。このことはつまり日本全体として休むことがいいことだというノームを植え付けていく必要があることを示しています。そのためには小手先だけの対策ではなく抜本的な対策が必要です。比較的堅実な現実的な案が多かった中でフランス人CEOという案が一位に選ばれたのもその表れだと考えます。まずは、テコ入れとして、トップが休暇を取らせるように誘導する政策（罰則規定等）、まとまった期間の国民の休日をつくる等多少強引にノームを作り出すことが必要だと考えます。
- 各班、提案した解決策の実現性と言う面では、不十分なところが多かったですが、各自創意工夫を凝らした提言が出来ていたと思います。個人的には、安易な海外の制度の模倣ではなく、課税の工夫などを行うほうが、興味深い案であり、かつ現実味があったと感じます。
- 今回、事前に提言で大切なのは新規性と実現可能性だと知らされていたので、基本的にその2つの視点で他班の発表を聞いていた。その2つのうちどちらも達成することはなかなか難しいものだなというのが率直な感想で、どちらかが出来ていればどちらかが出来づらいんだなと感じた。有給取得がそのまま長期休暇につながるのか、という部分をもう少し煮詰めたならより面白い発表が出来たのかなと思った。制度改革よりも意識の改革をどう進めるか、が大切だと思う。
- 事前に他班の人と話す限りでは、結果的に似通った提言になるのではないかと考えていたが、各班ともそれを意識してか、ふたを開けてみればそれぞれ全く異なる形の提言となった。先生方や港湾関係者の方々からのフィードバックの時間がもう少しあるとよりよい発表になったと思う。
- 思っていた通り、現状把握はどの班も同じくらいだったと思う。与えられた課題に

対して、何を一番重視して解決策を練っていくかに個性が表れた。このような課題を考える際には、ふわっとした雰囲気ではなくきちんとした分析（思考）を基にメスを入れる部分を考えなければならないと思った。プレゼンは、やはり経験の数でその上手い下手が分かれると思った。阪大生は堂々としていて聞きやすかった。

- ・ 実際に働いている人が長期休暇をとるのは考えていて難しいと思ったが、ステレオタイプを変えていって仕組みを作ることは大切だと思いました。
- ・ どの班も案がしっかりとまとまっているなという印象でした。ただ自分たちも含め、奇抜なアイデアがなかったのが残念でした。フランス人を上層部の三割配置するというアイデアの詳細をもっと聞きたかったです。
- ・ 各班それぞれ異なった内容でそれぞれの色が出ているなと思いました。印象に残っているものはバディを組んでどちらかが休暇を取ってもパートナーが穴を埋めることができるという仕組み、上司を休ませてその期間はその部下たちで対応するという仕組みです。会社内でのコミュニケーションを取る機会も増えそうだし自分とは少し異なった仕事を経験することでスキルアップにもつながると思いました。
- ・ こういう考え方もあるのかと思うだけでなく、これは実現可能かと発表を聞いている際に、1つ1つのことに対して考えることが多く頭を使いました。長期休暇を取ることでは、他国が成功している事例や日本独自の目線で考えていくことでいい案が出ました。私たちの班は、有給休暇取得率の公表を通してより有給取得しやすい環境づくりを会社間での競争を促進するという案でしたが、やはりこれが一番いいのではないかと考えられました。
- ・ 各般の発表を聞いていて、自分たちの話し合いでは出てこなかったような案も多くあって驚いたりしたことも多くありました。特にフランス人の話は提言とは別で言っていました面白そうだったし興味は惹かれました。自分たちの班もなかなか自信をもって作ることができたと思っていましたが3位以内に入ることもできなくてとても悔しかったです。それでももう一度提言するなら発表と同じく有給休暇を減らしてリフレッシュ休暇に充てるという提言をします。
- ・ 学生らしい斬新な提言が、印象に残っています。自分の班は実現可能性を重視していたということで、提言の方向性を変えるべき（違った視点から案をだす）だったので、感じました。
- ・ 有給休暇をいかにうまく活用できるかが重要なポイントだと感じました。評価軸として、実現可能性の高さがあったのに、「学生らしい案、既存の制度に縛られない案が聞きたかった」という旨の木島社長の話も事前に聞いておきたかったです。
- ・ いろんな意見があって、それよりもみな自信を持って明確に発表していたことにとってもすごいと感じた。自分たちの意見をまとめ、それぞれがいかに伝わりやすいかを考えての発表だったと思うから、そのプレゼン力においてとても勉強になった。
- ・ やはりいくつか班があるとそれぞれ提言があり、興味深かったです。中には全く考

えていなかったような案もあり新鮮でした。

- 大人な提言内容が多かったのは、ISFJの論文大会に参加する生徒が多いことが原因だと思った。あまり、提言の内容が被っている班が無かった事に驚いた。実際にこの課題を解決することは、近い将来、自分がまた豪華客船に乗るためにも必要だと思った。
- 各班それぞれいろんな提言があって聞いていて勉強になりました。社長が言われていた学生だからいろんな発想があっていいという言葉が印象的でした。やはり阪大生は落ち着いていて言いたいことをしっかり押さえられていて勉強になりました。
- 長期休暇の制度ではなく、働き方や雇用の方法を言っている班が多く見られた。有給取得率の高い企業の公表は、実際に企業も促進している企業の紹介を行っているので今後、就職活動の際に参考にするのも良いなと思った。
- 私たちのグループはBUDDYシステムを考えました。良いシステムであると思いましたが、他のグループの発表を聞くと、それも良いな、そんな考えがあったか、など思いました。個人的には積立制度のグループが良かったと思います。
- 今回8班ありましたが、どの班も意見が被ることがなかったのが聞いていて楽しかったです。この問いの問題を考えたときに、わたしとしては時間が必要だと思います。多くの班が挙げていた意識改革についてですが、これは今の上層部の方々に対するものがほとんどで、問題を考える私たちの世代はその意識をすでに持っていると思います。
- 各班の発表を聞いて、問題認識はかなりのグループが似たようなことを挙げていると感じました。また、解決策も現実的なものが多かったです。大学生という立場から、もっとおもしろい解決策を全グループが考えていたら、さらによりプレゼン大会になっていたように思いました。
- 私たちの提言は企業に長期休暇取得率の情報を公開させ、それを基にランキングを作成する事です。提言の狙いは、企業が社員に長期休暇を取得させる仕組みを考える動機付けを行うという事です。それぞれの企業によって休暇が取れない原因や企業の問題点は異なると考えられるので、一概にこうすればいいと言えるようなものではないと思います。なので、情報を公開させることで、各企業ごとにどのような取り組みを行えば良いのか、どのような仕組みを整えれば良いのかを考えさせるきっかけになれば良いと考えています。また、企業が情報を公開する メリットとしては、人材不足の確保が考えられます。大企業は社会の目が厳しいという側面があるので、情報を公開するに当たって仕組みを整えなければなりません。一方で中小企業は、社会の目という側面より、自社の人材不足を解消できる手段になるという側面が強いと考えられます。ランキングを作成する事で、仕組みを整える事が出来た中小企業は、上位にランクイン出来ます。それを見た就活生は今まで知らなかった企業であっても、知るきっかけになり、興味を持ってもらえると考えます。

- ・ 計画的に休暇を取らせる制度はとても現実的で、長期休暇が取りやすそうと感じた。一方で、フランス人を採用するなど面白い提言があり、考え方は人それぞれだと思いました。

(3) クルーズ活性化会議ディスカッション「港湾他インフラの機能強化と交流拡大による地域活性化」の感想<木島社長講演・自治体のプレゼン・パネルディスカッションへの感想>

- ・ クルーズ船の背景知識や事情をほとんど知らなかったというのが前提である。まず現在のクルーズ業界の実態を木島社長から説明していただいた。日本では自分たちで船を建設しマーケットを開拓しようという意欲が少ないこと、それによって欧米にくらべてクルーズ業界が盛り上がり欠けているという事情を知った。



- 大型の外国客船が入ることに対して日本の港湾設備はそれを考慮して十分に作られていないことも問題としてあるのかなと思った。また中国のクルーズ業界が最近台頭していることから、新興勢力とどう対抗していくかなど新たな戦略を考える必要性も話しておられた。このようなインターナショナルな事情を考慮しつつ誘致の場所を全て考えた上で日本全体の活力を上げていかなければならないと結んでおられたが、クルーズという手段を使って外国人観光客を日本に呼び込むという試みは経済効果も含めて1つの戦略になっていくのだと思う。
- ・ 各地の港湾事情や今後の方向性がわかって勉強になりました。今後のクルーズ需要増が見込まれる中で、日本全体として魅力的な寄港地作りに頑張っていたいただきたいと思いました。またクルーズ産業について、クルーズアカデミーで取り扱った長期休暇を取りやすくする仕組みづくりだけでなく、クルーズの手軽さといったようなイメージを変える努力を業界を挙げて行っていくべきだと感じました。
- ・ 木島社長による講演では、クルーズ産業の実体がわかり、今後の伸びしろへの期待や改善すべき点が説明していただけたので非常に参考になった。各地方自治体の港湾担当の方々によるプレゼンテーションでは各港の課題と魅力があり、それぞれの港が積極的にクルーズ誘致に尽力している現状がわかった。個人的には福岡の博多港が急激に成長してるということがわかりうれしかったし、地元の発展に寄与できる産業がクルーズであることが嬉しかった。

- ・ 実際に港湾で働いていらっしゃる自治体の方のダイレクトな生の声を聞け、港湾に対して興味をもつきっかけとなった。港湾に関する知識が深くなかったが、様々な港湾で働く人の話が聞けて港湾に対するイメージと港湾に対する可能を感じる事が出来た。
- ・ 一言で言うと、すごく勉強になりました。木島社長のプレゼンを聞くとそれまで感じていたよりももっと、クルージングを発展させることへの課題が見えてきた部分もありますし、特に自治体の方々からの話をきいているときには、よい港づくりをしようという職員の方の気持ちがすごく伝わってきたように思います。いろんな地域の話が聞けたからこそそれぞれの港湾だからこそその魅力が見えてきて興味深かったです。港湾の事業は赤字が普通といったような財政に関する話が特に印象的です。
- ・ 自分は元々港湾に興味があったので、各地方自治体の港湾関係者のお話を聞けたことは大変有意義でした。横浜や博多といった大きい港から、青森などといった地方の港まで、日本全国の多様な港の方が集まっていたので、日本の港湾事情を知ることが出来ました。
- ・ 今まであまり知らなかった港湾やクルージングの現状と現場の方々視点での意見を聞くことができてよかったと思う。大きい港湾では大きい港湾ならではの問題があり、小さい港湾では小さい港湾ならではの問題があることがわかり、一筋縄ではない案件であるということを感じた。特に首都圏の港湾で船の巨大化に伴い、橋の下を通れなくなるという問題が印象に残っている。
- ・ このディスカッションでは、クルーズ船が来航することによるメリット、また各港湾の方のクルーズ船誘致の施策を学ぶことが出来ました。また、各自治体ごとにクルーズ対策の課題が異なっており、地域ごとでの柔軟な対応が必要であるということを感じさせられました。
- ・ 自治体の港湾関係者の方々のお話は、それぞれの都道府県の地域性（人口構造や地理的条件など）とクルーズ誘致に関してわかりやすく取り組みを知ることができ、クルーズ振興を考える上で重要な知見をたくさん得ることができたと思います。自治体側だけでなく、クルーズ会社側の木島社長のお考えを合わせてお聞きすることができた点も、今回のパネルディスカッションの大きな収穫であったと思います。お忙しい中このような機会を設けていただき、有り難く思いました。
- ・ 各自治体とも、港の整備というハード面だけではなく、市民の人々も巻き込んだ地域活性化というソフト面にも熱心に取り組んでいたのが印象的でした。話を聞いて、私がこれからの課題だと感じたのは、市と県との連携、そして隣接する港同士の連携をより強固にしていくことです。個々の港ががんばることはもちろん重要ではありますが、日本の中のどの港かというアピールよりも、アジアの中で日本の港が選ばれるために対策を取ることも重要であると感じました。

- 2020年に行われることが決まったオリンピックに伴ってやってくる観光客や、増加を続ける中国人観光客をクルーズ誘致によって獲得するため に、港の整備などのハード面や、観光地やアクセスの整備などのソフト面で、改善を図っている各自治体の取り組み、今後の見通しについて知ることができ、非常に貴重なお話でした。
- 大きな港から来ている方であったり、地方の中心になっている港の方であったりが参加していたのでそれぞれの港の抱える問題点が浮かび上がってきてそれを聞いて参考になった。クルーズというサービスを提供する側である木島社長と、それを受け入れる側である自治体の間には正直利益の不一致となる部分もあるのかな、と思った。地域活性化につながる可能性はあるとはいえ、どの程度クルーズ受け入れのための整備を進めるべきなのか、というのはどこの自治体でも今またはこれから問題になるのかなというように感じる。その様な話し合いを、両者の視点を取り入れてこれから進めていくことが大事になるのかなというように感じた。
- 各港湾の方針や考え方の独自性がみられ、面白かった。特に、MERSで明暗の別れた博多港と横浜港で、微妙なライバル意識が垣間見えて、今後どのように各港湾間で協力していくべきかを考える意味で面白かった。
- 港湾関係者の方々のお話を聞いていて感じたのは、『点と点を線にし、面を作る』ことの必要性である。独自の自治体でそれぞれ様々な努力をされていることは伝わったけれど、協力がみられないと感じた。ライバルではあるのかと思うけれども、日本全体のことや今後のクルーズ活性化を考えると、ひとつひとつの港湾が単体で頑張るのではなく、みんなで力を合わせてときには協力もしながら切磋琢磨して行くべきだと思った。クルーズ船が寄港すること自体は港湾に直接的な利益はないという話だったので、その街の魅力をどのように見出し、観光客にアピールするかが重要なことであると改めて感じた。
- 木島社長の講演を聞いて、プリンセスクルーズでは、年度が始まる前に社員に勤務調査を行うことで長期休暇を取得しやすくする仕組みがあることを知り、社員のことを考えたよい方法だと思いました。自治体の方によるプレゼンやパネルディスカッションでは、日本各地の港の現状を知ることができ、クルーズ船の大型化に伴う改修や、今後の課題を知れてよかったです。
- 港の人がどのようなお仕事をしているのか全く知らなかったので、ディスカッションのお話はとても興味を持ちました。客船の大型化によって日本の橋の下を通過できず、日本の港に船をつけることが出来ないというお話がありました。新しい港を作るのは非常に費用のかかることだし、ただでさえ赤字であるのに地域の住人の理解、国や県庁からの理解を得るのは難しいものなんだと知りました。
- アカデミーの発表に向けて自分たちで調べたような内容とはまた異なり、実際に働いておられる方々の生の意見を聞けたように思います。クルーズ人口を増やすために各自治体で行われている、考えている取り組みも議員にクルーズ体験をしてもら

う・高校生に見学してもらうなど私が考えていなかったような視点も聞くことができ、もっと広い視野で考えなければなと思いました。船会社側はお客様にどれほど魅力的な寄港地であるかが大切であり、行政側はいかに観光と連携して経済効果をあげるかなどそれぞれの立場で大切なことももちろん異なり簡単な議題ではないことを改めて感じました。

- ・自治体の方々は、現状の分析・改善策という流れがとてもきれいで今後私もこういう風になりたいと考えさせられました。場馴れしていましたが、淡々とまたどこが強調する場面であるのかなどがはっきりしていて聴きやすかったです。また、木島社長の「日本のクルーズの現状」についてを聞き、説得力のある話し方についても学ぶことができました。多くの課題がある中で、まず何をしたらよいのかということが明確であれば、改善策も説得があり発表自体もすばらしいものになるんだとわかりました。
- ・自治体の、ましてや港湾関係の仕事はこのクルーズアカデミーに参加するまでは全然知る機会もなく興味もほとんどなかったですがこの自治体のプレゼンや木島社長の講演を聞いてとても面白かったです。港湾の仕事がどのようなことをしてるのかも知ることができ、それまで知らなかった世界の話でしたが、全然知らないながらもとてもおもしろかったです。
- ・自治体の皆様のお話を聞くことができ、クルーズ前にはなかった港に対する興味が湧いてきた。都道府県ごとに、抱える問題点が違うということも改めて認識することができた。木島社長の講演は同じ女性として良い刺激をもらうことができた。
- ・木島社長の講演も自治体の方々の話も貴重なお話でした。日本のクルーズ業界を盛り上げるためにはたくさんの費用が必要で、まず、クルーズについて知ってもらうことが大切だとわかりました。港湾の現状や問題点を聞いて、今まで興味がなかった港湾やクルーズについて興味を持つことができました。学生からの質問にも丁寧に答えていただきありがとうございました。
- ・それぞれの港の特色やその他力を入れている事業などがきけていい経験になった。普段港を利用しない人たちからしたら港に関わることはほとんどないと思うから、めったにない体験だった。木島社長の話はもっと深く聞いてみたかった。どのような仕事内容をこなして今に至るのかなど、途中の話が聞きたかった。港を通して地域活性化に取り組んでいる姿に触れてみて、少し興味をもった。
- ・木島社長や各自治体の方々のプレゼンテーションを聞き、現在の世界や日本のクルーズ事情を知れたのは私にとって大きな意味があったと思います。私の中で、クルーズ船を誘致するというのは、どのように港を整備するのかというイメージが強かったです。ですが、ボーイジャーショックとしてお話しいただいていたように、港から街へのバスが足りないということもあると知り驚きました。
- ・様々な地域の自治体の方々の話を一度に聞けるのは、本当に貴重だと思った。また、

自治体の方々の資料が大変わかりやすく、見習うべきだと思った。そして、自治体自体は赤字のケースが多く、また海外豪華客船が入港できないケースも多い事に驚いた。バスの渋滞などの課題を解決することは楽しそうだった。

- ハンドアウトの作り方はこのように作ればよいのだなということが一つ勉強になりました。それぞれ港を寄港地にしてもらうために様々な取り組みを行っていることがわかりました。クルーズに興味を持ってもらうために乗ることができる体験があることなど全く知りませんでした。公務員でも本当に様々な仕事があるのだということを知ることができました。
- 実際に各地方の港湾の方とお話をして、地域ごとの格差などが感じられた。一度、地域の取り組みでクルーズの出航レセプションに参加したことはあるが、そこからクルーズに興味はあまり持たなかった。出航レセプションに地域の人を呼ぶときはただレセプションに参加してもらうだけではなく、クルーズの内容や地域に呼ぶことの大切さを少しでも知ってもらうべきなのではないかと感じた。また、港湾についてあまり勉強をしてこなかったため、知識もなく質問をしたことを後悔した。
- 日本では、2013年と2014年においてクルーズ人口が減少しており、また1990年からの伸び率が悪いと知りました。人数的に多い気がしていましたが、実際には多い数字ではないみたいです。日本のクルーズ人口の問題点として、若年層の開拓や日本の港湾の課題、長期休暇などが挙げられていました。2020年のアジアのクルーズ市場予測の1位は中国で2位が日本です。今、あるこの課題を改善し、将来に向けてクルーズの市場を拡大してほしいと思います。また、各港湾ごとにも違った課題がありました。しかし、港湾はまだまだ良くなりそうな気がしました。
- 今まで、日本のクルーズ市場や港湾について全く知らなかったため、とても興味をもって聞くことができました。特に、クルーズ会社社長のお話を直に聞くことができ、本当にいい経験となりました。今回、自分がクルーズを体験していて、とてもいいなと思っていたため、日本のクルーズ市場がまだまだ伸びないという議論には、耳を傾けることができました。また、私は自治体が港湾に携わっていると知らなかったため、日本のいくつかの自治体から一度にお話を聞くことで比較もできたため、とてもよかったです。
- 自治体の方々のプレゼンから、各自治体の課題を知ることが出来ました。さらに、解決策はわかっていることでも、行政という立場ならではの問題から、解決することの難しさがあることも知りました。クルーズを提供している木島社長と、客船を受け入れている自治体とのディスカッションはとても勉強になりました。
- 自治体の活動について以前は全く知りませんでした。今回のパネルディスカッションを通じて、少し理解出来たので勉強になりました。自治体の問題点としてハード面での問題が多く挙げられていたように感じました。これから、クルーズ船の大きさもどんどん大きくなると思うので、その問題をどのように解決していくのか考

えなければいけないと思いました。また、それぞれの港で沢山の工夫がされているのに、驚きました。堺港では、関さんがはっぴを着ていらっしやって、このようなお出迎えがあれば賑やかで楽しそうだなと感じました。

- ・クルーズ客船に乗船するまで、港湾について考えることが今までありませんでした。しかし、クルーズ客船が港に着き観光することで、大きな経済効果が得ることを改めて理解しました。もっと多くの外国船が地方など日本に来てもらうためには、地域との連携が大切だと考えさせられました。

(4) スマート・クルーズ・アカデミー・スポーツ編(スポーツACTIVITY(ジョギング、バスケットボール、卓球、プール、ジャグジー、泉の湯など)について)の感想

一言：＜「泉の湯」に行けなかったことは心残りです。来年は発表大会の景品を大浴場の入場券にしてはいかがでしょうか。＞という提案、次回のアカデミーで実現したいと思います！（笑）

- ・初日に他大学の方と日が暮れるまでバスケットボールなどをしたことでより緊張感がほどけた気がする。最後の夜にも屋内プールにゼミ生みんなで集まってその場に設置されていた卓球をしたりもできて良い思い出になった。私自身スポーツが好きなので船内のあらゆる所にスポーツ施設があって、気軽に運動できたことも嬉しかったし気分



- ・転換になった。プールサイドには数多くのデッキチェアが並べられていてリゾートの遊びを楽しむことができた。
- ・プールでは、夜のあまり人がいないときにのびのびと楽しむことができました。卓球では、先生を含めてゼミのみんなと交流を深めることができました。船上で、普段以上に体を動かすことができ、心身ともにリフレッシュできました。
- ・一日目のバスケットボールは、高校以来だったが全力で楽しんだ。橋本先生が全く手加減してくれなくて負けてしまったが、そのおかげで他大学の人とも楽しく全力で遊ぶことができたと思う。ジョギングは部屋の間全員が寝坊していけなかったのが残念だった。
- ・スポーツはあまり得意ではないけれどテニスや卓球をみんなですることができると

も楽しかった。ドレスでヒールを履きながら卓球をするという珍しい経験もできた。船の上でのジョギングは海の風がとてもこちよく、他大学の人とのんびりお話ししながら走れて有意義な時間だった。船を走ると船の大きさと長さを改めて肌で体感することができた。

- 体調不良などもあり参加できなかったものもありましたが、他大学と交流するには打ってつけの機会だったと思いますし、一緒にいる人との仲を特に深められるところだったと思います。一番端的に言うと、すごく楽しかったです！
- 自分は朝のジョギングに行かなかった身なので、なんとも言えませんが、朝から晩まで予定がぎっしりつまっているなかで、早起きしてジョギングするのは大変だとかんじました。プールやジャグジーはのんびりできて、良いアクティビティだとかんじました。泉の湯に行けなかったことは心残りです。来年は発表大会の景品を大浴場の入場券にしていかがでしょうか。
- 室内プールの横に設置してあった卓球場で卓球をしたことが楽しかった。卓球が得意というわけではないがゼミの仲間たちと楽しみながら汗をながすことがとても心地よかった。
- ACTIVITYに関しては特に、ジョギングとプールが印象に残っています。ジョギングに関しては、大海原を見ながら走ることが初めての経験でありましたが開放的な空間の中、大いに楽しむことが出来ました。また、プールも大いに楽しむことが出来ました。
- バasketボールと卓球しか参加することが出来ませんでした。どれも同じゼミの皆さんや、他大の方々と仲を深めることができてとても楽しかったです。ただ、どの競技も時間が限られていたので、もっと自由に長く楽しみたかったというところはあります。
- プールは天候の関係から屋内しか利用しませんでした。ほとんど足がつかなくて少し怖かったです。子どももたくさんいるので、水深を浅くするか浮き輪の貸し出しをするなどの工夫があればもっと楽しめたかなと思います。
- 屋外のスポーツ施設はBasketのみでやや小さい印象を受けた。プールは先述の通り屋内も含めた設備が充実しており、好きな時間に混雑なく利用できる環境にあったので良い。
- Basketボールや卓球などを一緒に行うことで、よそよそしさがなくなりより仲良くなれたのではないかと思います。
- クルーズ中は全て雨だったのですが、屋内にもプールがあり、卓球をするための設



備も屋内に備え付けてあったので、天候を気にすることなく楽しむことが出来ました。ジャグジーも数多く備え付けてあったので、どこかのジャグジーには必ず入ることが出来ました。

- 卓球であったり、バスケットボールであったり大勢で楽しめるアクティビティが多くあったため、友人と楽しむことが出来た。泉の湯がもう少し安ければ入りやすいかなと思った。
- 海を見ながらのジャグジーはこの上ない。料金の関係で泉の湯は体験できなかったのは残念だが、日本人の体質にあった設備であり、好印象である。また、次回ダイヤモンド・プリンセスに乗船する機会があれば、泉の湯を体験したい。
- きちんと場所を確認していなかったことが原因で、朝のジョギングに参加できなかったことが心残り。卓球に関しては甲南大学の皆さんとも交流を深めることができるいい機会だった。プール、ジャグジーは夜中の遅い時間に行ったので空いていて楽しめた。後輩と距離を縮めることができたと思う。温泉は結局入れなかった。次こそは入りたい！
- 阪大の方とバスケットボールができて楽しかったです。プールも気持ちよくのんびり遊べて楽しかったです。時間の都合で泉の湯に入れなかったのは少し残念でした。
- この中で参加できたのはバスケットだけですが、皆で運動できて楽しかったです。潮風を浴びながら船の上でバスケットなど初めての体験でした。でももっと皆参加して、ちゃんとしたゲームができれば楽しいだろうなと思いました。少し見学者が多いような気がしたので。
- バスケットや卓球、プールなどで勉強以外にも思う存分楽しむことができました。夜中にプールや卓球で遊んだり普段ではなかなかできない経験でした。学校生活とは異なった生活でゼミの友人たちをもっと仲良くなることができました。
- ジョギングは2日目だけ参加しましたが、天気が悪くて大変でした。しかし、雨の海はどういうところかということを目で見て、また体験することができ新たな経験となりました。プールは深かったです。海の上でプールというのは新鮮でした。
- アカデミーのメインは長期休暇をとるための発表ですが、その準備も入れて、さらにその時間以外にも遊んだりイベントに参加する時間も確保していただけて、スポーツをしたりなどとても楽しむことができました。バスケットボールなどはもっと多くの学生が参加してくれたらもっと盛り上がりたとも思いました。
- クルーズ中に身体を動かしてリフレッシュすることの重要性を感じました。ジムが充実していてとてもよかったです。
- ジム、プールで体を動かしました。船の中なのにいつも以上に運動ができました。バスケットや卓球で他大学との交流も深まったように思います。朝のランニングは天気が悪かったのと、場所の確認不足で参加できず、少し残念です。
- 朝はジムに行って汗をかき、夜はプールや、卓球などしてとても楽しかったし充実

したものになった。スポーツは交流するのに最適だと思う。先生や生徒関係なく一緒にになって楽しめたと思う。

- 毎朝恒例のジョギングの話を先輩方から聞いたときはもっと大人数で活気のある感じだと聞いていました。ですが、天気が悪かったのもあるかもしれませんが、参加した時に思いのほか少なく残念でしたが、海の上で走るという貴重な経験もできました。そして、一緒に他大学の子達と走ることにより、楽しく会話しながら汗を流して楽しかったです。
- ジョギングに参加したおかげで船の揺れに強くなり、快適な船上ライフを過ごすことができた。
- 屋外と屋内にプールがあつて夜は人が少なかったので貸し切り状態でプールを楽しむことができました。卓球では県大の方と勝負をしたりより仲よくなることができました。
- もうちょっと大学間を超えて、スポーツが苦手な人でも楽しめるアクティビティが欲しかった。久しぶりにプールで泳いだけど、ゴーグルがなかったことと、深かったのが時々溺れかけた。雨で屋外のプールに入れなかったのが少し残念だった。泉の湯に行きたかったが学生には少し高かった。
- 私は、卓球、プール、ジャグジーを体験しました。泉の湯にも行きたかったのですが、4泊5日では短すぎて、時間が足りませんでした。プールは1度だけ入りました。夜中に入りに行ったので他のお客さんがほとんどおらず楽しめました。船の揺れに伴いプールの水が動くので波のプールみたいになっていました。また、ジャグジーはプールの後に入るととても暖かく気持ち良かったです。部屋にはシャワーしかなく、足の疲れがとれていなかったのですが、温かいジャグジーに入れて疲れがとれたので良かったです。
- アクティビティの中では、プールが一番楽しかったです。とても深いプールだったため、波が高くなった時にみんなで座礁して遊びました。ただ、アクティビティに関しては、夜遅くから遊ぶことが多かったのが少ししんどかったなと思います。時間を気にせず遊べる点は夜の良さでしたが、夜しっかり寝て朝早くから活動するのもよかったかなと思います。
- スポーツやプールは楽しむことが出来ました。しかし、Activityが出来る場所は少なく、野外が多かったため天候に左右されてしまうように思います。そのため、室内にスポーツができる場所を作ったり、ボルダリングなどの他のスポーツ施設を



作ること、若い世代の人がもっと乗りたくなる客船になると思いました。

- バasketボールとてもしたかったです。ただ、まだ他大学の学生と仲良くなる前で、阪大生に馴染めずスポーツ出来なかったのが残念でした。最終日県立大の学生と一緒に卓球をする機会があったので、それは全力で楽しみました。
- 多くの施設があり、驚きました。今回は短い数日の間で多く楽しめましたので、充実していました。

第6部 <地域活性化・クルーズ振興>

(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(港湾関係者の発表や船内での関係者との議論を踏まえて)についての感想(国・自治体政策のあり方など)

- 各地域ならではの取り組みがなされていることが各自治体の方にお話を通してわかったことである。クルーズ発着を受け入れることで経済効果はその分上がるし、誘致するということが地域活性化にもつながると思う。いっばうで受け入れるからにはその港湾設備や受け入れ態勢をきちんと整えなければならない。木島社長もおっしゃられていたように、港の設備が大きな外国船



- の容積を考慮した作りになっていないことも問題であるし、新たな環境を整えようとするのもコストがかかる。長期的な計画が必要なのだろうと実感した。船の発着から出航までというかぎられた時間で寄港先の観光地をまわれるか、乗客のニーズをふまえて寄港地として最大限のおもてなしができるように各自治体が創意工夫をしているのだということもよく理解できた。港湾局にとられることなく自治体の中で他の部署と連携して寄港地の交通基盤を整えること、民間事業とも連携して観光地としての魅力を向上させることによって、外国船の発着も増えていくのではないだろうか。
- 寄港地周辺に魅力的な観光地が複数ある地域が寄港地としては、魅力的なのではないということを、釜山で強く感じた。いくら港からの交通の便が良くても、短い寄港時間を移動時間に費やすことには、個人的ではあるが抵抗を感じます。魅力的な寄港地＝複数の観光施設を有する、ということ考えたときに、魅力的なコンテンツの少ない地域へのクルーズ客船誘致には、少し疑問を感じた。
 - 地域活性化としてのクルーズ船の寄港は効果があるにもかかわらず、実際にはこれまでクルーズ船の文化がなかった日本にとってまずハード面の充実が早急の課題であること、また受け入れ態勢やバスのチャーター、観光地への誘導とその魅力アピールにもまだまだ改善しなければならないことが大事ということが分かった。ハード面に関しては各々お金を投入しているものの、間に合っていない現状があり、貨物港を代替で使わざるを得ない状況が一番の課題ではないかと思った。投入する金

額に見合った収入がクルーズから得られるかどうかの不安も感じた。

- 客船を誘致するためには客船にとって魅力的な寄港地であらんとする努力は必要で、客船を受け入れることのできるほどのキャパシティの整備も難しいとわかった。リピーターや他の寄港地を訪れたクルーズのお客さんが他と比べて満足度が高いか納得することのできる寄港地でなくてはならない。しかしクルーズ船が頻繁に入らない自治体ではお客様を満足させるために大幅に予算を取れないだろう。そのことやクルーズ船誘致事業自体が赤字であることを考えるとどこまでクルーズによる活性化を求めるのかその限界を考えることが地方の自治体には必要なのではないかと感じた。
- ぱっと受けた印象としては、クルージングも観光事業ですし、港湾の立地や交通の便がとても大事になってくるのだな、と感じました。大きな船をもっと港に入れられるようになるために整備するといった事業をしている自治体もありましたし、環境整備というのはまずもって必要な要素なのだと思います。また、議会などではクルージングはどうしても二の次で、貨物などをメインとして話が進んでしまうという現状であったり、地域の人と協力しながらクルーズ船を受け入れていく姿勢が大切であることを考えると、クルーズ船を招致することによってその地域にもたらされる経済効果などをもっと数字として発信していく必要があるのではないかと思います。それによって、地域全体でクルーズ船を誘致しようと盛り上がれば、あまりクルージングが盛んでない日本では一歩先に行くことができるのではないかと考えました。
- 各港、伸長するクルーズ市場をにらんで、クルーズ船誘致のために様々な努力を重ねているのだなと感じました。そこで一番おおきく感じたことは、官民の連携が肝要だということです。外国人観光客は日本での寄港時に地元での出迎えがあれば、嬉しいだろうし、なによりそれが観光資源になると思います。
- 乗客が下船して観光するというインセンティブを与えるような政策が重要だと感じたがその政策立案が難しいものだと感じた。寄港時間が短い港湾があるということも考えて時間内で楽しめるようなガイドマップの作成や港湾周辺での施設の充実などを今後自治体を中心となって地域に働きかけて行くことが重要なのではと感じた。
- 私は、地域活性化のためのクルーズ誘致として、船ごとの客に合わせた寄港地の魅力を紹介するべきであると考えます。船内の議論では、特に地方港で寄港地のメリットを十分に伝えることが出来ないという問題が挙げられていました。また、観光の趣向は「アジア人は買い物」「欧米人は歴史・文化」などに重きを置いており、感じる魅力も異なっています。そこで、私は乗船客の多数派に合わせて、おもてなしの方法を変更することが地域活性化のためのクルーズ客船誘致につながると考えました。※具体的にはバスの行き先の柔軟な対応など
- 港湾関係者の方々の発表をお聞きすることができなかつたため、詳しいことはあま

り知りませんが、自分が思っていたよりも、クルーズの寄港が、その土地に与える影響が多大なものであることに驚いたと同時に、もしそのようであるならば、クルーズ客船の誘致というものは、港湾をもつ自治体にとって、非常に魅力的なものだと考えます。

- ・ 今回乗ってみて改めて、クルーズ客船が寄港地の経済に与える影響の大きさを実感しました。観光客はもちろん、船内の数千人分の食料を現地で調達するとなると相当な規模の経済効果があると思います。
- ・ 私は港の近くに住んでいないのでなおさらですが、たとえ神戸に住んでいても、たまに停泊している巨大な船がいかに大きな額のお金を落としているのか意識している人は少ないと思います。港湾施設がもっと住民にとって身近なものになるような広報の必要性を感じました。また、堺港の関さんのお話を聞いて、自分の港に大型客船を誘致するにはまずその港を印象付けて覚えてもらうことだということが印象に残りました。人と人のネットワークの大切さを知りました。
- ・ クルーズ船の日本寄港も新しいことではなくなった今、改めて寄港回数・寄港先での乗客の動向を把握すべきである。というのも、富山・金沢のように隣接していながらも相互に誘致を競い合う自治体の存在が気になる。シャトルバス利用やツアーでの目的地が同じだとしたら自港だけで総取りを目指して競争するより観光圏としての話し合いの場を設けるべき。
- ・ 客船寄港実績の過度に少ない自治体は客船埠頭工事に何らかの規制を設けてもよいのでは。もしくは、クルーズ特区として重点的に整備するのも考えられる。
- ・ 港湾関係者の方とディナーで同じテーブルになった際に小耳にはさんだ話では、やはりクルーズというと富裕層の娯楽ととらえられている節があり、喫緊課題として認識してもらうのが難しいということが言われていました。クルーズの社会的意義を明確に打ち出すこと、特にあまりクルーズに馴染みのない人からしても客観的にみてわかりやすい具体的な経済効果を示すことが重要であると感じました。
- ・ まず、一番最初にやらねばいけないことは大型化の進むクルーズ船を受け入れることが出来る港の整備です。そして、その次にアクセスや観光地のキャパシティを増やすなどのソフト面の整備があると思います。しかし、港の整備には多額の費用が掛かるため、自治体のみで行うのは難しいところが多いと思われます。けれども国の資金も限られているので、国がクルーズ推進重点地区などを設定することで、限られた資金をより有望な港に使う工夫が必要になってくると思います。
- ・ クルーズ誘致によってどれほどの利益がその地域に発生するか、という分析を地域ごとに行う必要があるのかなと感じた。また、見送りであるとかお金に現れない効果を考える必要があると感じた。そうした効果を少しずつ蓄積し、クルーズ客の特徴であったりをつかむことでより有効な政策を打つことが出来るのかなと感じた。また、港湾ごとに大きく事情が異なるように感じたため、国はなるべくバックアッ

プに徹して、地方の独自性を出した誘致を進めることが必要かなと感じた。整備に関しては、これからますます大型化が進む中で、全ての港湾を対応させることは難しいのではないかなと感じる。そうなったときに、県や地域を飛び越えて協力し合い、互いに利益を享受し合える関係を作っていくことも必要になるのかなと思う。

- ・クルーズでの地域活性化は難しいのではないかと、というのが正直な今の印象である。寄港地での滞在時間の短さを考えると、どうしても客単価が低く抑えられ、自治体側に還元されないように感じてしまう。
- ・地域活性化が先なのか、クルーズ客船誘致が先なのか。前まではクルーズ客船を誘致することで地域活性化につながるのだと思っていたけれど、そもそも魅力的な地域でないとクルーズは寄港地に選ばないし、やはり地域自体の活性化があってこそそのクルーズ客船誘致だと感じた。どのくらいその地域が元気で活力があって、もっとよくしていきたい！と思う人が多いのかが大事な気がする。
- ・クルーズを通して、寄港地に観光客が訪れることでその地域でイベントなどが行われるとその地域が元気になると思いました。港湾の役割として、乗船や下船がスムーズにいくように港やバスなどの二次交通の整備が必要だとわかりました。港湾関係者の方と関わることで、公務員の土木課の仕事の内容などを知ることができてよかったです。
- ・クルーズの経済効果を国はもっと知るべきだと思いました。そして港湾に資金を与え、港を改良し、クルーズ船を誘致すべきです。飛行場は都市部にあって、もし観光客が皆飛行機で来てしまったらお金を落とすのは都市部が中心になってしまいます。海岸沿いのような郊外部にも活性化を与えるにはクルーズを重要視するのも一つの手だと思います。
- ・地域での問題として大型船を受け入れる規模の港がないことや行政としてはクルーズ客船によって大きな経済効果がないのならば厳しい赤字になることなどが主な問題として挙げられていました。船会社から見てその港をまたリピートしたいと思うかどうかは出港時の見送りイベントなどちょっとしたきっかけからのお客様の評価がほとんどであるということも驚きました。自治体としてもお客様に喜んでもらう観光やおもてなしを考えることで船会社のリピートも増え結果的に経済効果をあげることができるのではと思います。
- ・港湾単体にとっては、赤字ということを知りましたが周辺地域などでは大きな効果があるということがわかりました。テロ対策などの安全面や感染症の対応など健康面での被害がでないように細心の注意を払って行っているだけでなく、下船者に対応するためのバスといったことまですべてを行っているのはとて



もすごいなと感じました。また、クルーズ船がより日本に寄港するためにはまず環境整備がなされているところが少なく、本来はコンテナ船が荷卸しするところで対応しているという話を聞いて、工夫もすごいが、国がもっと補助金を出してもいいんじゃないかなと思いました。日本が今後観光立国として、観光客の誘致のためには、クルーズというカテゴリーも大切な部分になるのではないのでしょうか。

- “客船を誘致することは直接港湾に利益が出るようなことではないですが、客船が来ることによってその周辺の地域に人がどっと入ってくるので結果としてその地域の活性化につながっているんだと感じました。このことは実際に釜山に降りたときにも実感しました。しかし、予算などの話も出ていましたが客船を呼ぶには予算が必要なのでどれだけ船が来ることによって地域に利益が出るのかしっかり出さないと予算も出してもらえないためそれも重要だと感じました。また、もっと市と県や市と市、県と県などの連携も進めば誘致ももっとしやすくなると感じました。”
- 港湾関係者の方のお話を聞いて、クルーズ客船誘致に向けてたくさんの課題があること、またそれを解決することで、どれほどの地域活性化に繋がるのかがよくわかる議論でした。今はまだ自治体単位で動いているという状態ということで、今後の各自自治体の協力や国からの支援によって、クルーズの客船誘致がより重要視されるべきだと思います。
- “地域の活性化のためのクルーズ客船誘致というより、寄港地としての魅力をあげることが最初だと思います。私は今回楽しいクルーズ（充実した船内）を経験できたので、寄港地に興味がなくても次回も参加したいと思うが、参加する前だったら、興味のない寄港地へのクルーズは参加しなかったように思います。”
- このようにクルーズなど旅行だけでなく、学校と一体となって参加型の旅イベントなどあれば、港を通じて地域活性にもどんどん繋がると感じた。私はこのような船旅のことをほとんど知らなかった。私のように知らない人はたくさんいると思うから、このようなイベントや、クルーズ船での旅行についてや、港湾のことをもっとメディアなどで取り上げるべきだと思った。そして地域の人たちにとって身近なものになっていくようにこれからはPRしていくべきだと感じた。これは参加してみても良かったと感じるから、ほかの人にも知ってほしい。
- 私が思っている以上に、港湾の整備にはコストがかかるのだと感じた。また、収益性が経済波及効果では測れにくいとのことで、今回初めて知ることが多くワクワクしながらお話を聞かせていただきました。お仕事の内容を個人的にお伺いしているときも、突発的な船の接触事故などが起こると業務があわただしくなるなど普段は聞けないお話を聞いて良かったです。
- オリンピックや日本文化のブームにより、海外からの訪問客が増える日本において、海外利用客の多い豪華客船が地域に寄港することは、かなりの経済効果をもたらすと思った。また、横浜市の自治体のように、長い目で見た、思い切った投資も必要

だと思った。ポートターミナルにおいて、日本特有の「おもてなし」のサービスを海外訪問客に振舞うなどの活動が、再寄港に繋がるのではないかと思った。

- 私は倉本先生にお会いするまで、船に乗るという経験がなかったので、もっとアピールをしていいのではないかなと思いました。公務員の中にこのようなお仕事をされている人がいるということも知らなかったのも、もし知っていればどこに配属されるかわからなかったとしてもこのお仕事はすごく魅力的だと私は思いました。関さんその地域の特色を活かしてアピールしているのはとても良いと思いました。印象にすごく残りました。
- 港湾の地域どうしの協力関係がまだまだ成り立っていないと感じた。すべての地域が大型のクルーズを呼び込むのではなく、地域に合った大きさのクルーズを呼び込むべきだ。地域に合っていない船を呼び込むのでそれだけコストがかかるし、バスなどの対応ができないのではないか。
- 今回の神戸港もそうでしたが、クルーズ船が寄港することにより、その地域が大変活性化すると感じています。クルーズ船が寄港することによって関係しているのは港だけではなく、お見送りやお出迎えの際にその地域の人々の協力も必要です。また、港の整備が整っていなかったり、橋が邪魔をして、クルーズ船が立ち寄ることが出来なかったりする状態であるので、そこを改善していくべきだと思います。
- 私は、今回のディスカッションを聞くまでは、正直、クルーズ会社がクルーズ市場を活性化させるために奮闘し、国や自治体もそこへ協力し、クルーズ誘致のために活動していることを知りませんでした。今回初めて、クルーズを呼ぶためには港の整備が必要だということ、考えてみれば当然のことでしたが、気づくことができました。
- クルーズ客船の誘致をしても港への収入は少なく、赤字になっているということに驚きました。しかし、客船を誘致することによって周りの観光地を訪れる観光客は増加し、結果的には地域の活性化につながるというサイクルを知ることが出来たので良かったです。今回発表してくださった自治体で抱えている問題は、日本の港全体の問題でもあると感じたので、情報交換など横のつながりを強化することが必要だと思いました。
- 港湾の方々の話を聞いて、クルーズ客船を誘致するだけでとてもお金がかかるというのに驚いた。しかし、大型のクルーズ客船が一隻港に停泊するだけで、多くの観光客に足を運んでもらえるという地域活性化という面でとてもメリットだと感じました。
- 港湾にクルーズ客船を誘致するにしても、橋の高さなど立地が原因で下船しにくいなど初めて知りました。また、貨物船の利益が高くても、クルーズ客船にも経済効果があると言うことを国により理解してもらうことが大事なんだと改めて理解しました。

(2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしに向けての若い世代からの視点)

- ・ 赤井ゼミに入るまで、「若いうちからクルーズ船で旅をする」という発想が私の中で全くなかったと言っても過言ではない。クルーズ船での旅をするとしても老後になるのだろうとぼんやりとしてイメージを持っていた。あくまで私の憶測であるが、クルーズ旅行は高価な印象が強く、同じ所に行くのなら別の交通手段で行って自由に動きたいという発想も



- あるのかもしれない。また客船の事故が相次いでいることから、事故の危険性も考慮に入れてしまうということもある。しかし今回実際にクルーズ船に乗って旅をしてみると、意外と若い世代の人、カップルや家族連れもクルーズ船に乗っていた。アジア系外国人でその傾向がみられた。日本ではこのような平日は仕事をしているのが当たり前なのかもしれない。長期休暇をとるにしても旅行に行くというより近場で遊んだり家で休憩したいという人が多いことも日本ではある。今回アカデミー活動を通して、若者がどうしたらクルーズ船を利用するかということをし少し考えてみた。やはり社会の中で働く若者ももっと長期休暇をとることのできる制度を整えることを促進していかなければ、長い目でみた若者のクルーズ利用にはつながらないのかもしれない。そして私自身がそうであったように大半の若者はクルーズ船がどういうものなのかを知らない人が多いと思う。クルージングの体験や船内見学会などイベントを開催して知ってもらうことからスタートすればクルーズを利用したいと思う人が増えていくのではないかとも思う。外国船の誘致をすること、日本から出航することは経済効果向上につながっていく。日本の観光産業の発展にクルーズ船は寄与すると実感している。そのためにも様々な設備を整えることが今後の課題ではないか。
- ・ 非日常体験ということにおいて、クルーズに意義があるのではと感じた。もちろん普通の旅行でも非日常という点から見れば、意義があるのだが、海上で好きな時間に好きなことができるという、そして何もしなくても、目的地へと連れて行ってくれるという点で、大きく違うと感じた。若者からの意見としては、卒業旅行の時期や長期休暇中に、大学生のみが参加できるようなクルーズ旅行の提案など面白いのではないかと思った。
 - ・ クルーズという文化は日本にとって比較的新しいものだが、実際に乗船してみて、

手軽にバカンス気分を味わえるという魅力のある観光資源だと思う。ただお金をかけて豪華であればよいという旅行ではなく、ともに行く人間との思い出づくり、自分自身と向き合えるゆっくりとした時間が欲しいと考えることの多い現代の若い世代にとって、クルーズはせかせかすることなくゆったりとした時間が過ごせる格好の場ではないかと思う。

- クルーズに参加する側として出発地に到着するために何時間もかけて出発港まで向かうのはつらいと思われる。なのでなるべく港に近いところに住む人にアプローチをかけ、実際にクルーズ船の中などで説明会を開けば心惹かれる人も多いのではないだろうか。クルーズ船は高くお金持ちなどが乗る敷居の高いものだという漠然としたイメージがある。そのイメージを払拭することができればクルーズのニーズを増やすことができるかもしれない。クルーズに興味のある人だけでなく幅広くアプローチをかけることで新たな層を開拓できる可能性があるのではないかと思う。
- 私もこれまで、クルージングを盛んにさせることによる経済効果の大きさや、クルージング業界を拡大させる障害となっているものをよく知りませんでしたし、上にも書いたように、まずはクルージング業界がどんな現状があり、もっと発展させればどうなるのかということをもっと周知させなければならぬと思います。そうしてクルージングという言葉をもっと耳なじんだものにしたり、旅行を計画する際の選択肢に入れてもらうといったような、気軽に行けるイメージづくりを進めていき、いろいろな年代に向けたクルージングを積極的に創造して行ってほしいと考えています。
- なんといってもクルーズは費用がかかるものだというイメージが先行しているので、そこを正さないといけないと思います。クルーズは決して富裕層だけのものではないと今回わかりました。クルーズ会社はその部分を宣伝していくべきです。また、船と他の乗り物の大きな違いは個室があることだと思います。そのことは小さい子供連れの家族には大きな+ポイントだと思うので、若い世代といっても若い家族に狙いを定めるのも良策だと思います。
- 自分は今まで旅行は目的地での活動がメインであって行くまでの飛行機などでの移動はただの手段としか考えていなかった。しかしクルーズでは目的地での活動と同じくらい船内での活動が充実していて付加価値をうんでいるとわかった。このような付加価値は特に今回の自分たちような大勢の学生で大きくなると思うので学生がクルージングにもっと参加したくなるような策をこうじていくべきなのではないかと思う。
- 今回のクルージングでは私は豪華な食事や夜のショーなど多くのアクティビティを楽しませていただきました。下船後、私が感じることは、今の若者は「目的地での観光を重視」しており、豪華な食事やショーなどの魅力に気づくことが出来ていないということです。このことから、私は、若い世代のニーズを掘り起こすため「ク

クルーズ船内の魅力」「寄港地の魅力」をより推し進めていくべきだと思いました。また、クルーズの社会的意義に関しては「寄港地への経済効果」・「町の賑わい、町おこし」などがあると感じました。”

- ・ クルーズに対するイメージというのは、やはり時間とお金に余裕がないと難しいというものが、どの年代をとっても圧倒的多数だと感じられます。特に私達のような若年層や、まだまだ現役の20～50代は、旅行をする、休暇を何かに使うということ考えたときに、クルージングを候補にする人は少ないでしょう。これからより若年層にもクルーズを浸透させていきたいと考えたなら、よりリーズナブルなプランや、若い人々が好きそうなイベント、特典をクルーズに取り入れたり、短期間で利用できるようにしたりするもの有効ではないかと考えます。
- ・ クルーズは寄港地に大きな経済効果をもたらします。最近ではテレビ番組でもクルーズ客船特集をよく目にしますが、私たちのような若い世代が選択肢に入れようと思うような段階にはなかなか至っていないと思います。高級感はクルーズの持ち味で魅力そのものですし、若い世代にとって多少のハードルになっているとしても、それを損なうことはしてはいけないと思います。高級感を売りにして20～30代向けに、卒業旅行や新婚旅行、親を誘っての家族旅行など、すこし特別な時に選択肢として上がってくるような旅行になればいいのではないかと考えました。
- ・ 有給休暇取得が認められつつあるといっても、まだ長期の休暇は取りにくい環境にあると感じる。そのため、三日から五日でいどの短期クルーズをお試しとして航空券とセットで売り出してみたらよいのではないか。クルーズは休暇に家で休むでもなく、リゾートに行くでもない、リゾートが家の傍までくる全く新しいスタイルである。将来的なクルーズ顧客の掘り起こしのためにはまず乗ってもらうことが必要である。また、学生はじめ若者はお金がないので、短期間でお金を抑え、片道クルーズとして下船先でも長く観光ができるのはお得である。片道であるので、目的地でも同様のプロモーションを行う必要がある。
- ・ 港のある自治体へのメリットとしては主に、クルーズ船は一度に多くの人を運ぶことができるため経済効果が高いということ、地上のアクセスが悪く旅行をためらっていた層にもアプローチできること、とにもかくにもまずは知ってもらえるということが大きいと思います。
- ・ できるだけ安く済ませたい、でもたくさん経験をしたいというのが多くの学生が考えることだと思います。しかし、何でもただ安ければいいというのではなく、すこし豪華にホテルバイキングに行ってみたり、海外旅行に行ったり、とお金を貯めて価値ある経験に投資をしている学生は多くいます。クルーズ船は、移動手段と宿泊所が一体となっていること、船内では日常から隔離された豪華絢爛な空間で過ごすことができること、一度に様々な寄港地を訪れることができることから、非常にコストパフォーマンスがよく学生のニーズにマッチしていると考えられます。近

年急増している外国人旅行者の関心が都市と地方の両方を楽しみたいという方向に向いているところからも、様々な港に寄港できるクルーズ船がインバウンド増加に果たす役割は大きいと思います。

- 旅行の手段にクルーズという新たな手段が加わるのは喜ばしいことだが、個人的な意見としては、今のままでは若い人の誘致はあまり進まないのではないかと感じます。というのも、若い人のニーズとしては、船の中の施設を楽しむというより、寄港地をどれだけ満喫できるのかを重視している面があるからです。たとえ、たくさんの寄港地を、ホテルの心配をせずに、まわれると言っても、一つ一つの寄港地での滞在時間が5、6時間ほどしかない現状ではあまり寄港地を楽しめず、不完全燃焼に終わってしまい、クルーズ旅行にあまり魅力を感じません。若い人を取り込むためならば、寄港地を減らしてでも滞在時間を確保する必要があるのではないかと考えます。
- クルーズの特徴として、長期間にわたりがちになることいくつかの寄港地によることが多いこと、旅そのものを楽しむことが出来るという点が挙げられるかなと感じた。クルーズの意義としては、今まで興味のなかった地に行くことが大きいと考える。クルーズを通して新たな興味・関心を起こすことで、その地域にメリットが発生するからだ。そういう面でも若い層の方が、その意義が強くなると思う。ただ実際、若い層特に比較的長期で休みやすい大学生があまりクルーズに乗らないのは、何かしらの理由があると思うのでそういう原因を突き止めていくことも大切だと感じる。
- 最近多くのメディアで取り上げられ、大きな話題を呼んでいるものの、依然としてクルーズは高級、というイメージを脱していない。そもそも、若者は旅行の際、目的地で何をするかを真っ先に考え、現地を十分に楽しむにはどれほどの日数が必要か、どのくらいの予算が必要かを考え、予定を立てる。移動手段は最後に浮かぶ項目である。若者は移動のためのコストを極力抑えようと、例えば夜行バスなどを利用する。そもそも、クルーズは移動手段としての位置づけを脱すべきである。目的地で楽しむことを目的とした旅行ではなく、船内でのアクティビティを楽しむための旅行という意識がなければ、いつまでもクルーズは高級な移動手段というイメージから抜けられないと思う。
- クルーズは手の届かないものだというイメージを払拭し、手軽に楽しめるものであるという認知がされれば、旅行の選択肢として選ばれることが増えると思う。今回クルーズを出会いの場として利用している団体もあったが、数日間同じ船に乗り、一緒の目的地に向かう一体感は出会いをサポートする要素であると感じた。今後は若い世代も乗るものとしてのクルーズ、ゆるやかなのんびりしているだけのクルーズではないというアピールが大事になってくると思う。一度体験した者としてはまた行きたいと必ず思うものなので、やはりはじめのハードルの部分を低くすることが

大事になってくるかと思う。

- クルーズは現時点ではまだまだあまり日本国民にはなじみが少ないと思うので、クルーズ体験をした私たちが旅行の手段の一つとしてクルーズという選択肢があるということ伝えていく必要があるのではないかと思います。クルーズの社会的意義とは、経済効果だけでなく、寄港地の地域の活性化が大きいと感じました。
- クルーズはインターネットが絶たれ、外部との連絡が取れず、非日常の生活が送れます。リフレッシュする環境としてもっと注目されるべきです。ただクルーズは乗ってみなければ良さが分からないので、もっと敷居を低くできればいいのになと思いました。高校生の修学旅行で使うなどとか。
- 今回の4泊5日のクルーズは日常生活を忘れてしまうようなものでした。船内でお喋りしたお客様も何人かいましたがみなさん本当に楽しそうで贅沢な非日常生活を満喫しておられるようでした。仕事や人間関係で神経を使っている現代人にとってこのように日常を忘れてリフレッシュすることはとても大切だと思います。本当に楽しかったのですが自分で行こうと思うと気になるのがやはり金額です。船の上で見かけるのはやはり上品なご高齢の方が多く印象でした。若い人たちはクルーズに行くという考えがまずあまりないと思います。国内一泊などの手軽な若者向けのプランをSNSやインターネットなどで宣伝することもいいのではと思います。クルーズというとお洒落なイメージがあるので記念日のデートや女性グループの旅行などに喜ばれるのではないかと思います。
- クルーズの乗客後、クルーズに関するニュースや記事を目にすることが増えました。その中でも、やはり境港における中国人観光客の影響はとても大きいとわかりました。クルーズなどの旅行に行く寄港地では、多くの方が買い物などをし、人によっては大量買いする人もいるのではないかと考えられます。通常の旅行は、大都市が中心で東京・大阪などに集中してしまいがちですが、日本海側や九州などがクルーズによって多くの外国人観光客の集客を可能にしているのは大きいのではないのでしょうか。若い世代ですが、今回は6月という時期であったため、私たち以外に見かけませんでした。大学生協との連携でよりアピールして、実施時期をもっと夏休みや9月という時期に開催すれば少しずつ増えていくのではないのでしょうか。
- 現在クルーズに行っている人は多くはシニア世代であるのでどれだけ若い世代を取り入れられるかという話がありましたが、若い世代をクルーズに乗せるにはきっかけが大事で、今回の僕たちのように実際に経験してもらうことが重要だと感じました。やはり若い世代は金銭的な余裕だけでなく休みも長期では難しいので今回よりも短期で、それでも楽しめるようなクルーズがあれば良いきっかけとなるんじゃないかと思いました。
- クルーズというものの自体の認知度がまず低いというのが問題だと考えます。若者が実際にクルーズを経験して、その魅力を伝えていくことが必要なのではないかと思

います。クルーズは気軽にできるものだとすることを認識する若者を増やすべきです。

- もっとクルーズの魅力を若者に知ってもらいたいと思います。旅行番組など、旅行に関する情報はメディアを通して今もたくさんあるが、クルーズに関しては少ないように思います。テレビなどで多く放送されると、興味を持つ人が増えるはずで、充実した船内だったので、リピーターもいると思います。（実際に、プリンセス号のなかで今回でクルーズは7回目だよ、などと言っている人と出会いました。）コストの面でも、実際の価格より高いと思い込んでいる人も多いと思います。
- クルーズ船が停泊する港やその地域に住む住民を含め、乗客やクルーすべての人を通じて、その地域に降り立ってみることで、なんらかの地域活性につながると思う。そこに存在意義があるのではないかと考える。
- クルーズには良くも悪くも高級なイメージがついていると思う。クルーズの旅行の申し込みの方法のわかりにくさ、長期的なクルーズのイメージ先行で日常生活とほど遠いだろうと思った。また、宿泊費や移動費、食費、エンターテイメント費がすべて料金込みになっていること、服装について、チップについてなどまとめてもらっている方が、旅行に踏み切れると思う。
- 日本におけるクルーズ船の利用が少ない一番の要因は、豪華客船＝高額というイメージにあると思う。そのため、「豪華客船はリッチ、しかし料金は意外にも手頃」などの、ギャップを推していけば、興味を持つ若年層が増えるのではないかと考える。
- 社会的意義は、休日を楽しむ一つの手段であり、老後の楽しみの一つでもあるのかなと今回船で出会った方を見て思いました。釜山に甲南生はおりなかったのですが、もう少し下船するところにもお店があってもよかったように感じました。見送る際にたくさん催しものをしてくださって楽しかったのですが、船が港に来る日は港を知ってもらいたい意味でも一日そこで地元の人が楽しめる何かをするのもいいのではないかなと思いました。
- クルーズもカジュアルになったと聞いたが、まだまだ高級感が溢れて一般庶民には息苦しかった。ただ、クルーの方も様々な国や地域の方やさまざまな年代の方と気軽にしゃべれる空間だったと思う。実際にエレベーターで母親より少し年上の方と音楽の話で盛り上がり、プールで泳ぎ方の指導をしていただいたりした。普段はそのような年代の方と進んで話そうとは思わないが、クルーズで心が緩んでいるから交流できることなのかなあと思った。
- 現在、若年層のクルーズ人口が少ないです。私も、今回が初めての参加でした。クルーズは少し高価で行きにくいイメージでした。しかし、実際乗ってみると、私たちでも十分楽しめました。そして、クルーズのイメージも変わりました。実際に乗って見ないと分からないことがたくさんあると思います。クルーズ船で旅をするというのが手を出しにくいと思うので、実際に船を見てもらい、説明を聞いてもらい、

イメージを変え、クルーズに参加してほしいと思います。

- はじめに、日本でのクルーズ市場が伸び悩む理由は、認知度の低さだと思います。私もそうでしたが、クルーズの存在は知っていても、実際にどういうものかがわからず、海外旅行といえば、飛行機以外思い浮かばない人がほとんどではないでしょうか。しかし、実際には、料金もそれほど高くなく、クルーズによっては数か国を旅することができ、移動も楽なので、好奇心旺盛な大学生にはぴったりだなと思いました。そこで、認知度あげるためにはもっとメディアへの露出が必要だと思います。テレビでも、クルーズの特集などはNHKやBSでたまに見かけるくらいで、民放ではあまり見たことがありません。一度メディアに大きく取り上げられると、少しずつ人気が高まっていくのではないかと思います。
- 現在、海外へ旅行に行くときには飛行機を利用する人がほとんどです。私も今回のクルーズに参加するまでは、クルーズでこんなに手軽に海外へ行くことが出来ることを知りませんでした。そのため、クルーズ振興のためには、認知度をあげることが一番大切だと思います。各自治体で行われているクルーズの普及活動を、幅広い世代の人に伝えることが出来れば、必ず乗客数は増加します。特に、クルーズは高価でとても乗ることが出来ないと考えている若者世代は、大きなマーケットになっていくと思います。
- クルーズ振興のために一番欠けているのは認知度だと思います。私は今回のクルーズのお話を聞くまでは、旅行について考えた際にクルーズという選択肢を視野に入れたことがありませんでした。そもそも船に乗って旅行をするという概念が無かったのです。しかし倉本先生からクルーズ船のお話を伺いすると、とても楽しそうですすぐに参加したいという気持ちになりました。なので、クルーズ利用者を増やすためには、クルーズ船というものがあるという事を多くの人に知ってもらう事が一番大切だと思います。特に今回乗船してみると、若い人や家族連れの利用があまり見られませんでした。今回の船が落ち着いた高級感のあるようなタイプの船だったことも関係があるかもしれませんが、時間を自由に使える大学生や、将来の利用を狙って子供たちに向けてアピールをすると効果があるのではないかと考えます。
- 若い人から見ると、クルーズ客船は値段が高く、高齢層の方向けのイメージが強いのです。乗船することで、どこでこのようなクルーズ客船を予約したらいいのか分かりづらいつ感じました。そのため、クルーズ客船に若者の方が来客されているのと、どこで予約を行っているのかをより推奨してくれれば良いと感じました。

第7部 <まとめ>

(1)クルーズ全般への感想、将来に向けての感想など

- ・ 韓国に行くこともあってMERSのことを最初はやはり不安に思っていたが、5日間体調を崩すこともなく有意義でかつ快適な時間を過ごすことができた。世界のクルーズ事情を木島社長から、日本の港湾の実態を各自治体の方からお話して頂く機会をうけ、自分たちのなかでもクルーズ船で旅行できるような長期休暇をとるための解決策を考える機会があり、学んだことが数多くあった。様々な人の発表を聞いていると自分もあのように人前で納得してもらえそうな発表をできるようになりたいと思い始め、刺激を受けたし、社会で実際に働く方のお話を聞いて自分の将来について考える機会も得られた。勉強だけではなく、船のなかでは普段できないような数々のエンターテインメントを思う存分満喫できた。将来このような素敵な旅を親にプレゼントできるようになりたいと密かに思っている。社会におけるクルーズ業界のあり方、港湾の機能など今後続けて学んでいくことができればいいと思っている。大学のゼミ内だけでなく、他大学の方や社会で働く方様々な人と意見交換できたことは貴重な経験であり、そして自分の成長につながっていくとも思う。今回このようなプログラムを企画し携わってくださった全ての方々に本当に感謝している。
- ・ 大学生の時に、クルーズを経験できたことは本当に貴重なことだと思います。今回のアカデミーでは、木島社長や地域の行政側の方のお話を聞くことが多かったのですが、次はぜひクルーズ客船の造船関係の方のお話も聞きたいと思いました。将来、社会人になって余暇の過ごすときには「クルーズ」を！と強く思いました。
- ・ クルーズでの5日間は、ゼミ生同士が仲を深めるのに最高の場であった。たっぷりの時間をみんなと過ごすことにより、先輩や同期とこれまで話せなかったことを話す機会になったことがうれしかった。来年度もクルーズに行きたいと思ったし、よりいろんな観点からクルーズも考えられるようになりたいと思った。
- ・ 自分は将来ライターになりたいと考えており、今回のクルーズでクルーズの魅力を伝えることができるような表現力を身につけ文に起こしたいと目標を立てていたが、クルーズ船が魅力的すぎ、また船内も充実しすぎており私のキャパシティでは対



処できないほどだった。今後は今回のクルーズ船の魅力を適切に語れるような文章力を身につけたい。ゼミのメンバーも話をできたり、メンバーの性格などを深く知れるいいきっかけとなった。そしてこのような特別な機会を与えてくださった赤井先生に心の底から感謝です。ありがとうございました。

- ・ 今回のクルーズでは、本当に何もかもが初めてで、考えるというよりも知ることにより手一杯な時間となりました。実際にクルーズに深く関わっている立場の方からお話を直接聞くというすごく貴重な機会もいただきましたし、普通では考えられない経験ができたという実感を実感に持ったので、それを記憶にとどめたまま、もし次の機会があれば今回の経験を経たからこそ得られるものを感じ取れるようにしたいと思います。何よりもとてもとても楽しかったので、将来はクルーズ産業に貢献するという名目で純粋にまたクルージングを楽しみたいと考えています。
- ・ 飛行機や新幹線などは単なる移動手段にすぎませんが、クルーズ船というのは、クルーズ船それ自体が観光地になりうる存在だと今回感じました。船内で友達と話してさらに仲良くなれたことが今回のクルーズアカデミーでの大きな財産だと思っています。今年は釜山のみ寄港でしたが、来年は複数の港に寄港してみたいとおもいました。
- ・ 今回のクルージングはいろいろな活動や食事を楽しんだこともとても有意義であったが、将来公務員を選択肢の一つとして考えている自分としては、北は青森から南は福岡まで様々な自治体の方々の話を聞くことができたのがとても有意義に感じられた。アカデミーの内容以外の事柄でもディナーで同じテーブルになった際にいる質問に答えてくださったり様々な話をしてくださったりと、とても刺激になる経験であった。
- ・ クルーズは、想像していたよりもはるかに楽しく、自分にとって非常に貴重な体験となりました。皆さんとは違い2日間ほどしか乗船することが出来ませんでしたでしたが、それでも、ほとんどのアクティビティなどに参加でき、非日常を味わうことができました。アカデミーに関しても、他大の皆さんと、楽しく、色んなアイデアを提案しながら考えていくのがとても楽しかったですし、刺激になりました。
- ・ 船の上で5日間時間を共にするという環境は、ゼミの仲間と親睦を深めるには非常に贅沢ですが最適な旅行であると感じます。昨年が続いて二度もこのような豪華な旅の機会を提供して頂き、最近では各地の港を比較して、「神戸はこうだ」「釜山はこうだ」という話をするようになっていくことに自分でも驚きました。ディナーのマナーやショーの経験も、日常生活では得難い財産になっていると思います。せっかくここまで船旅や港への愛着が生まれていますので、これから、ゼミの仲間との卒業旅行を始め、旅行を計画する際にはクルーズ客船を推していきたいと思っています。個人旅行で、乗るメンバーも変わればガラッと変わった船旅を経験することができるので、また必ずクルーズに乗りたいという思いです。

- ・クルーズは電波が通じない＝俗世間と隔絶された環境、であるが豪華な生活ができるという点で魅力がある。海外に行かなくても家の傍から発着する便利さもある。アカデミーでもこの環境を生かせるといいと感じた。調査はできない中、限られた情報や資料で判断するなどのほうがクルーズ船上でやる意義があると思う。
- ・普段は体験できないような貴重な体験をこのクルーズアカデミーでは体験することができました。ありがとうございました。今後もこの活動が続いていくことを願っています。私がこのクルーズで得られたものは、船内での経験はもちろん、他大学の学生との交流から得られたものも大きいです。今後ももっと参加校が増え、さらに活発な交流ができるプログラムが行われることを願っています。
- ・今回のクルーズに乗るにあたって、赤井先生をはじめ、各先生方にはMERSの対応や、スマート・クルーズ・アカデミーの運営など非常にお世話になり、とても感謝しています。木島社長をはじめ、カーニバルジャパンの皆様、各自治体の皆様にもスマート・クルーズ・アカデミーや事前準備などで大変お世話になり、非常に感謝しています。
- ・クルーズ客船に乗るのは2回目なので、前回と比較して楽しむことが出来た。会社が違う、もしくは船の種類が違うということだけで船内の楽しみ方は大きく変わるのだなと意外な気持ちだった。今回のダイヤモンド・プリンセスは前回に比べ若い世代、特に子育ての世代であるとか小学生くらいの子供、自分たちより少し年上くらいの人を見かけた。そういうの見かけて、少しずつクルーズに乗る客の層が高齢者からその下の世代に広がりつつあるのかなというように感じた。
- ・上記項目に大体のことは述べたが、今回のクルーズは前回と比べ、若い層が比較的多く乗船していたことに驚いた。新婚とみられるカップルや、子連れの親子など、まだまだクルーズ促進の余地を感じさせる船旅であった。日数が短かったことも大きな要因であると思う。今後は、欧米のような長期旅行というスタイルにとらわれず、日本流のクルーズ促進を進めていくことが賢明であるようにも感じた。
- ・クルーズでの生活は毎日充実していて楽しく、大満足でした。ゼミの仲間と仲良くなれてうれしかったです。旅行の手段の一つとしてクルーズという選択肢があるということを念頭においておこうと思いました。船内の年輩のお客さんとビュッフェを相席した際にお話をしたとき、その方たちは旅行仲間に来ていて、50歳くらいから旅行をして楽しんでいると聞いて、旅行ができる仲間っていいなあと感じました。私も旅行をたくさんして、視野を広げたいと思いました。
- ・初めての体験ばかりで刺激の多い日々でした。クルーズの上はインターネットも絶たれて、日常生活から完全に離れる事が出来ました。ただ神戸に戻った時、バイト先や部活の方へすぐ顔を出して仕事をしなくてはいけないことがたくさんありました。長期休暇を取得できない社会人の気持ちは少しわかります。人にはよりますが、日本人の性格からいって3～5日の期間しか連休は取れないと思います。クルーズの

対策として日本人に向けて短期クルーズの旅をもっと企画、広告してみてもいいのではないかと感じました。クルーズアカデミーを通じて、ひとりでアイデアを作ると考えが偏ってしまうこと、穴が多くなって最後まで詰められないこと、グループで行う重要性を改めて学ぶことが出来ました。これからこの経験を活かして、最後まで手を抜かず、リーダーとして動けるように頑張ります。

- 本当に素晴らしい体験をさせていただきありがとうございました。アカデミーでは自分たちの提案する案の不十分なところなども残りましたが、グループワークを進めていくにあたってお互いの意見の理解やタイムスケジュールの設定や役割分担など大切なことを学ぶことができたことは大きな収穫です。
- 船内での英会話で自分の英語力の乏しさを思い知り、reading・writingだけでなくもっとspeakingを鍛えなければと新たな課題を見つけることもできました。また5日間共に濃い時間を過ごし、ゼミのみんなとさらに仲良くなれたことがとても嬉しかったです。
- 今回6月下旬という時期であったことや、4月の初めに祖母が余命宣告されたことなどで参加に関してすごく悩みましたが、今回参加してよかった満足したと思うことができる5日間でした。まず、非現実的な毎日のようにおいしいご飯を食べられて、楽しむことができる施設があり毎日が素晴らしかったです。クルーズに際して、韓国船の沈没などがあり、安全面では大丈夫かなと思いましたが、大雨の中少し揺れているだけでしたので乗船中は不安もありませんでした。今後クルーズに乗りたいかと聞かれたら、「Yes」の一択しかなく、私の家族や友人などと一緒に乗って、楽しんでいきたいなと思いました。将来、親に感謝を示すために旅行に連れて行くとしたら、このような素晴らしい船でのクルーズに行きたいです。素晴らしい機会をありがとうございました。
- 今回のクルーズで初めてのことばかりでとても新鮮で貴重な経験ができました。その中でも他大学の学生との交流や外国人との交流は自分にとってとても大きな刺激になりました。もっと勉強しなければいけないなと思うことも多くありましたし、全然足りていないと感じることも多くありました。特に英語はこれまでは嫌いではなかったが、かきにしていましたが勉強したいと思うようになりました。また来年も機会があればぜひ参加したいと考えていますし、自分が社会人になってもクルーズに行きたいと感じました。
- このゼミに所属していなければ、クルーズというものを一生経験せずにいたかもしれません。クルーズアカデミーを企画してくださった先生方にはとても感謝しています。この経験を大いに生かして自分の将来に繋げていきたいです。
- 初めてのクルーズ旅行、とても楽しかったです。毎日充実していました。アカデミーも同じ学生でも、自分では考えないような意見をもっていたり、刺激を受けることができました。非日常的な船内も忘れられません。家族や友達にもクルーズ旅行

を勧めています。クルーズに参加するきっかけをつくってくださった先生方に感謝しています。ありがとうございました。

- このクルーズアカデミーは大学生活のなかでもとても大きな経験だったと言えるくらい貴重な体験だったと思う。様々な人たちと交流し、刺激をもらい、自分のこれからの生活に何らかの影響を与えてくれるきっかけになったと思う。来年には就職活動を控えているが、将来のことはぼんやりとしか考えてないから、しっかり考えようと思える良い機会にもなった。なによりもゼミ内での仲がとても深まったと思う。この旅を通じて、本当に周りの環境に恵まれていることを実感し、感謝したいと思った。
- 今回このような貴重な機会を与えていただきましたことに感謝しています。このような形で出会わなければクルージングに自分から申し込み行く機会があったのかと考えたとき、おそらくなかったなかつたのではと思います。今回が思いのほか楽しかったこともあり、卒業旅行などイベントの時には旅行の選択の範囲に入れるのもいいかなと実感しました
- 5日間、陸を離れ、外部との通信を切り、現実から解放された気分を味わえたのは、初めてであった。そしてドレスコードやダンス、またアフタヌーンティーにおける相席などにより、乗船客同士の距離が近かったこと、クルーとの距離が近かったことにより、寂しさを感じなかった。また、学生の立場としては、ディナーの際、勇気を持って、自治体の方や岡田氏と同じテーブルに着席したことで、多くのお話をして頂いたことが印象に残っている。豪華客船という、自分が全く知り得なかった世界を実際に体験したことで、また人生の引き出しが増えたと確信している。将来も是非、クルーズに関わりたいし、もう一度乗船したいと思っている。そのため、豪華客船に乗れるほどの休暇を、社会人として取れるにはどのような企業に入るべきなのか、就活において熟考したいと思う。
- 今回クルーズに乗って今までの選択肢になかった旅行の仕方があることがわかりました。今まで知らなかったことが悔やまれるくらいとても良い思い出になりました。また必ずクルーズ船にのりたいです。比較的年齢層の高い方が多かったので、おじいちゃんやおばあちゃんにお勧めしたいと思いました。
- 今回、学校の授業を休まなければいけなかったので参加するかとても悩んだが、今回行かなかったら二度とクルーズに行かないなあと思い、決意した。クルーズのア



クテビティもとても楽しかったが、他の大学との交流、行政の方やカーニバルジャパンの社員の方と今後働くことについて話したことが一番刺激を受けた。自分の価値観、生活を改めて見つめなおすいい機会になったと思います。このような貴重な時間を提供していただいた先生方、カーニバルジャパンの木島社長に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

- 今回のクルーズは初めての参加でしたが、イメージが変わりました。部屋にテレビがあり最新の映画や、私が見たかった映画があったので大変嬉しかったです。天気が悪く、航海中の景色が少し悪かったのが残念でした。しかし、出港する時、釜山の時、帰港した時は雨が降っていなかったので、そこは良かったと思います。初めての参加でしたが、また必ず参加したいと思っています。今回は少し短く感じたので、次は10日間ほどのクルーズに参加したいと思っています。また、実際にクルーズに乗って感じた事を周りの方にお話しし、少しでも多くの人にクルーズに興味を持っていただきたいと思っています。
- 今回のクルーズアカデミーで、私はまたクルーズ船に乗りたいたいなと思いました。移動がとても楽で、食事のことも考えなくてよいですし、船内でのアクティビティも充実しています。そして何より、手ごろな値段で、いろんな国を回れることが、個人的にはとても魅力的だと思いました。大学生にはまさにピッタリな旅の形であると思います。また、シニア層が大半を占めるクルーズですが、船内では家族連れ向けのサービスもありますし、もっといろんな世代の人が体験したらいいのになと思います。ただ、ティーンや20代が楽しめるものは、少し少ないようにも感じたので、若い人を呼ぼうとするクルーズ船の課題だと思います。
- 今回のスマート・クルーズ・アカデミーに参加したことによって、日常生活では体験することのできない貴重な経験ができました。乗船していた5日間は普段の生活を忘れ、毎日が楽しくあっという間に時間が過ぎていきました。他大学の学生とグループワークをしたり、ショーやパーティーに参加したことで、視野が広がったようにも感じます。私はクルーズを楽しむだけではなく、様々な人との交流ができるところがスマート・クルーズ・アカデミーの良さだと思いました。今後は旅行先を選ぶときに、値段が手ごろでゆったりと船旅を楽しむことが出来るクルーズも候補に入れていきたいと考えています。
- 今回のクルーズで私の人生観がとても広がったように思います。何もかもが新しい経験でとても楽しかったです。他大学の方との繋がりも出来ましたし、毎日のショーや豪華な内装の船内にとっても刺激がありました。こんなに素敵な旅行ができるのに、今まで全然知らなかったことをとても残念に思いましたし、周りの友達にも是非知ってもらいたいと思いました。特に最終日は朝方までずっとバルコニーに出て友達と話をしていました。朝日が昇ってくるのを見て本当にきれいで、とても感動しました。今は6月に戻りたいと心底思っています。また、時間が取れたら船での

旅行を楽しみたいと思います。今回はこのような機会をいただきありがとうございました。

- クルーズ客船のイメージがガラッと変わりました。このような機会を頂く前までは、クルーズは一生乗ることはないだろうと考えていました。実際に体験すると、旅行でもクルーズに乗船できるという身近なものに感じました。
- 今回のクルーズでは、かつて経験したことのない豪華な船旅を経験することが出来ました。また、日本発着のクルーズであったのに関わらず、一定数外国の方が乗船していました。このことから、現在の訪日外国人の増大に伴って日本発着便の利用者は増加に向かうことが伺われました。しかし、日本人乗客については若年層の多くが「スマート・クルーズ・アカデミー」の参加者であったように思われます。このことから、クルーズ人口が増大している現在でも客層の幅が限られたものになってしまっていることが伺われました。クルーズ利用者の多くが比較的高齢な方で占められていることは、その「高齢の方のクルーズ文化」が下の代に引き継がれなかった場合、クルーズ利用者の大幅な減少が見込まれます。私が、5日間のクルーズで感じた上記の危うさを解決するために「新たに高齢層になる方へのクルーズ振興」「若者へのクルーズ振興」を確実に進めていくことが将来のクルーズに求められる課題であると感じました。
- 本当に楽しかったし、行ってよかった。アカデミーはプレッシャーだったけれど、アカデミーがあったからこそ他のアクティビティを存分に楽しむことができた。個人的な話だけれども、4回生で参加するのが私一人だけだったこともあり、馴染めるかどうかという不安もあった。実際にはみんな受け入れてくれたし、4回生が一人だけだったことで後輩とも仲良くなることができたと思う。何事も、いいなと思ったことは続けてやってみることでさらなる発見があるし、どんな経験も自分のものになると思った。将来的にはオブザーバーとしてまたスマート・クルーズ・アカデミーに参加したいと思う。また開催されるであろうクルーズ同窓会も楽しみだし、船の外でアカデミーの仲間と個人的に交流するのもとても楽しみ。出会いはその場限りのものではなく、続けていってこそ価値が生まれるものだとも思う。